

演劇ぶっく

ENTERTAINMENT
P H O T O
M A G A Z I N E

12

中村橋之助 安田顕
中嶋朋子 上田誠
岩崎大真 飛聖
畑中智行 風間俊介

DEC.2006 vol.124 750yen



特報! 大人計画フェスティバル

ロングインタビュー 野田 秀 樹

〔表紙のヒト〕 塚本晋也 × 加瀬 亮



演劇ぶっく第2巻第6号通巻124号 平成18年11月9日発行(隔月9日発行)

PARCO
presents

オリガト・プラスティコ

『漂う電球』

| 岡田義徳×高橋一生 |

『噂の男』

| 堺雅人×橋本じゅん×橋本さとし |

新感線☆NEXUS

『Cat in the Red Boots』

| 生田斗真×栗根まこと |

- 002  【スロウライダー】Maggie 山中隆次郎
- 004  【少年王者館】I KILL ーイキルー 天野天街

006



特報!
大人計画フェスティバル

014



【SHINKANSEN☆NEXUS vol.2】
Cat in the Red Boots
生田斗真・栗根まこと

018



【ペンギンパイルパイルズ】
道子の調査
小林高鹿・ぼくもとさきこ

022



【ヨーロッパ企画】
ブルーバード・ブリーダーズ
上田誠・石田剛太・酒井善史
永野宗典・松田暢子・山脇唯

026



蒲田行進曲
風間俊介

030



【PARCO Presents】
噂の男
堺雅人・橋本じゅん
橋本さとし

032



魔界転生
中村橋之助

034



【シス・カンパニー公演】
狼のゆりかご
青木豪・安田顕

036



オ레스テス
中嶋朋子

038



アジアの女
富田靖子

040



【演劇キックプロデュース】
きらめく星座
大久保綾乃・間瀬英正

042



【オリガト・プラスティコ】
漂う電球
岡田義徳・高橋一生

044



【Studio Life】
夏の夜の夢
岩崎大

046



【宝塚歌劇団花組】
ファントム
真飛聖

054



【イクメン】
PLAYeR
前川知大

055



【TPT】
バックアイ
月船さらら

060



【ロングインタビュー】
野田秀樹

066



【表紙のヒト】
塚本晋也・加瀬亮

- 048 【えんぶ何でも研究／レボファン】レポートVol.7
お台場フェス対策緊急会議!
- 050 【えんぶ何でも研究／レボファン】レポートVol.8
時をかけるコメディ「ナイス・エイジ」にまつわるエトセトラ
- 052 【CLOSE-UP STAGE】【少年ラヂオ】畑中智行
- 056 【シバイのミカタ】
中野成樹＋フランケンズ／蜻蛉玉／渡辺源四郎商店 and more!
- 058 【シバイのミカタ〜チケブレ編〜】
山の手事情社／コンドルズ／KAKUTA and more!
- 069 【特捜!えんぶスクープ関西版】吉永美和子

- 070 【TEAM NACS presents 大感激ぶっく】大泉洋
- 071 【束から1枚／7】久住昌之
- 072 【インディ高橋のPatchy小道具研究所R／24】
- 073 【日本 対 俺】赤堀雅秋
【どれ、ここでひとつ洋楽とやらを】上田誠
- 074 【素晴らしきギャグ人生2006／44】西川浩幸
- 075 【栗根まことの人物ウォッチング／市川しんぺー】
- 076 【ENBUゼミニュース】
- 082 【シバイのミカタ+】公演データ編(11月9日～1月10日)
- 088 【フロム・リーダース／プレゼント広場】

ENBUゼミナール

演劇ぶっくが運営するエンタテインメントスクール

演劇コース 夜間部 一年制 昼間部

2007年春
(5月開講)
11/25より

願書受付
開始!!

自分を知って
チャンスを
つかむ!

いま舞台上で活躍しているのは、あたり前ですが「魅力」のある俳優たちです。自分がどんな表現が好きなのか、どんな表現に向いているのか、どんな表現を求められる存在なのか、それらをきちんと自覚することによって、自分の魅力を最大限に活かした表現をすることができます。今回の演劇コースは、様々なタイプの演劇に挑戦することで「自分だけの表現」を探り、自分の「魅力」に気付くためのカリキュラム。長い時間をかけても体験できないような様々な表現方法を、一年間で凝縮して経験することができるのがENBUゼミナールなのです。

基礎講座

基礎をしっかりと学ぶことで、自分の理想とする表現ができる身体づくりと豊かな発想力を養います。

●ヴォイストレーニング

発声、ストレッチ、筋肉トレーニング、リズム練習などを通して、自分自身の声のこと、身体のことを学びます。

●演技基礎

演技をする上での基礎的なノウハウを学び、実際に演じてみることで、表現の基礎を身につけていきます。

●ダンス

表現の可能性を広げることはもちろん、役者として舞台上立つ際に役立つリズム感を培います。



スタジオ実習

様々なジャンルの演劇に挑戦し、自分の苦手な表現、得意な表現を探っていきます。

ウェルメイド

台本をしっかりと読み解き演じるといふ、最も基本的なお芝居を学びます。



コメディ

最も難しいとされている、「笑い」の演技について学びます。



ミュージカル

歌、ダンス、演技を組み合わせ、エンタテインメントに挑戦します。



※写真はイメージです。

特別講義

表現の世界をリードする方々の体験談。それぞれの駆け出しの頃、現在の仕事のことも、ここでしか聞けない貴重なお話をうかがえます。

- ・劇作家、演出家による講義
- ・プロデューサーによる講義
- ・俳優による講義
- ・演劇制作講座
- ・オーディション講座 など

劇場公演

プロの演出家のもと舞台作品をつくり、外部劇場で上演します。この一年間で培った自分の表現を活かす場でもあります。



演劇コースの詳細は

76,77 ページ

演劇コースのほか映像俳優コース(78ページ)、映画監督&映像ディレクター専攻(79ページ)開講!

演劇ぶっくが運営するエンタテインメントスクール

ENBUゼミナール

〒160-0005 東京都新宿区愛住町13-10

<http://www.enbu.co.jp/zemi/>

資料請求・学校説明会
は無料!

お問い合わせ TEL: 03-5366-7588

E-mail: zemi_info@enbu.co.jp



スロウライダー
Maggie

作・演出・出演 山中隆次郎 出演 児島
貴志 (THE SHAMPOO HAT) 日下部 真
リン (記憶舎) 笠野 鈴々音 (風琴工房) 小田 和
香子 (ベターガールズ) 佐々木 光 (劇団) 夏
目 雄也 (東京テスロック) 芦原 健介 (劇団) 9/13~18 下北沢駅前劇場

嫌いなタイプの同僚「マギー」に告白されてしまい、バイトを無断欠席している垂池(日下部 真)は、実家の親の視線に耐えられず先妻である向井(児島貴志)の家に転がり込んだ。特にすることもない垂池は1人になると食いつく小説「西瓜糖の日々」を読みふける。小説の中のユートピアに自らの理想をシミュレーションする彼は、自分の思い通りに運ばない現実に対し鬱屈を募らせていくのだが――。

『スロウライダー』 Maggieの 脱却という痛み

ホラーテイストを多く含んだ作風で、人間の業や暗部を描き出してきたスロウライダー。近年はコミュニケーションの崩壊を匂わせる作品が続き、そこに劇団としてのこだわりを感じさせたが、今作では“コミュニケーションからの脱却”という、崩壊の一步先へ物語を延長させた。自ら「意識の変化があった」と語った作・演出の山中隆次郎は、また新たな場所を見つめているようだ――。

コミュニケーションに ならざるを得ない時代

『Maggie』を書くきっかけとなった『西瓜糖の日々』という小説は、ヒッピームーブメント全盛時にヒッピーを中心に支持されたお話なんですけれども、僕は今の日本の若い人がもっている感覚と非常に近いものがあると思っています。“西瓜糖で全てのエネルギーを賄うユートピア”でのお話で、要は今という口ハズミみたいなものを信念とするコミュニケーションをテーマにしているんですね。今の日本ってあまりにも価値観が多様化していて、それらが互いの価値観を食い合

ちやうから、結果的にその価値観を核としたコミュニケーションが出来上がらざるを得ないんですよね。そのコミュニケーションは永遠に続くものではなく、そこでの価値観をある程度相対化しつつ、うまく折り合いをつけて生きていくということが“社会性”を持つことに繋がってくると思うんですけど、そこでの価値観が否定されることがすごく怖いから、結局そこから逃げる意味でもまた新たなコミュニケーションが出来上がっちゃうんだらうなという気がするんです。各々の趣味嗜好とか個人の価値観がこれだけばらばらになっちゃうと、やはりコミュニケーションが多発せざるを得ないというか。でも、実はそれってそんなにハッピーなこと

じゃないんじゃないかなって僕は感じるんです。

スロウライダーにあるまじき 見やすさでした

今回は、現実と虚像の話がひとつの物語としてお互いに影響を及ぼしあって駆動していくというスタイルにしました。現実と空想をただ交互に進行させるだけではどうしても物語の速度が落ちてしまうんです。スロウライダーの作品は分りにくいという感想をよく聞くんですけど、その点では過去のスロウライダーの作品にあるまじき見やすさでした(笑)。僕自身としては、分り

にくい話や1度観ただけでは訳が分からない話が好きなので、ついそういう風になっちゃったんですけど、別に難解さが一番の売りということでもないですね。ストーリーをシンプルにしてどこまで出来るんだらう? ということでチャレンジしてみた作品ですね。

受容の話が 書きたかった

今までのスロウライダーでは、悪意とか、人の本質は本当にくだらなくて動物と変わらないよとか、人間の精神的なリアルイコール暗部だとか、そういう悪意的な作

品を書いて悦に入っていたんですけど、今は悪意とか人間が醜いというだけの話ではかっこいいと思えなくなってきていて。僕の中では今回、受容の話が書きたかったんです。どんなにくだらない人間でも、誰かによって必要とされていたりとか、気にかけてくれる人がいるということもひとつの現実なわけで、実はそっちの方がまわりまわって“より痛い”と思うんですよ。だから人は死ねないんだらうし、生きていかざるを得ないんだらうし……。それはある意味めんどくさいことでもあるんですけど、そこに希望があるんじゃないかと最近では思います。



山中隆次郎

やまなかりゅうじろう 1977年生まれ、鹿児島県出身。01年、主宰制作の三好佐智子、俳優の芦原健介と共にスロウライダーを旗揚げ。以降、全ての作品の作・演出を務める。ボツドール、チェルフィッシュなど今注目の若手劇団公演に出演するなど、俳優としても活躍している。

次回予定 岡田利規作・演出『エンジョイ』(出演) 12/7~23 新国立劇場小劇場 THE LOFT スロウライダー『アダム・スキー(再演)』(作・演出) 07/16~25 三鷹市芸術文化センター 星のホール

抽象的なことをやる難しさ

今回は、「なにもしない」ということをどうやったら表現できるか、ということを考えてやってみました。つまり物語とかそういうものじゃなくて、ともかく時間と時間の隙間を埋めていったり、なぜなのかということだけをやっていこうと思ったので、なかなか書けなくて。書くことがないというよりも、やろうとすることが「書けない」んですよ。すごく抽象的なことを表現しようとしていたので。一瞬一瞬すべてがフィードバックしながら進んでいく、「進む」と言ってもなにが進んでいるのかかわからない、というような。観終わってからの芝居をフィードバックしようとしても、あまりなにが起こったのか像が結ばない、具体的に思い出そうとしても繋がらない……というようなことがあったんですよ。

ただそのせいで今回は脚本が遅れに遅れて。名古屋公演では、最初と最後のシーンだけ作って、中抜きの状態で最初の3、4日やっちゃったんです。本番中に、真ん中の部分がどんどん連載ものみたいに増えていくような状態でした。脚本が遅れたことに対して悔いは残ってます。脚本ができた段階ですぐ本番もできる、というふうには書かないと間に合わないから、とにかく脚本には、細かい指定や役者の立ち位置なんかの演出的なことも含めてすべて書きました。役者たちは、ぎりぎりに脚本が上がってもすぐに対応できるような身体ができた状態になっているんです。それは脚本が遅れてしまうから、そうやってしまっているということもあります。

「完成」はしないし、「正解」はない
自分の書いたものを実際に舞台にのせた

ときに、自分のイメージと合ってるのか違ってるのかよくわからない(笑)。つまりなにが正解かということがない。こういうイメージがあるからそれを舞台にしよう、ということではないんです。書いてるときは、もうしょうがないという状態で書くので、本番もただ書いた通りになるというふうにはしかならない。自分としてはそれも狭い話になってしまうと思って。脚本を書いた状態でもう本番と同じことになっちゃってるので、広がりがあまりないんですよ。もっともっと広げたいから粘ったのに、もうしょうがないや、という状態なんですよ。

また、今回、ひとつの台詞の最後と次の台詞の頭を重ねたりしてますけど、そうすると役者はそれしかできないわけですよ。リズムとかが脚本通りになっちゃって、役者

のほうでどうこうということがすごくやりにくくなってしまうんです。そこで役者やいろんなものとの化学変化、別のものがぶつと生まれる可能性、というものがだいぶん狭められてしまっている。それはそれでひとつのものとして僕はやろうとしたんですけど、それをずっとやってきた結果、ちょっと一旦やめてみようかな、と思うようになりました。大変だからというよりも、逆に楽すぎて。役者も大変は大変ですけども、脚本通りにやっちゃえばいいという楽さがある。一個のものから、もっと別のものが生まれる可能性を消してしまっている部分があるんじゃないかと反省しました。なので、次回公演は僕は書かずに、劇団員(虎馬鯨)が脚本を書くということにしました。僕が書くというのを一回やめることで、少年王者館の別の方向性を探してみたいなと。

ひとときの夢。あるいはなにかとなにかの中間にあるもやっとしたもの——。
様々に変容する言葉と、脈絡なく入る独特のゆっくりダンス、ときに役者の動きとシンクロする映像、
そのすべてがグルーブとなって、観る者の意識に侵食していく。
しかしその実体を掴もうとすると、まるで指の間をこぼれ落ちる砂のように、さらさらと溶けていく。
少年王者館には、明確な回答もなければ完成もない。
ただ舞台を観ている間だけ、その濃密すぎる至福の空間を味わうことができるのだ——。

『少年王者館』 I KILL——イキルの 果てしない時空間と 存在の不確かさ



天野天街

あまのてんがい 60年生まれ、愛知県出身。82年に劇団少年王者(後に少年王者館と改名)を旗揚げし、以後全ての作品の作・演出を務める。98年より演劇ユニットKUDAN Projectを始動、海外公演を開始する。

次回予定 山見★事務所「浮世混浴 鼠小僧次郎吉」(演出)07/1/24~2/5
◎Space早稲田、2/9~12 ◎精華小学校、2/15~18 ◎セツ寺共同スタジオ ◎ITO PROJECT系あやつり芝居「平太郎 化物日記」(脚本・演出)07/2/17~18 ◎ザ・スズナリ ◎KUDAN Project「美藝公」(脚本・演出)07年3月 ◎ザ・スズナリ、セツ寺共同スタジオ



少年王者館 I KILL ——イキル

作・演出 天野天街 出演 夕花 山本亜千子 白崎文子 丹羽純子 サカエミサ 日守達子 黒宮万理 雪港 ひのみく 水元洸色 山田マキオ カシワナオミ 虎馬鯨 松田孝義 蓮子正和 谷之 小林夢二 池田遼 竹内大介 藤沼大 水谷ノブ 井村昂 宮村亜理(NAGOYA) 7/14~23 ◎セツ寺共同スタジオ、8/1~6 ◎精華小劇場、8/16~20 ◎下北沢ザ・スズナリ

いつかわからないとき、どこかわからない場所に、一部(水谷ノブ)はひとりいる。家族はどこか違うところにいるようだ。そもそも自分は誰なのだろう?言葉が解伴され、時空がグルーブし、イチロウは無限に分裂していく。虚無が広がり、再構築され続ける言葉とともに、世界は溶けていく——。





気になっていた! 行きたかった!
疲れた! そして、楽しかった!!——。
色々な声をたくさん聞いた、
大人計画フェスティバル。
だから、やります。
特報! 大人計画フェスティバル!!

大人計画フェスティバル

～今日は珍しく! 昨日より珍しく!～

出演◎松尾スズキ 宮藤官九郎 池津祥子 伊勢志摩 顔田顔彦 矢
戸美和公 阿部サダヲ 宮崎吐夢 猫背椿 菅川暁時 村杉輝之介 田
村たけみ 荒川良々 近藤公園 平岩紙 正名僕蔵 三宅弘城 新井重
樹 井口昇 細川徹 少路勇介 星野源 他
9/9～10◎旧西落合中学校



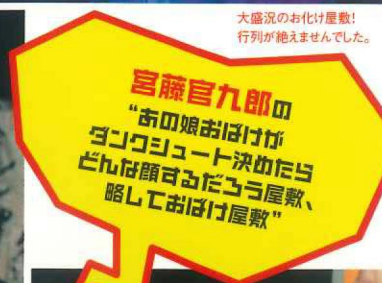
松尾スズキと
“マアゼムコーラス”



松尾スズキの指揮者っぴりが炸裂!



大盛況のおけ屋敷!
行列が絶えませんでした。



宮藤官九郎の
“おの娘おほけが
ゴングシュート決めたら
どんな顔するだろう屋敷、
略しておけ屋敷”



荒川良々・
近藤公園の
“学園高一期一会”



2人の表情が
その真剣さを物語る。





Kaohiko
JAPANの
“これない遊園地”

顔田顔彦のハイテンションマジックショー



池津祥子の
“課外授業”

意外と真面目な人生相談を受けるマドンナ先生こと池津祥子。



檻を覗くと中にはこんな動物が！

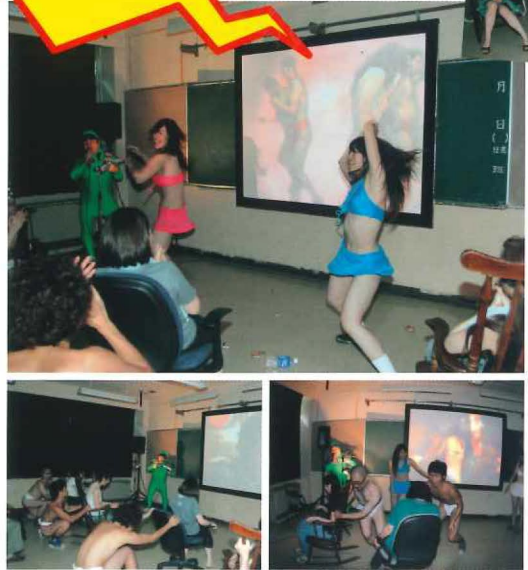
こども動物園

正名僕蔵の
“大運動会”

大運動会は1人芝居を上演。



井口昇の
“経験シアター オトナラマ
～505!
地球爆破を決行せよ！～”



手動型アトラクション・経験シアターオトナラマ。映像に合わせて椅子を動かします。

突撃！
ドッジボール大会

すごい人ばかりでした。
白熱したドッジボール大会。



三宅弘城の
“神出鬼没
手作り冷尻冷尻チョコバナナ”

買った人はラッキー。神出鬼没のチョコバナナ。

グループ魂 in 体育館
～体調のすぐれない女子は見学～

体育館ではライブ系イベントが目白押しでした。

松尾スズキの
“なんの変哲もない
似顔絵屋”



手作りTシャツを販売。ホッと一息懸いの森。

宗戸美和公の
“美和公の森”

女装、着付け、etc……。宮崎吐夢ワールドを堪能。



宮崎吐夢の
“オーガム・カルチャースクール
コンラウ上の女性を目指す
スペシャルプログラム
(もちろん男性も大歓迎。
コンちゃん、ネコちゃんも)”



これは世界唯一の似顔絵屋でしょう。さすがです。

猫背権の
“バー権”



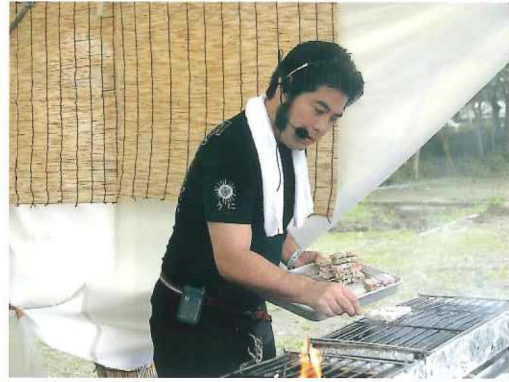
ショータイムが素敵でした。バー権。

特別鼎談 大人計画 フェスティバルを 振り返る!

あんなに写真を撮られたのは
初めてでしたね

まず、改めてフェスの感想をお聞かせ下さい。
皆川 今思い返すと、ほんと夢みたいでしたね。『串タロー』で串焼きを焼いている時なんか特にそうだったんですけど、あんまり僕に興味が無い人達も、なんとなんて流れてどんどん写真が撮られていくんですよ。あんなに写真を撮られたのは初めてでしたね。複雑でしたけど、はい。串焼きは全部で2000本くらい焼いたんですけど、もうね、煙がすごくて、目が痛くなって涙が止まらなくなっちゃって、そしたら今度は鼻水が止まらなくなっちゃって、初めはちゃんと拭いてたんですけど、途中からどうでもよくなって、そのうち前髪が燃えたりとか(笑)。もうね、だんだん心がなくなっていくんですね。カメラ向けられて、かっこいい顔してるつもりなんだけど、鼻水たれてるという。残念でしたね(笑)。

平岩 私は体育館のステージで「紙オケ」という吹奏楽の演奏をやらせて頂いたんですが、もう本番までは不安で不安で……。演奏するだけでお客さんは喜んでくれるのかな? とか思ったり。でも、本番で演奏したらお客さんがすごい拍手をしてくださったので、最終日はほんとにたのしく、自分が泣くとは思わなかったんです。



目が真剣です。皆川 猿時

プレビュー公演も含めて、
怒濤の3日間となった大人計画フェスティバル。
やはり実際にイベントを切り盛りした方の
生の声を聞きたい!! ということで、
このお三方にお集まり頂きました。
串焼きを焼きながら、楽器を演奏しながら、
ドッジボールに燃えながら、
あの日あの時あの場所でご一緒した出演者達は、
こんなことを考えていました。

いつか機会があればやりたいなと思いますね。
目を合わせるのも
可哀想だなと思って(笑)

皆川 色んな出し物に参加しましたが、実際のところお客さんはどう思ってるのとか、結構不安だったよね。
近藤 これも動物園とかですか? (笑)。
皆川 あれはよくなかったよね(笑)。
平岩 ちっちゃい子が来て、帰る直前にお母さんに「たいしたことがあったね」って。それを聞いて「明日は頑張ろう」と思いました。

皆川 え? 2回やったの?
平岩 全部で3回やりましたよ。
皆川 えー、かわいそうに。
近藤 ちなみにどうしてなの?
平岩 普通に素でいいから、猿を演じる(平岩さんは猿に仮装というところもなく普通で)。でも実際にやってみたら、中途半端な猿になっていました。

皆川 普通ではいられないですよ。暑い最中に毛皮の着ぐるみで30分ですよ。僕は犬を1回だけやりましたが、とりあえず習字の道具を用意しておいてくれた。なんでそう言ったのか、理由は全く覚えてないんだけど(笑)。で、お客さんが入って来たから、とりあえず「わんわん」って吠えたのね。犬だから。そしたら「わんわん」って吠えないと自分が保てなくなっちゃって。ずいぶん「ワンワンワンワン」って吠えてたら過呼吸になってきちゃって(笑)。そんなに吠えないよね、本物の犬。きつかったよね。結局習字道具全然使ってないし(笑)。もう邪魔魔ーとか思いながら。

平岩 私も折り紙を置いてもらっていたんですけど、結果的には全然使わなくて。折るうとして「ずい」と「何作るんだろ?」って思われちゃ



ただ今仮装中! 平岩紙



ガチンコ勝負! 近藤公園

うし(笑)。あと、お子さんとか見に来てくれて、私の恰好が毛むくじやだから怖くて泣いてちゃうんですよ。目を合わせた途端に泣いちゃうから、目を合わせるのも可哀想だなと思って(笑)。

多摩キヤッツにするべきだった

——ドッジボールはいかがでした?
近藤 予想以上にギャラリィのお客さんがいらして、そのうすうすでも動物園と一緒に、ただドッジボールをするだけじゃなく見せ物にしないといけないという意識が働くんですよ。で、阿部さんとかはお客さんを盛り上げたり沸かせたりするの上手いじゃないですか。僕はあまりそういうことに慣れてないので、きつかったですね。最終日、ドッジボールを仕切ってくれたスタッフ

たまにはものすごく 疲れることも 必要なのかな

——お話を尽きませんが、最後にこのフェスティバルの総括を言っておきます。
皆川 あれですね、制作発表の時に松尾さんが「さらし者になるんだ」みたいなことを言っていたと思うんですけど、本当にさらし者になりました(笑)。大汗かいて、鼻水たらして、火傷して、前髪燃やして、ほんと疲れました。エンディングステージが終わった時とか、みんな疲れ果てて誰も口きいてなかったし(笑)。
近藤 そうですね(笑)。
皆川 あれも面白かったね。なんか、あれですね、たまにはものすごく疲れることも必要なのかなって思いました(笑)。
平岩 最近そういうのが無かったから、面白かったですね。たった3日間の間に、泣いたり吐いたり……。やつて良かったと思います。

近藤 大人計画の芝居を観たことないお客さんや、ちっちゃいお子さんも多く来て頂いたフェスでしたし、下手したらトラウマになリかねないようなものだったかもしれないですけど、僕自身は楽しかったのでもう1回くらいはやりたいなと思う気持ちもあるんですけどね。
——紙オケとか落語とか、単体のイベントとして開催してもらえたら嬉しいですね!
皆川 そうですね。僕も串タローに就職すればいいし(笑)。



平岩紙 ひらいわかみ○79年生まれ、大阪府出身。00年より大人計画に参加。02年にドラマ「木更津キャッツアイ」でのミ子役が好評を博し、その後、映像分野への出演が続いている。ちなみに今回の「紙オケ」は今後も活動していくとのこと。
次回予定○ウーマンリブVOL.10「ウーマンリブ先生」11/2～19◎池袋サンシャイン劇場
◎映画「木更津キャッツアイ〜ワールドシリーズ〜」公開中 ◎映画「LOVE MY LIFE」07年お正月公開

皆川猿時 みながわさとし○71年生まれ、福島県出身。94年より大人計画に参加。04年のウーマンリブ本公演では主演を務める。他に「港カナル」という名前でグループ魂のMCを担当したり、映画、ドラマ、CMなど多方面で活動している。
次回予定○ウーマンリブVOL.10「ウーマンリブ先生」11/2～19◎池袋サンシャイン劇場
◎TBSラジオ「キック・ザ・カンクロー」毎週日曜22:00～ ◎映画「バイラルドライブ」07年公開予定 ◎グループ魂ミニアルバム「魂とロック」12/6リリース

近藤公園 こんどうこうえん○78年生まれ、愛知県出身。00年より大人計画に参加。同年に映画「ウォーターボーイズ」でスクリーンデビューを果たし、近年も映画・ドラマなどに多数出演するなど、映像分野での活躍も目立つ。
次回予定○映画「武士の一分」12月より丸の内ピカデリー1ほか全国公開◎ドラマ「だめカンタービレ」フジテレビ系月曜21:00～

演劇ぶっく社全面協力の携帯サイト「演劇モバイル」
でもインタビューを配信!詳しくは80ページをチェック!

伊藤修子&成田さほ子 大人計画フェスティバル 体験レポート

やってまいりました! 大の大人の学園祭!
多摩市をあげてのビックフェス!!
大人計画フェスティバル in 多摩センター
(小田急線唐木田行!!)。
今回は拙者ムニエルの子ビ2人、
伊藤と成田がこの初秋のビックフェスをレポートします!



10:00 AM、晴天。すでにつきさるような陽ざしの中、グラウンド中央に設置された野外ステージでオーブニングイベントがスタート。背が低いので人の頭と頭の間からかるうじて役者さんをチェック。黄色い声援が飛んでるなーと思ったら阿部サラさんの登場でした。「まあ、超かわいい」。私の隣にいた人の感想です。



さてさて、とりあえずは校舎の中からまわるうか……。なんて呑気な事は言ってられませんでした。すでに校舎に向かっている行列。入場制限してる! 待事15分。流れに身をまかせると校舎の中へ。壁にはられた手書きのチラシの数々。催し事の本



スター、飾り付け、校舎のにおい……懐かしい! ノスタルジックな雰囲気とは対照的に、校内にはすごい数の人々……。廊下を回遊していたら、ガチャガチャ発見。大人計画の役者さん達の写真付き缶バッジが出てくるなんて欲しいじゃないか。駆け寄って1人ではしゃいだりしたりした私が恥ずかしい。私が立っていた場所はガチャガチャに並ぶ人々とガチャガチャの間に出来た空間でした。更に係のお兄さんが今から並んでも買えるから買えよー! だつて。完全におかじやなかった。

校舎内で見学出来る所をくまなく見てまわり、昼食をとりつつ純喫茶マンハッタンに向かうも「2時間待ち」



な。三宅さんの冷え冷えチヨバナナも食べたかったけど、行列がトラウマを繰返しちゃって(30分待ち)、松尾さんのマさんコースは紙オケよりも後の時間割なのに紙オケと一緒に並んじやてたし(2時間待ち)、フリマなんて日中ぎゅうぎゅうだよ。日も傾きかけて、人々の影も長くなりだし、た頃、またしても黄色い悲鳴と人だかり。ちょうどドッジボール大会が始まるうとしていた時でした。黄色い悲鳴する所に阿部サタヲあり。感謝。

午後、スターバックスから戻ってきて、宮藤官九郎のお化け屋敷。の待ち時間をおくるおる係の人に聞いてみる。弱々しい笑顔で「5、6時間待ちですね……。大人計画、デイズ・トランド越え。さすがに諦めて、『平岩紙の紙オケ』へ。気合いを入れて炎天下のものと1時間待ちました。本番が始まると、平岩さんの清涼感と初々しい演奏に思わずため息、かわいいな。隣の人とその隣の人の目には涙が。デトックス! 紙オケが終わって体育館から外に出るとまだグラウンドの至るところには行列、人だかりが。みんながんばる



伊藤修子

いとうしゅうこ○77年生まれ、神奈川県出身。あまりに個性的すぎるルックスと独特の演技トーンを武器に、唯一無二の笑いを生み出す。他に類を見ないコメディエンス。
次回予定○米米CLUB演劇部「私がオバさんになっちゃう?」12/26～30◎東京芸術劇場中ホール
◎DVD「キャバガヨ!」〜キャバクラ嬢行政書士の事件簿〜エイベックスより07年1月発売予定

成田さほ子

なりたさほこ○75年生まれ、北海道出身。天真爛漫なキャラクターと、安定した演技力を貫かれ、ドラマ・映画の他に、様々な舞台への出演も多い。
次回予定○米米CLUB演劇部「私がオバさんになっちゃう?」12/26～30◎東京芸術劇場中ホール



文◇成田さほ子 イラスト◇伊藤修子

SHINKANSEN ☆ NEXUS vol.2

Cat in the Red Boots

作 戸田山雅司
演出 さいのうえひでのり
出演 生田斗真 松本まりか 梶原善 すほういこ
市川しんぺー 栗根まこと 他 劇団☆新感線
9/15～28 ◎東京グローブ座
10/6～9 ◎大阪厚生年金会館芸術ホール



昔々のその星には3つの種族が住んでおりました。「知恵」に優れた人間たち、「力」にひいでた竜たち、「魔法」を操る妖精たち。そして人間の暮らすある国のある学校に、「レッドブーツ」は眠っていたのです。一匹のネコが訪れるまで……。魔法の赤い靴を履いたネコ、彼女がするりと身を忍ばせたのは、トーマの家の怪突でした。

貧乏な青年がお姫様の婚約者に！
夢みたいな話だけど
魔法のブーツがあればなんでも叶う！
ペローの『長靴をはいた猫』をベースに、
グローブ座に広がるファンタジーワールド
おかしく楽しく温かく、そして残酷で……
夢のようで夢を越えてなお懐かしい
新感線の“おとぎ話”





栗根 まこと

あわねまこと○64年生まれ、大阪府出身。85年『ヒデマロ2』より劇団☆新感線に参加。マッドな博士から薄幸の美男子まで演じ劇団の中枢を担う存在。外部出演も多く『流れ姉妹〜たつことかつこ』『BIGGEST BIZ』映画『ローレライ』やテレビ『功名が辻』などに出演。

次回予定○Inouekabuki Shochiku-mix『魔の森に棲む鬼』07/1/3〜25○新橋演舞場、2/2〜27○大阪松竹座

生田 斗真

いくたどうま○84年生まれ、東京都出身。97年『Stand by Me』で初舞台。その後、舞台は『エドガーさんは行方不明』『mama loves MAMBO III』『WEST SIDE STORY』『あずみ』と出演。新感線登場は、02年『スサノオ』以来2度目。映像でも活躍。テレビドラマの最新作は『アキハバラ@DEEP』。



生田さんのキャラも面白いですね。しかも名前もトーマで。

生田 引きこもり役の設定で、でも、いのうえさんが突っ込み台詞とかくださって。だから引きこもり感も強くないですね。だまされやすく、ノセられやすい、でもちょっと外の世界に憧れもある。まりかちゃんのノリとか、栗根さんたちとか、ブンブン振り回してくれるから、振り回されがいがあります(笑)。

生田 周りに濃いキャラがいっぱい。

生田 多いですね。バカしか出てないみたい(笑)。

栗根 楽屋でモニター見て「あーまたバカ出てきた」って。

生田 でもその雰囲気はね、新感線に出てるな、という感じがしますね。

生田 いちばん大変だったシーンは？

生田 最後のシーンですね。マオ(梶原善)の館に乗り込んで立ち回りをして、その後吉田メタルさんと戦って、その後自分で自分を斬る殺陣があつて、その連チャンがきついです。やられ側で大変なんです。ぶんぶん振ってるほうが楽なんです(笑)。

栗根 今回は特にアクティングエリアが狭いので、

帰ってき た

大人数が出てきての立ち回りというのを、稽古場でもどうやるのかと。ちょっとでも立ち位置が狂うと周りの人に剣が当たってしまったり、すごく制限が多くて苦労しました。

生田 それでも僕は立ち回りが好きなので、あつて良かったな。めっちゃ強い奴が敵をバタバタ倒していくのではなくて、ヘタレな男ががんばって勝っちゃう、というのも面白くて嬉しかったです。

栗根 この狭さで、殺陣師の川原正嗣さんは試行錯誤しつつというのがたいへんだっただけしょうが、小ネタにはいいという。ネコがノミを操って勝っちゃう殺陣とか、いのうえ演出ではありがちなバナナの皮で滑ってとか(笑)、あれも小さい劇場だからこそです。

生田さんは、今回は面白キャラでした。二枚目が出た、と思いませんか？

生田 新感線に2回出演させていただいたのでも、もっといろいろな役をやってみたいな、という欲はあります。いのうえさんに「昔の古田にちょっと似てる」って言われたんです。たぶん垂れ目なところもあるし(笑)、昔は古田さん、痩せていたそうだし。

栗根 あ、そうかもしれない。生田くん器用だしね。古田も若い頃は痩せて、シリアスも「メダイ」も何でも似合ったから。

生田 ちょっと嬉しかった。

栗根 40になったらあんなに太るのかな、という複雑な思いは？

生田 いや(笑)。でも古田さんとか見ると、ちょっと太った方がいいのかなと思うんです。栗根 間違いない！

生田 なんかドブついているし。舞台映えるのかな。

栗根 しない。ぜひこの体型をキープしてください。いやほんと、美しい体ですよ。よく楽屋で素肌にジャケットだけとか上半身裸とかいるんですけど。

生田 裸で歩いてるとよく栗根さんに背中をベチーン！ってやられて、「イテェー！」。

生田 楽しい現場で、また「出たい」「コールになりそうですね」。

栗根 いやー出たいですよ。でも、今回もそんなんですが「いい時」に、きつと呼んでいただけるだろう。いのうえさんが「斗真そろそろかな」って思ったときがきつと、その時なんだろうなと、待つてます。



生田さんは4年ぶりの新感線で、「出たかった」という思いを、いろいろ取材で語られていました。

生田 出たいなあと、観るたびに悔しい思いをしてみました。

栗根 しゅちゅう観に来てくれたもんね。

生田 それだけ僕にとって「スサノオ」が大きかったということなんです。

生田 ひさびさの稽古場は、いかがでしたか？

生田 雰囲気懐かしいという。あまた帰って来たんだ。という気持ちも強かったです。すごくアットホームで、笑いの絶えない感じ。

栗根 なんて思っくらしい笑いの絶えない稽古場だった。まりかちゃんとか、あの人たちが初めて、いのうえ演出で、すごくがんばり屋で、あの人たちがムードメーカーだったんじゃないかな。もちろん斗真くんも梶原善さんもそうだけど、経験があるぶんツカ一な部分があつて、でも彼女たちは、「こういうことを見せたいからこうしてほしい」とか、「こうしたいからこうしてほしい」という会話が、あつたんです。それが新鮮だし、みんなにも動機付けができて、稽古場の空気がどんどん熱くなって回っていった。でも本当にあの2人は元気で、うさいくらいで、生田斗真もうさいます。

生田 すいません(笑)。

栗根 いや、若いといいな。今回梶原善さんと市川しんべいさんと私と40代の男がいて、そして30代の劇団員たち、そんなのがウダウダやってるなか、元気のいい3人が走り回ってるのがすごく楽しいです。

いのうえさんから言われた言葉で印象に残っていることはありますか？

生田 「4年前よりは成長した斗真が見たい」と。「絶対見せませう！」って言いましたけど。

栗根 見せられてる？

生田 いや、わかんないですね(笑)。

栗根 でも本当に動きがきれいで、動いながら、僕らも見て楽しいし、二回りも二回りも大きくなつて帰ってきた。かつて少年だった、17歳だった生田斗真が青年になって、大人になって目の前に現れたという。でも体の動きもカンも、「スサノオ」のときからすごく光るものを持っています。

大人になった斗真

トーマ

農家の末っ子で童話を読むのが唯一の楽しみというトーマ役の生田斗真。一方、魔法学校の万年落第生ハリー・堀田というわかりやすいキャラを演じるのは栗根まこと。02年の『スサノオ』以来という2人だが、ノリのよい舞台をそのまま持ち込んで、リラックスが楽しく炸裂！

生田 あの時はいのうえさんに言われたことを、ひたすらやっていただけたんですけど、でもお客さんが喜んでくれて、なんでこんな喜んでくれるんだろう、みたいな(笑)。

栗根 それが今回は主演という事で、プレッシャーや不安はありましたか？

生田 ありましたね。決まってる、でも「また出られるんだ」という喜びの方が大きかったですけど、稽古が始まる直前くらいになつて「これちょっとやばいな」と。家で考え込んでる時間が多くなってきました。

栗根 やばいな、というの？

生田 やばい、一番上に名前がくるということは、その作品を背負っていかないといけないというのがあるんだろ、という。そのプレッシャーですね。稽古に入つてもひきつたまま、楽しめる状況ではなかったんです。でもいのうえさんと話していくうちに、のびのびやってくる感じが、いい形になるんだ。それに、やることも多くなつてプレッシャーを感じる暇がなくなつていきました。

栗根 そういふ生田さん、初めてのまりかさんとすほうさんを、栗根さんを、はじめとする新感線メンバーを支えている、という構図がすごく見えました。

栗根 いつもそんなんですけど、僕ら劇団員側がどれだけ周りを固めていけるかが大事なんだと思います。そのぶん、いのうえがゲストのかたの演出に力を注ぎますからね。

バカしか出てない？

栗根 僕はいつもお客さんが斗真くんに触ってくるか、それが心配です(笑)。だつて最前列のお客さんと手を伸ばせば触れますから。あれです、よ、葛西臨海公園の柵を越えて手を伸ばせばベッキンの赤ちゃんに触れちゃうようなもんです。触りたい、触りたいけど触っちゃいけない！というあの誘惑と闘う感じだ。

生田 ベンギンて(笑)。でもほんと、これだけ近いと逆に最前列のお客さんとか、緊張しちゃうんじゃないかな、と思いますよ！



作・演出◇倉持裕
出演◇小林高鹿 ぼくもとさきこ 玉置孝匡 内田慈 近藤智行 吉川純広／松竹生
山本大介 伊藤留奈 加藤啓 (拙者ムニエル)
8/23～9/3◇下北沢ザ・スズナリ, 9/8～10◇大阪in→dependent theatre2nd

道子の調査

ペンギンブル ベイルバイルズ



日常から少しだけ離れた世界観に、独自のリアリティを張り巡らせるペンギンブルベイルバイルズ。その「外国映画のような」世界で展開する物語は非常に多面的で、観客は終演後に各々の想像を楽しむ——。“舞台上では終わらない物語”は、今もなお観客の頭の中で展開し続けている。

道子(伊藤留奈)は数年前に失踪した女“波子”の身元調査の依頼を受け、海辺の街にやってきた。波子と縁のあった人物とのコンタクトを試みると、彼らの口から出るのは、6年前に波子の調査の為にこの地を訪れた前任の調査員・砂恵(ぼくもとさきこ)との思い出話ばかり。仕方なく、砂恵の思い出話を通して波子の調査に乗り出す道子だが……。





小林 高鹿 ぼくもとさきこ

こぼやかしが○75年生まれ、東京都出身。97年よりナイロン100℃に参加。00年に退団した後、01年、ペンギン・パル・パル・パル・パルに参加。自身のブログ「小林高鹿といふのはどうですか?」の人氣も高い。

次回予定◇音楽座ミュージカル「リトルプリンス」11/9〜19◇東京芸術劇場中ホール 他◇映画「東京フレンズ The Movie」松竹系列にて公開中◇ラジオ・日産自動車提供「あ、安部礼司」TOKYO FM 毎週日曜17時より0.A.

ぼくもとさきこ○75年生まれ、京都府出身。東京乾電池を経て、01年、ペンギン・パル・パル・パル・パルの旗揚げに参加。今作では、複雑な心情をのぞかせながらも健気に振る舞う「砂恵」役を好演した。

次回予定◇映画「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」松竹系列にて公開予定

とが目的じゃない気がして。ぼくもと 私は「存在したい」んだと思います。砂恵はずっと周囲から認めてもらえなくて、すごく慕っていた上司とは既に関係が崩壊して……左遷先のこの地で頑張れば存在を認めてもらえるかもしれないと思って頑張っているじゃないかなと思うんです。そこに存在したかったから……、それであんなに生懸命だったんだと思います。

小林 砂恵が調査に来た目的としては、波子という女がいて、彼女が失踪し……という目的なんですけど、途中から波子を探すという目的よりも、砂恵自身が波子の素晴らしさに近づきたいかなるんです。それは調査と全然関係ないんだけど、彼女の中では、波子に近づきたいと自分の存在意義を見いだそうとしていたのかもしれないですね。

衝撃みたいなのが伝わったらしいけど 今回のラストシーン「道子が水着を着て、窓から外へと飛び込む」も、謎めいた余韻が残るシーンで印象的でしたが、あのシーンについて作

演の倉持さん自身は何かお話をされていたか? 小林 俺自身は、初めて本を読んだ時はホントにあのシーンの意味が分からなかったんですよ(笑)。俺が代弁するとまた違うものになっちゃうんだけど(笑)。ええと……、波子というのは姿の出てこない存在じゃないですか。今作には、そういう姿のない存在に振り回されてしまう人間が登場するわけですね。例えば、波子に振り回された砂恵もそうですね。道子にしても、姿の見えない女に電話で脅迫されてしまう。そうすると、最後に本物の体というか、肉体を見せた方が良いという意識があったみたいで。それで、最後に水着姿になって、体を見せるシーンを作ったかったということも言っていました。でも、むしろ俺は窓から外に飛んで出るというインパクトの方が印象的なんです。なんか、鬱屈したストレスやプレッシャーに押しつぶされそうな女がぼーんと外に飛んで出たこと自体にインパクトがあったかなと。倉持さんが作者として具体的に何を伝えたかったのかとはまた別に、個人的にはそういう衝撃みたいなものがお客さんに伝わったらいなと思います。

そして、調査は続く

複雑に絡んだ人間関係と印象的なシーンが絶妙に交錯する「道子の調査」。今回は劇団旗揚げからのメンバー、小林高鹿とぼくもとさきこに、「観客の想像力に引き継がれた」「調査」への協力を依頼した。

「筋縄ではいかない人なんですよ」
——ぼくもとさんが演じられた砂恵という役がとても興味深かったのですが、ぼくもとさんから見ると、砂恵とはどんな人物だと思えます? ぼくもと 「筋縄ではいかない人なんですよ。こいつ、けっこう嫌な奴なんじゃないかと(笑)。クラスに1人はいらっしゃいます。嫌われて、1人の人に優しくされるとずっと依存しちゃって、依存した相手の人にうさがられて離れていく、みたいな。今回の感想として、砂恵がいい人だとか可哀想という言葉をいただいたりしたのですが、私としては、もっとめんどくさくてわがままで複雑な奴にしかつた。そう出来なかつたのが、今回の反省点のひとつでもあります。

小林さんの演じられた阿彦は、小林さんから見るとどんな人物ですか? 小林 なんというか、下手くそというか……。色んなことについて不器用ですよ。人に優しくするのが下手だし、自分が招いたピンチを切り抜けるのも下手だし(笑)、色んな局面で色んな下手さがよく目立つ奴だと思っんです。何をやってもあんまりうまくいってない奴だ。

阿彦さんの「俺の後ろに立つな」(注:阿彦は背後に人が立っていると投げ飛ばしてしまうという某有名映画キャラのような奇癖の持ち主で、砂恵を何度も投げ飛ばしてしまう)という設定が可笑しかったのですが、ぼくもとさんは痛くないのですか? 小林 そうですね、痛くないです。



小林 僕も不思議なんですけど……あれ痛いの? ぼくもと 実は全然痛くないんですよ。小林 そうなの? 結構強めにいってる気がするんだけど。ぼくもと 私、デビュー当時からこけるとか殴られるとか突き飛ばされるとか、そういう役がすっごく多いんですよ。しかもサポーターなしで(笑)。

小林 そういえばそうだね。今回も誰も気にしてなかった(笑)。

ぼくもと 体が受け身をとることに慣れちゃってる感じですよ。だからピンタとかも全然平気だし。

——でも、べたべたしてすこい音がしていますよ。 ぼくもと あれねえ、「応」音をたてて」って指示があるから、技術でべーんと音を立ててる感じなんです(笑)。音をたてずにも転ぶことも出来ますよ。

小林 転ぶる女優が欲しい時にはすぐ声がかかるね。 ぼくもと ね(笑)。転ぶだけの出演とか。

「存在したい」んだと思います ——ちよつと砂恵の話に戻りますが、彼女の目的って何だったんだらうなと思うんです。基本的に失脚した人物の調査をしている訳ですが、砂恵の動向を見ていると、あまり調査をするこ





ヨーロッパ企画

ブルーバース・ブリーダーズ

作・演出 上田誠
 出演 石田明太 高井重史 諏訪雅 土佐和成 中川崎樹 永野宗典 西村直子 本多力 松田 樹子 山崎唯 富永剛
 9/6~11 ART COMPLEX 1928. 9/22~10/1 サ・スナリ 11/4~5 中之島4丁目テント
 (S) 他

ブルーバース・ブリーダーズは(ドタバタ)劇です。

ヨーロッパ企画が“青い鳥”をモチーフにしたコメディは、何と上演時間70分という濃縮ドタバタ劇! 舞台上では役者達が、ノンストップで喋る・転ぶ・喧嘩する! スポーツの秋に全国を行脚した『ブルーバース・ブリーダーズ』という名の大運動会。よーい、ドン!……って言ったらスタートね。



幸福の青い鳥が実際にいる(かもしれない)という現代で、青い鳥の捕獲を企てる企業が現れた。いざ、青い鳥がいる(であろう)山へ集められたのは、ピクニック気分の捕獲隊、大袈裟な探知機を担いだ技術者達、おやつ準備万端なケータリング班などなど……。果たして青い鳥は捕まるのか?……というが、まず青い鳥を捜しに行くことが出来るのか!?





劇団だから出来る “板上の団体演技”

「スポーツ的な作品にしたかった」。ヨーロッパ企画の作・演出を務める上田誠は今作についてそう語った。スポーツといっても勝敗や強さを決めるものではなく、団体で演技をして芸術点を競うような……そんなスポーツだ。劇団という、お互いの特色も気心も知れたチームだからこそ成立した今作。賑やかなドタバタ劇には賑やかなインタビューを！というところで、今回は6名もの「参戦者」にご登場願いました。

スポーツ観戦的な面白さを

—今回は終始ドタバタ劇に徹した公演でしたね！

上田 前回公演が節目の20回公演で、しかも役者があまり動かない話だったので、この辺りで一回ドタバタものをやってみたかったんです。スポーツっぽい作品というか、ルールがあつてその中でわあっと動き続けることで、スポーツ観戦的な面白さをお客さんに持って帰ってもらいたいなと思ひまして。

—今作の場合、特に役者さん達が大変そうだなあと感じたのですが、役者の皆さんはいかがですか？

石田 そういえば山脇さん、今日泣いてたよね？

上田 え？舞台上で？

山脇 いや、本番前です。あの、今回はプレーキをかけない芝居なので、絶対自分からはプレーキをかけないぞと決めていまして、それで、どんなぶつつかないかなやと思ひ込み過ぎて……

石田 突進してくるんですよ(笑)。狭い舞台上で山脇さんがばしばし体をぶつけてきて

上田 舞台上にうり坊がいる(笑)。

松田 私も一度、沼から引き上げる時に爪をたみとれて……

永野 本能剥き出しの女ですね！

上田 人間凶器だ(笑)。

石田 本番中に背中をガシッと捕まれて、ちよっと痛いからそれはさすがにと思つて(笑)。

山脇 実は今日まで全く自覚がなくて。注意されて初めて「あゝ」と……

石田 山脇さんの足の痣とか、すごいことになつてるよね。

山脇 すいませんよーと、痣を見せる。

永野 えっ？折檻のあと？(笑)。

石田 本人はぶつかつたことに気付いていないんです。

酒井 自業自得なんだ。

永野 それだけ集中してるってことだ。

山脇 後で体を見て気がつくんですよ(笑)。

石田 メールで来たんですか？



永野 一度は楽屋で言われて、そしてついでの間はメールでも結構シヨクを受けました(苦笑)。

石田 メールはイヤですね！！

上田 実はそれ、本文の頭文字を順番に取ると、ムイ……

石田 暗号になつてののか(笑)。そこから読みとれるんですか？

上田 やっぱね、もっともってコミニケーションをとらないと成立しないお芝居なんですよ。いつもの公演だとかまで話し合いを続けることは減多にないんですけども。

永野 今回の台本はト書きも多いし、みんなで色々話し合いながら進めていった感じですよ。『がやがや』とか、『さざざわ』とか、そういうト書きを自分達で割り振って表現する、みたいな最初のうちは何となく表現出来るんだけど、ト

書きの数やパターンが多くなつてくると次第に出来なくなつてきて……

石田 ドクッというのは困りましたね(笑)。

山脇 台本に「ドクッ」と書いてなくて

松田 「ドクッ」と書いて「盛り上がる」ということですね。

石田 ドクッで書かれてもねえ、どうやって表現したいのかが(笑)。

酒井 僕はみんなの間を行ったり来たりするので、多分そこがお客さんの注目してくれる所だなという意識を持つて動くんですけど……みんなもいっぱい動いてるので、ぶつかつたりもしますし……僕が喋ると何でみんな黙るんですか？

一同 (笑)。

石田 いや、オチはどうなるのかなと思つて聞きつつあった(笑)。

永野 でも、一番台詞が多いのが酒井君なんですよ。それで、一度だけ本番中に声が枯れちゃった時に「ごめんなさい、喉の調子がおかしくて……」みたいなこと言つて、お客さんにも僕らにも言い訳しているんですよ(笑)。

酒井 そこからは喉が枯れたキャラでいくしかないかなと思つて。

石田 全員でそのアドリブ発言を無視しましたもん(笑)。

上田 でも、本当にスポーツに近い感覚がありそうですね。

上田 スポーツって何が面白いかというと、ルールを越えた瞬間が面白いと思ふんですよ。メイクラクルこそ面白いです。

—上田流スポーツが舞台上で展開されてる訳ですね。

松田 これが俺のスポーツだつていう感じ。上田 スポーツって何かが面白いかというと、ルールを越えた瞬間が面白いかと思ふんですよ。メイクラクルこそ面白いです。

石田 回によって単純に声が届かなかつたりとか、山脇 流れを作ろうと思ひ過ぎてガヤ(注：トラブルが起つた周囲で、それを盛り上げる為にガヤガヤすること)を大きくしてしまつた挙げ句、他の人の台詞が聞こえなくなつたり。

酒井 今度は逆にそれをたてようと思つて聞きすぎると静かになっちゃうんですよ。

永野宗典

ながのむねのり○78年生まれ、宮崎県出身。97年、同志社大学入学とともに同志社小劇場に入団し、99年の退団まで座長を務める。ヨーロッパ企画には98年の旗揚げから参加し、以降、全作品に出演している。

次回予定◇映画「UDON」公開中

松田暢子

まつだのぶこ○79年生まれ、兵庫県出身。99年よりヨーロッパ企画に音響として参加、00年の第5回公演より役者に転身し、多くの作品に出演している。

酒井善史

さかいよしふみ○81年生まれ、京都府出身。99年、同志社大学入学とともに同志社小劇場に入団し、00年に退団。ヨーロッパ企画には同年の第5回公演から参加し、以降、全作品に出演している。

上田 誠

うえだまこと○79年生まれ、京都府出身。98年、同志社大学入学とともに同志社小劇場に入団し、同年、劇団内ユニットとしてヨーロッパ企画を旗揚げ。00年に同志社小劇場を退団した後に、ヨーロッパ企画を独立させ、全作品の作・演出を手がけている。

次回予定◇ABCラジオ「ヨーロッパ企画の試験放送」毎週火曜深夜25:30～

山脇 唯

やまきゆい○81年生まれ、栃木県出身。02年、北区つかこうへい劇団に10期生として入団、翌年、退団。04年第16回公演よりヨーロッパ企画に参加している。

石田剛太

いしだごうた○79年生まれ、愛媛県出身。98年、同志社大学入学とともに同志社小劇場に入団。00年の退団まで副座長を務める。ヨーロッパ企画には99年の第2回公演から参加し、以降、全作品に出演している。

次回予定◇KAVC演劇ジャンクションVol.3 ウォーリー木下新作公演 1/26～28◎神戸アートビレッジセンター KAVCホール-KAVCシアター



「舞台上での汗が美しかった」と書いてくださったお客さん

—では、せっかくですので、最後に皆さんでこのお芝居のことを褒めて欲しいのですが。

一同 (つばやくように)……褒め合おう？

石田 褒められる所が……自分にはないな(笑)。

上田 そうですね。今回は気がつくともんなが色々話し合つて、すごく真剣にコミニケーションをとるから、みんながこう演劇が好きなんだなと(笑)。

永野 あはは(笑)。

永野 そういえばアンケートに「舞台上での汗が美しかった」と書いてくださったお客さんがいましたね。そういう感想は初めてだったかも。

上田 甲子園的な感じがするよね。

永野 後は、石田君が東京公演からNODA・MAPを意識した芝居をやり始めたのがちょっと面白いかなと(笑)。

酒井 僕の役は土佐さんとコンビを組む役なんですよ、土佐さんが息切れしたりとか、僕がちょっとしんどい時には「あの台詞言つて！」とか助け合つて……

石田 え？台詞を変えろってんの？

酒井 いや、ちよっと……土佐さんが……

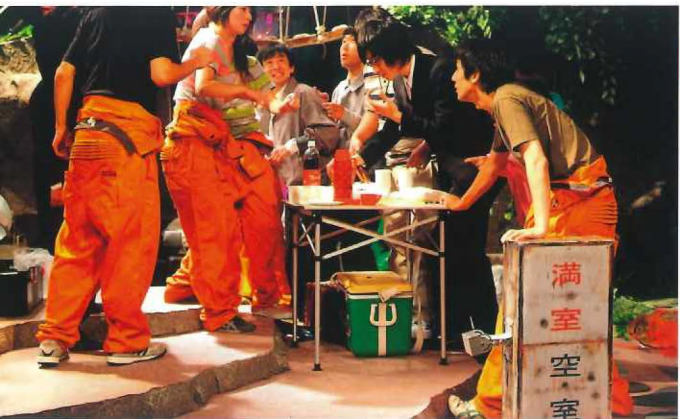
松田 それは……

酒井 ……よくないことですね。

一同 (笑)。

松田 今回は絵本や寓話みたいなお芝居にしたという意図があつたんですけど、絵本や寓話って子供が飽きないようになつてお話を短くしているんですよ。そういうことも意識しながら作り上げていく、結果的に上手くまとまったんじゃないかなと思ひます。

上田 時間が短くまとめたのは思ひの外のことですけど、脚本はこれ以上は足しようがないと思つているんですよ。今回、僕がやるうとしたことは大体入ってますしな。でも、役者陣は大変だと思いますよ。こんな小さな、青い羽根が一枚見つかっただけで話を進めなくちゃいけない訳ですから。地図が一枚あるだけで、「地図だろー」って盛り上がりつて、「地図だ」も何も、ただの地図だろつて(笑)。そういう意味では役者には負荷をかけたつも、役者の力で成立している公演だと思ひますね。





東映京都撮影所の花形スター倉岡銀四郎。彼は今、ライバル中村屋と新撰組映画の撮影中。銀ちゃんを神のように慕う大部屋俳優のヤスは、銀四郎から愛人小夏のお腹の子の父親になることを押し付けられる。そのヤスには、命がけの大仕事、"池田屋の階段落ち"が迫っていた。



RUP

蒲田行進曲

城崎非情編

作・演出／つかこうへい
出演／錦織一清 黒谷友香 風間俊介 佐藤アツヒロ 他
9/12～9/27◎青山劇場、10/6～10/9◎シアターBRAVA!

派手な背広ときざなセリフで撮影所を闊歩する銀幕の大スター、あの銀ちゃんがまた舞台に帰ってきた。屈折した愛憎を極限まで追いつめ、人間の裸の魂をあぶり出すつかこうへい世界。バイオレンスなギリギリ感が、痛みとなって観客へ突き刺さる。



昭和音楽大学 中学生・高校生のための

ミュージカル講座

12月24日(日)～26日(火)

新百合ヶ丘で実施

[対象] 中学生・高校生(既卒者含む)

[講座内容] 演技、ダンス、ヴォーカル 等 ほかに個人レッスン(別途申込)もあります。

[受講料] 25,000円(税込)

[お申し込み・お問い合わせ先]

広報室 ☎ 0120-86-6606

2007年度より
ミュージカルコースは
短大から大学4年制になります。

昭和音楽大学

音楽学部 音楽芸術運営学科ミュージカルコース



mobile code

〒243-8521 神奈川県厚木市関口808

TEL. 046-245-1055 FAX 046-245-4400

[URL] <http://www.tosei-showa-music.ac.jp>

[E-mail] koho@tosei-showa-music.ac.jp

[mobile URL] <http://www.tosei-showa-music.ac.jp/m/top.html>

体験しよう
仲間と創る
未来のわたし



2007年4月、
本学は
川崎市麻生区
(新百合ヶ丘駅徒歩4分)
へ移転します。

新百合ヶ丘の新校舎を見よう!

キャンパス説明会

参加費
無料

【※要事前予約】

[会場] 昭和音楽大学 (新キャンパス/小田急線・新百合ヶ丘駅下車 徒歩4分)

11月23日(木・祝) 14:00～

12月23日(土・祝) 11:30～/ミュージカルコース説明会

役が遊びに来た

『蒲田』のヤスといえは、つか作品のなかでも二重三重に屈折した難しい役。今回このヤスに挑んだのは風間俊介。映像だけでなくミュージカルなど舞台上に積極的に取り組む彼だけに、つかこうへい世界で、また新しい魅力を魅せてくれた。



愛と憎しみの表現

——つか作品は、これまでの舞台と違いましたか?

演劇にはいろいろなジャンルがありますが、れど、つかのものと呼ばれたいくらい独自のジャンルですね。役者が生身でぶち当たっていく。セリフや小道具に頼れないし、表情とか声とか自分の持っているすべてを武器にしている舞台だな。

——稽古もつかさんの口立てで、戸惑ったのでは?

口立て稽古は初めてではないのですが、たくさんセリフをその場でつけられるというのは初めてでした。でも、三言句を間違えちゃうというのではないんです。とにかくついていく、流れを止めてはいけません。そのシチュエーションのなかのヤスで言うのならOKなんです。

——役者が変わると役柄も変化するのがつか作品ですが、今回のヤスには風間さんのどんな部分が反映していると思いますか?

中途半端がない、その部分が僕だと思えます。最後のほうで小夏に暴力をふるうシーンがあるんですが、好きだから殴っていると思えたらウソだと思えます。僕がもし好きな人を殴るなら、本当にその瞬間は憎くて殴ると思うんですよ。つかさんも「それを出してい」と愛するあまりその反動で憎しみ100になる、そこを面白がってくれました。確かにそこまでいくから昇華するというか、突き抜ける愛が印象的でした。

最後にちゃんと愛の部分は描かれているし、大きく愛のほうにはね返ればそのほうがいいなと思って。お客さんのなかには引いてた人もいたみたいですが、全員に嫌われてもいいぐらいの覚悟でやりました。

——人間心理の踏み込んだ部分まで想像力が豊かですが、それはどこから?

本を読んだりするのも好きなんです。つねに自分ならどうだろうという発想をするんです。今回も、自分が愛した人に自分の近くにいる人の子供がいて、しかも時々会っているらしい、そういう状況は自分ならどうだろうと。つかさんも自分に近づけていいと言ってくれたし、稽古でさらに僕に近いところにもって

きてくれました。

つかさんが銀ちゃん

——稽古場のつかさんは恐いと聞きますが、風間さんはつかさんをどんなふうに感じましたか?

一言で言うなら鬼才ですね。でもおかしいところはおかしい。突っ込みどころ満載です。稽古に入る前には恐いところいろいろ聞いていたんですが、一般的な言語に変換していくから、恐いになっているだけで、言ってみればかさん自身が、銀ちゃんなんですよ。優しいけど理不尽だし、破天荒なんですよ。でもカコイから付いていきたくて、マジでどんなことでも思いついたらするんです。たとえば今回、初日の本番1時間前にセリフを変えられました。でも、ちゃんと後の場面の伏線になっている。でも僕にしてみたら練習してきた1カ月は? 本番前に変えるかよーって(笑)。

——ぎりぎりまでい芝居にしようとするんですよね?

いや、よくしようとしてやってみるじゃないと思いますよ。進化ではなく変化、つかさんは別のものが観たいんです。しかもお客さんを喜ばせるんじゃないで、自分が観たいかだと思えます。でもたまに「お客さんが喜んでくれるからな」と言ったりするんですが(笑)。

——本物の銀ちゃん、錦織さんはどんなかたですか?

錦織さんは本能と理性でいったら100%理性の人、むちゃくちゃ頭良いんです。でも、赤と



かざみんすけ◎東京都出身。97年ジャニーズ事務所入り。99年テレビドラマ『3年B組金八先生』で一躍人気者に。以降テレビや映画、舞台で活躍中。最新のテレビドラマは『アキハバラ@DEEP』。舞台は『big〜夢はかなう!』『クラウディア』など。バラエティ『裸の少年』(テレビ朝日・毎週土曜)に出演中。

か黄色のテレビレのスーツを着こなせちゃう。あれがさまになるんですから、あの人も銀ちゃんです。僕なんかあれを着たら下品になる。今の僕にはやれません。銀ちゃんって下品な人でしょう。下品なことやってほしいのはスターという免罪符がある人だけなんです。

——さてこの芝居が今後の風間さんにもたらすものは?

いつも思うのですが、たとえば「動くな」とかいう具体的なことはすぐ役に立つても、本当の劇的な変化って、すぐには見えないんです。仕事をしなくていいうちに「ああ、これだな」と。それが自分でも楽しみのです。

——風間さんって、ストイックなほど正面から芝居に取り組んでいるんですか?

芝居が好きなんです。趣味なんです。だからみたらストイックでも、スポーツとかゲームする人と同じで、楽しめないとしたらだめなと思うんです。劇場とか映像現場に遊びに行く感覚で行けるとき、本当にストイックになれるし、ものができる。そういうのは初日の幕が開く5秒前くらいに、袖でつかさんが「役は作らんくていいからな、風間。役が遊びに来るんだ、お前の体」って。そのまま幕が開いたから出ましたけど(笑)。狙っているのかその場の思いつきなのか、僕だったらそれを言うのには3ヶ月かけて考えますね、きつと笑。またそのあと、つかさん、1週間ばかり来たんです。そうしたら銀ちゃんのセリフが増えてました。「久しぶりだなヤス」が、「久しぶりだなヤス、少しやせたか?」って。粋というか泣かせるといふか(笑)。

過去と現在を行き来する

くすればするほどなかなかが見えそくるんじゃないかな。モツシヤの持正と貞の部分を探み分けるというか。現在のモツシヤが頭がおかしくなっている場面は、客観的にどう見えているのか自分では意識しなくていい、こればいいと思って会話をしているで、そこで浮かば上つてきたものをお客さんに提示するという感じですね。

堺 演じていて、時間の流れの必然性のようなものを感じました。たとえば12年前の場面で、鈴木がモツシヤにいじめられるシーンがありましたが、あのいじめの傷というのは12年後を考えるときに必要なんです。あのシーンはエチюдローを立ち上げて作ったんですが、じゅんさんがとても気を遣ってくださった。陰惨ななかにも面白くがあったり、笑いに転化したり、見方によってはモツシヤが物凄く孤独で悲しいようにも見えるし、そのへんのバランスがいいというか、すごく安心で



次回予定◇NODA・MAP『ロブ』12/5
～1/31◎Bunkamuraシアターコクーン

橋本さとし

次回予定◇「トーチソングトリロジー」
11/20～12/7◎PARCO劇場 他◇「ひばり」07/2/7～28◎Bunkamuraシアター
コクーン◇「レ・ミゼラブル」07/6/8～
8/27◎帝国劇場

堺雅人

次回予定◇CX『Dr.コトー診療所2006』
出演◇映画『壁男』07年秋公開予定

やと誰にも邪魔されず笑いだけを追求できるの。でも結局アキラがいないと追求できないという不器用な男で。アキラとの時間を大事にしたということが問題というか、その思いにはまっちゃったがゆえの末路ということだと思っただし。

—— じゅんさんとは今回10年ぶりに一緒にやらせていただきましたが、以前はすごく前向きなイケイケなキャラをやらせていただくことが多かったんで、今回みたいに、鬱屈してたりとか気持ちが悪曲していくというのを二人で表現したのは初めてだったんです。自分のなかにもあるかもしれないダークな部分を、クロズアップして表現するというか。だから今回は僕にとっても未知の領域くらいの覚悟と期待がありましたね。

—— 稽古の期間を含め、今回の公演を振り返られていかがですか？

じゅん カバーコールで皆が横並びになったと

クを通して、エコががっかりして聞かざるから、なんかつまらないしょうがないんですよ。マイク通してしかも幽霊になつてまで台詞とぢれないし(笑)。めちやくちゃ緊張しましたね。

じゅん ほな、全編マイク通してもらえ！(笑)。さとし そんな完璧ですな、僕さ！と(笑)。

このメンバーならではの信頼関係

—漫才コンビ「パンフレットキッチン」の漫才の場面—

がすく面白かったです。

じゅん 自主的に漫才の稽古をした時間は、実質そんなに多くはなかったけど、やるときには徹底してやりました。丸1日漫才の稽古をしたときもありましたね。

さとし 稽古の鬼であるじゅんさんとやらせていただくには、もう行けるころまでついていこうという覚悟のもとで(笑)。

じゅん ラストでモツシヤンが人で漫才するシーンでは、アキヲがいるのもでやりました。

屈した思いが積み重なり、時は流れる

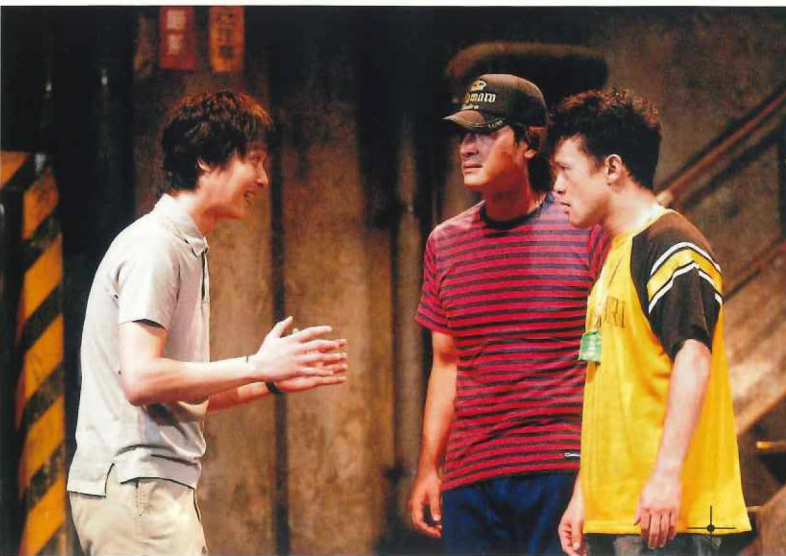
アキラ(橋本さとし)とモリヤン(橋本じゅん)の漫才コンビ「バストキッちゃん」は、一世を風靡していたが、突然アキラが事故死してしまっただ。そして12年後、今やすっかり落ちぶれたモリヤンと、劇場支配人である鈴木(増城)や、若手芸人・ボンちゃん(山内圭哉)、ボイラー技師・加藤(八嶋智人)としてアキラの幽霊まで登場し、現在と過去を行き来しながら、5人の男が互いの腹を探り合う……。



噂の男

PARCO
resents

作●福島三郎
潤色・演出●ケラリーノ・サンドロヴィッチ
出演●増原人 橋本じゅん 八嶋智人 山内圭哉 橋本さとし 猪崎英人 水野颯子
8/11～9/3●PARCO劇場 9/7～10●梅田芸術劇場 シアタードラマシティ
9/15-16●メルパルクホールFUKUOKA 9/21-22●名古屋市民会館 中ホール





魔界転生

原作・山田風太郎
脚本・中村橋之助
演出・中村橋之助 成宮寛貴 藤谷美紀 馬淵実佳 可 遠藤金策子 西岡徳馬 他
9月21・26日 新橋演舞場

人間味 溢れる 十兵衛

さまざまな時代の剣豪たちが魔界のものとなって甦り、その怨念の刃を柳生十兵衛に向ける。サスペンス感たっぷりの山田風太郎ならではの世界だが、中村橋之助演じる十兵衛は、おどろおどろしさの中でも人間くさく温かい。そんな役作りの裏には、『魔界転生』への深い読み込みがあったようだ。

傾いている原作

——今回の作品の舞台化は、橋之助さんの希望でもあったということですが？
原作の『魔界転生』はすごくスケールが大きくて、いい意味で荒唐無稽、傾いているんです。たとえば天草四郎や宮本武蔵、荒木又右衛門など歴史上有名な人たちを、一挙に同じ時代に集めてしまっなんて、この作品だから成立していることで。ですから最初は歌舞伎にしてみたいという気持ちもありました。でも今回は、僕が一緒に仕事をしてみたいと思っていたG2さんにお願いくることになったので、歌舞伎とはまた違った時代物の舞台という形ができました。

——キャストがいろいろな舞台で活躍する実力派揃いで、そのアンサンブルも面白かったです。

本当にみんな個性的ですし、力のある俳優さんが揃っているんです。稽古場でも、普通の作品と違うのでいろいろ話しかけた。

合う機会も多かったですね。アイデアなども、僕なりに考えて出したりしました。ただ僕の考え方として、稽古場に演出家は2人はいらないと思っているので、あくまでも俳優の立場からの意見です。長い公演期間ですから、一つの動き、一言の台詞でも、自分にはない感情だと苦痛になるですから、そこをすごく大事に考えていきます。

——主人公の柳生十兵衛ですが、橋之助さんどこか近いような気がします。

僕のいつもの作り方なんですが、役を自分に近づける。原作のファンのかたにとってはイメージが違ふと言われるかもしれませんが、僕は空も飛べないし、かっこよくオートバイに乗るヒーローにもなれない。等身大の自分がそこにいて、息をしている。そこを観ていただく。いつもそこから演じていくのが僕のテーマなんです。

——確かに強い剣豪でありながら、スーパーヒーローというより人間くさい十兵衛ですね。

映画の千葉真さんの印象が強いから、十兵衛といえば完璧なヒーロー像を思い浮かべるかたも多いのですが、原作はすごく人間くさいんですよ。そのあたりをさらに自分に近づけてみました。実際の柳生十兵衛というのは、史実があまり残っていないんです。父親の柳生但馬守のほうには有名なんですが、ですからかえって想像をふくらませることができて、今回の十兵衛は、僕とG2さんのオリジナルに近いと思います。

——そういう意味で、橋之助さんの柳生十兵衛は、僕の深さがあって、そこに、男も女も敵までが惹かれていく感じですね。

そう見えていたら嬉しいですね。この物語は、十兵衛が魔界のものたちと出会うことで、彼らに変化が起きたりドラマが起きるわけですから。もちろん十兵衛自身も変化するし成長していく。



現世への執着か、はらせなかった前世の怨念か？
この世を操り支配しようとする魔界のものたち、
彼らと対峙するのは、
剣客柳生十兵衛、
その正義の剣が闇を斬り、
陰謀を暴き出す。
山田風太郎描く

忍びの世界のファンタジーが、
スペクタクルで骨太な
活劇に姿を変えて出現！



島原の乱から8年後。柳生十兵衛の住む柳生の里に紀州藩の危機の報が入る。その原因となるのは忍法魔界転生によって甦った魔界のものたち。天草四郎、荒木又右衛門、宝蔵院胤舜、宮本武蔵、さらに十兵衛の父柳生但馬守宗矩などである。彼らの陰謀を暴くため十兵衛は立ち上がるが、すさまじい戦いの中で片目を失ってしまう。



中村橋之助

なかむらはしのすけ○65年生まれ、東京都出身。5歳で初舞台。80年中村橋之助を襲名。古典歌舞伎はもちろんコウケン歌謡、平成中村座やテレビドラマまで多彩に活動している。テレビ朝日「太閤記」に主演(10月より放送中)。

天草四郎に共感を
——そう考えると、天草四郎とのラストシーンにいろいろな意味が含まれていますね。

あそこは、本当にさまざまなことを象徴していると思っています。十兵衛は紀州様を守りたい、起きてはいけなことが起きている、ということ動きはありますが、それもこれも最初の原因は、島原の乱の無残な成敗というのがあり、そこから起きたことだというのわかつています。同時に天草四郎に関しても、「神の子」という立場を生きたければならなかった青年の哀れさというものを感じているんです。僕は天草四郎の最後のシーンで、彼に「母上」という台詞を言ってもらいたくて、演出をお願いしたんです。子供って怖いことがあると「お母さん」と必ず言う。そういう母を思う気持ちが、あそこにはあるんじゃないかなと思います。

あのシーンの天草四郎にはあるし、その四郎を抱きしめる十兵衛の気持ちは母に近いと思っています。

——その十兵衛自身も、どこか天草四郎にシンパシーを持っているのを感じるので、

柳生十兵衛という人は、父との確執もあって孤独のなかで生きた人なんです。そういう点でも、生い立ちや生き方で四郎と重なる部分は感じながら演じています。ですから天草四郎との対決も、単なる悪者を懲らしめる刃ではなかったし、自分がこの青年を成仏させてあげようという気持ちですね。

——こういう作品をはじめ、まだまだ橋之助さんの世界は広がりますね。

古典もこういう舞台も、自分の表現の追求という点では同じなんです。表現することへの興味とエネルギーを、かき立てられる場であれば、これからの、どこにでも出ていきたいと思っています。

廃園が検討されているつつみヶ丘動物園。なにかとクレームをつけてくる主婦の立川(池谷のぶえ)や、鳥の羽根を集めている江藤(安田顕)など、常連客は変わった人ばかり。動物園で働く飼育員たちも、バツイチで子持ちの岡田(杉田かおる)をはじめ、それぞれ悩みを抱えている。そんな動物園に、岡田となにかいわずありげな男性・越野(段田安則)がやって来る。岡田に思いを寄せる副園長の菅原(高橋克実)は岡田を心配するが……。

オ레스テス

ホリプロ

演出◎鶴川幸雄 作◎エウリピデス 翻訳◎山形治江
出演◎藤原竜也 中嶋朋子 北村有起哉 他
9/6~10/1◎Bunkamuraシアターコクーン他

登場人物たちの苦悩を現すためか、更に増幅させるのか、
舞台には雨が降りしきる。
ラストシーンでは現代の紛争を現すビラの雨がドサドサと観客を襲う。
「復讐の連鎖はいつになったら終わるのだ？」という台詞は、
現代へのメッセージのようだ。
憎みあい殺し合う人間たちの業を、
俳優たちは、剥き身でエネルギーに演じた。



発声や立ち方が
変わると、
体型も
変わるんです。

力強いエレクトラですね。膝を開いてガツと階段に座る姿などが男まじったです。
お腹の底に憎悪が煮えたぎっていることを表現するためにあんなりました。エレクトラは強く、どんな時でもふんぞり返っているだろうと思って。その解釈も、稽古をしながら変わっていったんです。最初は雨に打たれて縮こまっていたんですけど考えてみれば、王家の血筋を引く女性だし、市民に母殺しの罪をとがめられることを屈辱に感じて怒り続けているのではないかなと思っただけです。

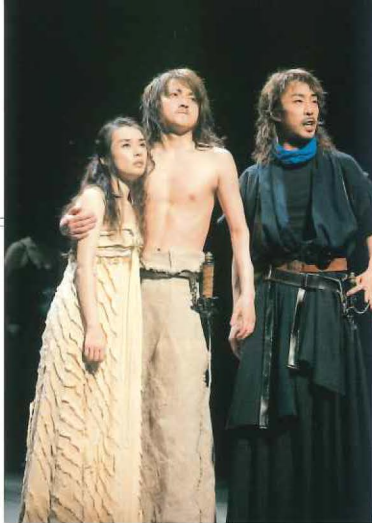
雨に打たれ続けて演技するのは、体力的にきつくないですか？
稽古場でだいぶ体力がつかまりました。雨には助けてもらいます。雨が感情に火をつけてくれるから。ただ、声を保たせるのは大変かな。水に打たれると、どうしても声がつまってしまうんです。最初のシーンで雨に打たれる時が一番危ない。暗転の中、急に上から降ってくる衝撃で声と腰をやらせることがあるんです。でも、お腹に力をこめ息を溜めておくと、対抗できるんです。稽古場で鶴川さんにお腹に息を落とせと何度も言われ続けましたが、それが、発声技術だけのことでなく、この芝居のすべてに生かされている気がします。エレクトラは先祖代々の恨みがたまって不幸を背負わされている身の上。綿々と受け継がれてきた憎悪の感情は、頭ではなくお腹から湧いてくるんじゃないかなとも思っています。

型から変わりましたし、筋肉や骨格が変わったんですよ。いつも見てくださっているトレーナーの方にも驚かれました。
——デニールアップローチみたいに見えたら変える方法がありますが、反対に内面が変わると肉体が変わってしまう？
発声や立ち方の変化によって体型が変わるんです。これまでも、役柄によって見た目が変わることは今までもありました。陰にこもった役だと背中が丸まって小さくなったりとか。ただ、役を内側にいれるのは健康的にもいいことではないし、メンツとしても有効じゃない気もしていました。健全な体でいるんなら役ができるようになるんじゃないかと今回感じました。今のアスリート体型を公演が終わっても維持したいです。
——さて、ラストシーンが劇的でしたね。
台本ではアポロンの二声で静いが終わってしまいましたが、鶴川さんの演出で、私たちは神様の声には納得しないよという意志表示をするようにになりました。稽古場で演出が急に変わった時はびっくりしました(神様の采配でめでたいためたし)にならず、さらには現代のパレスチナ、レバノン、イスラエル、アメリカの国旗と国歌が書かれたチラシが客席に大量にばらまかれ、古代ギリシャの時代と現在が結びつく。衝撃的でしたね。

舞台稽古でも、舞台上に立ち尽くすだけではなくて、客席に下りていくという動きが加えられます。客席の色が強く、たんですよ。どうしたって消えない憎しみが露わになった感じがします。
——台本のままよりも演じやすくなりましたか？
台本のまま演じるとしても、自分なりの感情の落とし方を探したとは思いますが。伝える側としてはいきなり神に出てこられた時、人間はどうなるのか、どんな感情を抱えてこの芝居を終えるのか、今後彼らはどうなるのか……という二重の投げかけが終わりたとは思っていません。だから、納得がいけない感情を、鶴川さんの演出で出せるようになったのでよかったです。
——具体的にはどんな気持ちで立っていますか？
オ레스テスに向かって「神にあんなふうに言われて、おまえはそれでいいのか？」って怒っていると思います。全編を通してエレクトラはこれだ、いののか？って訴えていますから。この姉弟は、すべてに対して不本意だと思っています。彼らは絶対に何に対しても納得しない気がしますね。事件の原因になったヘレネを殺しても、ピュラデスと結婚して土地を治めても、満たされることはない。

中嶋 朋子

なかじまともこ◎東京都出身。主な出演舞台に、青山円形劇場「室温～夜の音楽」、tpi「ネキッド」、世田谷パブリックシアター「ロベール・ブゾク」、バルコ劇場「結婚」、東京芸術劇場「奇跡の人」、サンシャイン劇場「ロミオとジュリエット」、新国立劇場「ガラスの動物園」などがある。鶴川演出作品は00年「グリークス」、05年「幻に心もそぞろおしのわれら将門」について今回3作目。その他、テレビドラマ「北の国から」シリーズ(CX)など映像でも活躍している。



不倫相手と共謀して夫を殺した母に報復を行ったオレステス。理由はどうあれ、身内殺しは許されない罪。祖父にも叔父にも見捨てられ、頼れるのは姉エレクトラと親友ピュラデスのみ。苦悩の末、オレステスは己が信じる正義のため、最後まで世間に抗おうと立ち上がる。しかし、突如神アポロンが現れて、争いをやめよと言いつつ放った。

アジアの女

新国立劇場初登場となった長塚圭史作・演出『アジアの女』。多くのものを失った人間たちが、その目その目をなんとか生きていく様子を静かに描き、登場人物たちの心を丁寧に紡いだ。複雑な役柄を清々しく演じ、シブシブな人間の感情、生き方を表現した富田靖子。観る人によっていかようにも解釈できる舞台の上で、彼女はなにを想うのか――。



生きていくことに静かな希望を

「生きる」ことにシンプル

――富田さんが演じられた麻希子は、震災前には精神を病んでいたけれど、震災後は落ち着きを取り戻した、という設定でしたが。

脚本には書かれてはいませんが、麻希子の正確な病名はもう最初から長塚さんのなかで決められていました。ポスターライン症候群という病気で、これは人との距離感がとれない病気で、本人よりも、身近にいる家族がとてもしんどいという病気で、でも震災が起ったことによつて、麻希子にとっては「生きる」ということがすごくシンプルになったと思うんです。生きるために食べる、水を飲む、という生活。生きていくために、麻希子や鳥居が選んだ仕事の内容が正しいかどうかというのとは別に、生きることに對してすごくシンプルですよ。だから麻希子にとっては、震災前の便利だった生活よりは、震災後のほうが暮らしやすいというか、自分らしく生きていくのがかなと。

――麻希子は震災後も、芽が出そうもない畑に水をやっていたりして、本当に精神的に回復しているのか怪しい部分もありますね。

みんな、芽が出ない出ないって言うけど、そう言いされる根拠ってなに？って思うんです。アスファルトの間から出る草だっていっぱいあるし、真つ向から否定するのはどうだろう、と。ただ、麻希子が本当のところ、なにを考へて畑に水をやっていたのか、私のなかでも明確な答えは出ていないんです。長塚さんがごういイメージを持たれているのかというところは、たぶん長塚さんに聞けば教えてくれると思うんですが、それで答えをもらうのがすごく嫌だったので、聞かないまま来てしまいました。そういつ、明確じゃない部分があつてもいいかな、とも思います。

――ラストシーンでは、地震が起つた後、廃墟に緑が所狭しと現れました。

あれだけの地震の後の芽だから、希望でもあるけど残酷な部分もあると思う。希望だけでは

ないような気がして。芽が出て、草が生えて、一見幸せな空気に見えないこともないけれど、あの地震の後で、そこに住んでた人たちはどうなったんだろう、とかいろいろ考えるとか、そういう人たちの思いが芽になって出てきたのかな、とか。だとすると、二つの芽に人の思いが宿つて、というのはいすこゝ哀しいなとか、いろいろ考へて。でも、みんなが絶対芽なんて出ないよ、って言つてた土地にあれだけいっぱい出て、朝日のような光のなかで終わつてから、いろいろあるけれど、最後に少しでも生きていくことに希望を持たせられる、未来を作つていく自分たちが次の一歩を踏み出せるような終わり方だったんじゃないかなと思います。

削ぎ落とした状態をキープする

――『アジアの女』というタイトルも、いろいろな解釈ができると思うんですが。

そうですね。最初はわかりませんでした(笑)。アジアの女って……どんな？って。たぶん、いろんな国籍とか、ラインを越えちゃつてことなのかな。難しいことではなくとも人間レベルで、どんな国の人が相手でも、ちゃんと物が言えたり考えたりできる、という。ポスターラインがないところが『アジアの女』なのかな、と思つたりするん

ですけど。タイトルもそういうタイトルだから、この作品は日本人という設定じゃなくてもいろんなアジアの地域で上演することが可能だと思つたんです。その国に合わせてちゃんと「ユアネス」を変えなきゃいけないところももちろんあるだろうけど、長く上演されたらいいな、と思いますね。

――富田さんは長塚さんの作品には初参加ですが。

長塚さんには、「それ以上でもそれ以下でもなく、脚本通りにやつてほしい」と言われました。脚本に書かれていないことは、観る人に想像してほしい、だから演技に関しても、できるだけ削ぎ落としてほしい、と。でも、削ぎ落とした状態をキープする、というのはすごく難しく、お客さんが笑つてくれると調子に乗つたりしちゃつて、後で反省したりして、たつて麻希子が笑いをとりにいくってへんでしょ？(笑)



富田靖子

とみたやすこ○69年生まれ、福岡県出身。映画『アイコ十六歳』でデビュー後、映画、テレビドラマ、舞台と幅広く活躍している。舞台はNODA-MAP『パンドラの鐘』、劇団☆新感線『阿修羅城の鐘』、シス・カンパニー『ママがわたしに言ったこと』、『ラブパンドラ』など、幅広い作品に出演している。

近未来の東京。震災に見舞われ都市機能が麻痺するなか、立入禁止区域になっている街の片隅でひっそりと暮らす兄妹がいた。妹の麻希子(富田靖子)は震災前には精神を病んでいたが、今は落ち着きを取り戻している。ある日、兄・晃郎(近藤芳正)がかつて共に仕事をしてた作家・ノ瀬(岩松了)がやってくる、3人での生活が始まるが……。

きらめく星座

演劇キックプロデュース

昭和オデオン堂物語

作・井上ひさし 演出・板垣恭一
出演・荒井タカシ 大久保綾乃 唐沢龍之介 窪田道聡 高田賢一 岡藤英正
山口恵 伊藤一将 今村裕次郎 竹岡常吉 丸山高明
9/13〜18 松橋ファクトリー



オーディションで選ばれた無名の俳優たちが、真摯に稽古で積み重ねてきたのである。エネルギーをストレートに出し続けた舞台は、戦争という不幸な時代に、とらえきれない敵に向かって、けなげに戦い続けた登場人物たちとも重なり合う。井上ひさしの大きな物語が、心を揺さぶる現代のドラマとしてよみがえった。

浅草のレコード店長の長男が軍隊を脱走し、それを追う憲兵。そして高等女学生だった娘には、偏執狂の軍人の娘が。時代の混沌に、だれも巻き込まれてゆく。家と下宿人。戦争の時代を反省とユモアで生き抜いていくという歴史。昭和15年から1年間の物語。唄あり踊りありの楽しい切ない物語。

やっぱり芝居ってすごいなって

『きらめく星座』という時代を越えた人間ドラマに挑戦し、登場人物達と格闘した俳優たち。その中で、ほぼ初舞台の二人のあふれ出るような、ひと夏の汗と涙で頑張った思いの断片。

オーディション
勝負する場所に出たいと思った

大久保 わたしがオーディションを受けたのは、演出家の板垣恭一さんと、とにかく稽古場に行きたいと思って。ちょうど二年前に板垣さん演出の舞台を見て、そのときの人の作品に出たい！と。今回、女性役は2つしか役がなかった。で、その1つの娘役をひたすら練習して、獲りにかかりました。

間瀬 まず井上ひさしという人の作品に挑んでみたい、それが演劇を始めるきっかけになった。人の作品に挑戦したい。そういうふうな思いからでした。そして、よくの中で「お芝居とは何ぞや」と考えたときに、やっぱり人を喜ばせたり、

てたかもしれないんですけど。へんな話、そんな技術もないので。もし、ごまかせたとしてもたぶん自分が一番納得できないのは分かってたんで、どうしようかなって。でもそれに引き合うのは怖いなと思ってたんですよ。だって乗り越えられないかもしれないし。でも板垣さんは、乗り越える乗り越えなれない別に、ちゃんと戦っていう場を作ってくれたんで、あとはわたしがそこへ上がるかどうかの問題でした。

本番
～出会いってすごいなあ～

大久保 わたしがこの芝居をして一番素敵だと思ってたことは、竹田役が間瀬さんじゃなかったらあいうみさ（大久保さん）が演じた役にはならなかったし、みさと源次郎夫婦役も、わたしと唐沢（龍之介）さんでなくてはいけなかった。でも、それがないと、それがうまい下手は別に。当たり前にもしれませんが、人間と人間だから、お互いに相手が変わたら、言い方だとかアクションも変わってくるだろうし。役と役で会話していることも、生身の人間同士ということ、やっぱり芝居ってすごいなって思いました。

間瀬 オーディションで集まったとはいえ、結局はそれぞれが自分の役を自分のものにしていった結果なんですけど、でも観終わってお客様は「さすがオーディションで選んだだけあって、その役にちゃんと合った人がやってるね」と。大久保 みんなそう言うたけど、そうじゃないよ。

そして
～やっと始まった感じ～
大久保 この作品でいろんな人に出会えて、ここにいられたって……なんだろ。すごい。



稽古場
～ごまかす技術もなくて～
間瀬 今回の板垣さんの演出で思ったのは、俳優に対して、演出家がすべての心情を導くのではなく、それぞれの人が考え、答えをちゃんと導き出す、正解はあなたの中にしかない。だからそういう部分に引き合せて、役としてどう舞台上に存在するかが大切な問題でした。どういふふうに着るかをしゃべるかとか、自分がなをやるかとか、そういうことは演劇にとってはそんなに重要なことではなくて。相手の言葉をどう聞くか、そのときに何を思っているか、そこどう存在するか。そっちの方がたぶん重要。その演劇的な価値観を、板垣さんは最初から「さっさと」言っていたと思うんです。その部分で気持ちをこまかにしゃべらないって。

大久保 ごまかせるのであれば、ごまかしちゃっていいじゃないって。

くうれいし、自分がやっていることに、何だろうって疑問を初めて持てたって。うう、そんなところ、やと来たんだなと思って。そこから自分が始まるのか、なっているか、気持ちがあるんですよ。芝居に対して初めて自分の位置がちょっと見えたかなって思いましたね。

間瀬 ばくは、この先どうするんですかね？ この芝居はばくにとってはすごい転機なんです。たくさんお客様にきていただいって、知らない人からも「とても感動しました」って言ってもらえて。すごくくの中、うれいし経験だなあって。芝居の本当の楽しさをやと知ったという意味でも転機です。これから考えられるのか、なっていう感じですね。

間瀬英正

ませひでまさ○78年生まれ、愛知県出身。某広告制作会社勤務を経て、演劇界に。劇団青年座研究所を退所し、今回の『きらめく星座』に応募。参加。井上ひさしを尊敬し、板垣恭一を師匠としている。

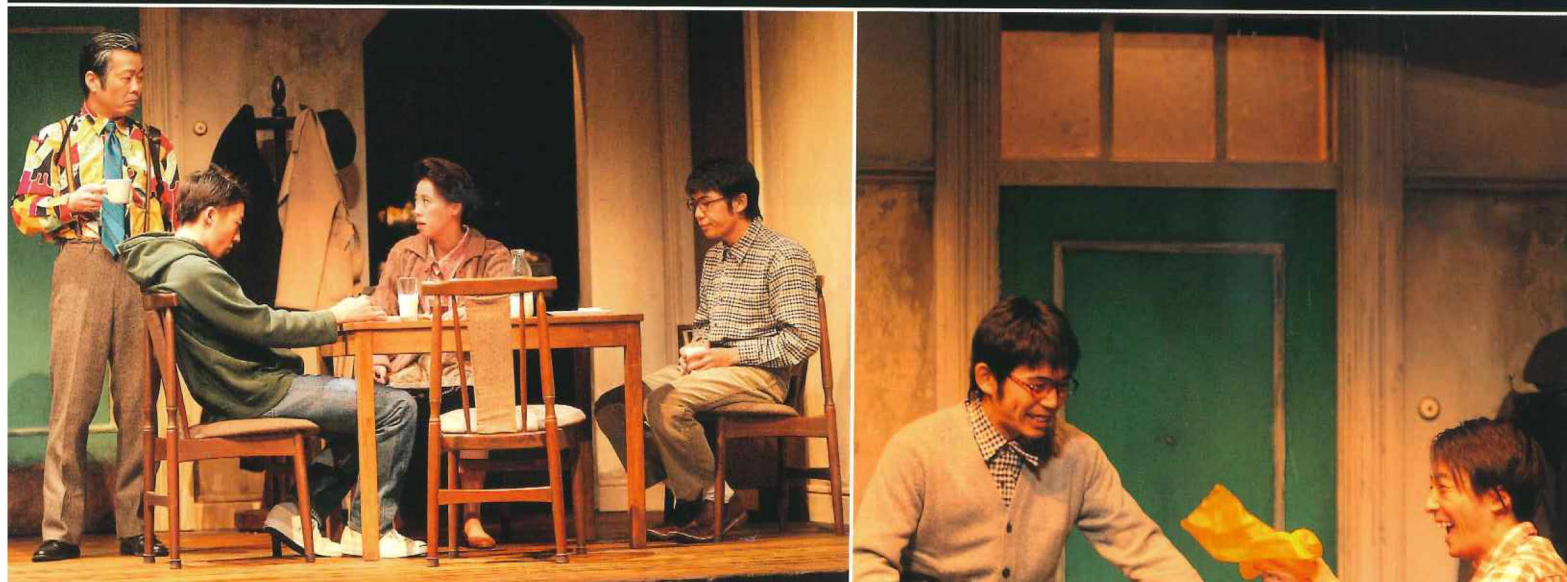
大久保綾乃

おおくぼあやの○85年生まれ、東京都出身。15歳でドラマデビュー。『はるちゃん5』『さよなら、小津先生SP』『自治会会長系井井芽子-社宅の事件簿-』シリーズなど、映像を中心に活躍してきて、今作品で初舞台を踏んだ。



漂う電球

作・ウディ・アレックス 訳・鈴木小百合 演出・ケラ
リー・サン・ドロヴィッチ 出演・岡田義徳 高橋一生
伊藤正之 岡田由里子 町田マリー 逢田いづけい
9/28~10/9 本多劇場 10/12 名義ホール
10/14~15 松下IMPホール 10/19 湘南台文化
センター市民シアター 10/21 宮崎県立芸術劇場
10/22 メルパルクホールFUKUOKA



セリフのすきまを生きる

無言の中で伝えあう

——この脚本を初めて読んだ時は、どういうふう
に感じましたか？

高橋 大まかなストーリーはわかるんですけど、
サブテキストが読み取りづらいというか、余白の
部分がすごく多いんですね。僕は特に、簡単に
言っちゃえばセリフが少ないので、その余白を生
きてく作業をどうしようかというふうにかんが
てて、立ち稽古でしかつかめないなと思っ
ていて。それが課題でもあり、楽しみどころでも
あり、ついでに思いました。

岡田 僕も、最初に台本を読んだ時は、これは
やってみないとわからないなと、自分の頭の中
だけではどうにもイメージがきつなかったけど、
逆に計算ができないものってやっぱりおもしろく
感じるし、どんなふうにも転んでいくかなん
て思ったというか。実際やってみて、脚本には書
かれてないけど裏に隠されていることがものす
くたくとあるんだろな、というのが思いま
したな。

高橋 観る人もやってみる人も自由度高いん
ですよ。観る人に委ねる部分もすごい多いと
思うし、自分たちで作っていくところもちろ
ん多いんだ。そこを埋めてく作業は楽しいです。
岡田 子ども部屋に関しては、すごく限られた
動きの中でやってみようと思います。お客さんが入っ
てみるとやっぱり大きさは動かないけど、そう
いうことを意識するのかもしれないですね。観
てる方も集中力が分散するじゃないですか。そ
れはやっぱり、見せる側として良くないことだ
と思うんです。

高橋 収束していくのに差し障りのない動き
をね。

——セリフがない部分がすごく重要っていうか、
大切な感じがしたんです。

岡田 セリフがないからといって、お互いすこ
い集中力もいるし。だから、その間を二人とも
つなげてはいると思うんですけど、隙間を埋
めるというか……今、いいこと言いましたけど、
隙間を埋めるってね。

高橋 お、ありがとうございます(笑)。

子どもの思考回路

——お芝居の中で、ただ、そこにいる、ついで
のは一番難しいんじゃないかと思ったりする
高橋 ウディアレックスのこと、時期憎みました
よ、僕。

岡田 僕も一回憎んだねえ(笑)。

高橋 なんて動きが書いてなくて、小道具の指
示ばかり書いてたんだよとか。

岡田 そうだね。
高橋 読めば読むほど、エチュードをやりに
作っていった台本のような感じがしてなら
ないです(笑)。いいとか悪いとかじゃなくて、
すごく感覚的な本なんじゃないかな。

岡田 多分、僕らの役はほんとに子どもがやっ
てたんじゃないかと思う。
高橋 子どもの会話を思い出したんだね。会
話にならないんです(笑)。突発的に思ったこと
を言うっていう。子どもって、一つの回路じゃな
くて、多分いろんな回路が頭の中にあって同時
進行してるんだと思うんです。そういう感覚
ってすごいって思いつつやりましたけど。

岡田 話が全然噛み合わないで会話が進んで
るから(笑)。

高橋 それでも相手を気遣ったりしてるん
で、確実に。だけど別の受け取り口で受け取り
皿に入っちゃってるっていう感覚がすごいあるん
ですよ、話してて。

岡田 そうですか……、そういう考えで。

高橋 そういう考えで俺は来た(笑)。

岡田 僕もじゃあもうちょっと考えます(笑)。

高橋 でも、そういうのあるでしょ？ すれ違
ちやうどっていうか、会話になってないって。

岡田 ありますね。間違った気遣いをしてるわ
けではないんだけど、自分なりの気遣いをして
それが相手に伝わって不快に感じたりとか、理
解できなかったりっていうずれの違いがあるだけ
言葉を変えてない時のほうが仲がいい(笑)。

高橋 そうなんですよ。

——すごく兄弟が無言のうちにいたわり合
ってる感じがしました。

岡田 家の中に寂しい感じがしたっていうのはあ
るんですよ。家の現状や自分たちがどうにも
ならないことにイライラしてるのが弟だし、僕は
自分のこともりっていいことに対してすごくコン
プレックスがあるし、で、いろんなものをちゃんと
見れてるのは、たぶん子どもたちなんじゃないか
なってるんです。だから二人のところは何か
救いがあるかなって。それは、何となく感覚で
やっている部分だとも思います。

高橋 そういふ確認は、メン一緒に食に行つて
も言わないでもうんね。

岡田 そうだね。あの狭い空間に二人でい
るっていうことでやっぱり、何かが生まれると思
いますから。



岡田義徳

おかだよしのり 77年生まれ。
岐阜県出身。94年に『アリス
らば』でドラマデビュー。今年の
舞台は梅村『GS近松商店』に
続き2本目。

活動予定 映画『木更津
キャッツアイワールドシリーズ』
公開中

高橋一生

たかはし いっせい 80年生まれ。
東京都出身。舞台は『ハルシ
オンデイズ』『歩兵の本領』『ア
イスクリューマン』『トランス』な
どに出演。

活動予定 映画『MEAT BALL
MACHINE』公開中

夏の夜の夢

作○ウィリアム・シェイクスピア 脚訳○松岡和子 脚本・演出○倉田淳 出演○
岩崎大 曾世海児 奥田勇 坂本岳大(劇団昴) 松本慎也 山本芳樹 植原秀佳
関戸博一 小野健太郎 倉本徹 三上俊 富士亮亮 青木隆雄 森山洋貴 下井頭太郎
稲石飛幸治 山崎康一 篠田仁志 青木隆雄 深山洋貴 下井頭太郎
藤原悠児 舟見和利 竹島進一 仲原裕之 河内喜一郎
9/7~10/1シアターサンモール
次回予定○『銀のキス』12/7~17シアター
1010



楽しい一夜の
夢のような
爽快感

男優劇Studio Lifeが初めて挑んだシェイクスピア作品は、『夏の夜の夢』。歌あり踊りありドタバタありで、演じる側も観る側も、とても楽しめる舞台となった。ダブルキャストでハーミア役を演じた岩崎大は、その長身を生かしたキラのある動きで客席を沸かせた。公演を重ねることにヒートアップしていったという岩崎ハーミアのテンションの源は？

男だけでやるからその面白さ

最初に台本を読んだときは、ハーミアは限りなく遊びが少なく役だと思ってたんです。おとなしいイメージというか。基本的に、喜劇であるが悲劇であるうが、お芝居をやる以上は、気持ちが入ってないといけない。役の気持ちをもっとく無視してやりたいことだけをやってしまおう、なんでもない芝居になっちゃう。なので、稽古中は、流れをつかむまではあまり遊んでなかったんです。だけど二つの要素として、喧嘩のシーンは本気でぶつかっていくという、テンションでやってほしい、という倉田さんからの注文もあって、どうしようかなと自分なりに考え、身体を動かしてみたら、それが採用されました(笑)。

自由に舞台を遊ぶ

ライサンダーとディミートリアスは、惚れ薬をぬられてテンションが上がっているわけですが、女性二人は普通なんです。ハーミアはもともと好きな人を追いかけて回すというキャラクター



男だけでやるからその面白さが出せればいいかなと思って、側転したり高いところから飛び降りたり、ちよとアクロバティックな動きをしてみました。そういう動きに関しては全部僕が勝手にやってみて、倉田さんがわかってくださって採用していただいたという感じなんです。

ハーミアとヘレナの黒い合いの場面では、チームによって台詞もちよと変わってました。岩崎さんは『デカ女』と罵られたりしてました。

あれはもろに当て書きです(笑)。倉田さんの台本で、当て書きというのはあまりないんですよ。しかもチームによつて台本が違つ、というのは珍しいですね。基本的にはアドリブはあまりないんですが、やっぱり本番でお客さんが入るとテンションが上がるので、日が経つにつれてちよとアドリブも増えるし、飛ぶ高さも高くなつてくると思います(笑)。後半になるにつれてヒートアップして、初日に比べるとだいぶハードになってきましたね。



結婚を反対されたハーミア(岩崎大、松本慎也)とライサンダー(曾世海児、山本芳樹)は、駆け落ちするため森へやって来た。ハーミアに求愛するディミートリアス(奥田勇、植原秀佳)と、ディミートリアス愛しているヘレナ(坂本岳大、関戸博一)も二人を追って森へ。妖精の王オーベロン(石飛幸治)は、ヘレナを両思いにさせるため、妖精バック(小野健太郎、倉本徹)に、ディミートリアスに惚れ薬をかけることを命じる。しかしバックが誤ってライサンダーに惚れ薬をかけてしまい、大騒動に……。

ですけど、ハーミアは幸せな人で、美しく、好きな人とも相思相愛で、おまけに好きじゃない人からも愛されて。でも後半になつてそれが逆転して、ハーミアじゃなくヘレナが二人の男に愛されるようになってしまふ。その逆転劇が面白いところですね。ハーミアは葉もぬられていないのに、愛のために底力を発揮する。やっぱりハーミアって、基本的にはすごく純粋で可愛い女の子だなと思います。

ハーミアが暴れ回った後、疲れて森のなかで寝る場面がありますが、僕、あそこで本当に寝ちゃつてるんです(笑)。ハーミアのお父さん役の河内さんに「コラー」で起こされるんですけど、それで本当に起きる。だからあそこは演技じゃないんです(笑)。本当に寝てるから、森のなかで暴れ回ったことが、夢のように感じちゃうんです。

暴れ回る場面は、まるでハーミアとヘレナがヒーローみたいでした。

キャストイングの時点である程度そうなつてたんでしょうね(笑)。ヘレナ役の坂本岳大君とは、二年前のワークショップで初めて会ったんですけど、そのときにちよと仲良くなったこともあり、久しぶりで、頑張ろうね！って感じでした。いろいろと経験豊富な方なので、やってすごく楽しくて、ちよと意地悪でやろうとか、なんて思つても、ちゃんと受けてくれるんです(笑)。本当にそういう意味では、遊ばせてもらつてるといふか、一番自由にやらせてもらつてると思っています。なにが楽しいって、やってすごく爽快感が

岩崎大

いわさきだい ○東京都出身。98年にStudio Lifeに入団後、ほぼすべての作品に出演している。外部出演に「人間風車」(パルコ・リコ・モーション)、ミュージカル「ふたり」、『わが家』(明治座)、『URASUJI』、『忍者イリュージョン-NARUTO-ナルト』などがある。

次回予定○『無敵な男達』12/1~10○東京芸術劇場小ホール2



原作：ガストン・ル
脚本：アサー・コレット
音楽：モリー・イェストン
演出：中村徳
出演：春野寿美礼、桜乃彩音、彩良央
真飛聖、他 宝塚歌劇団花組
出陣（宝塚）
8/25・10/1・10東京宝塚劇場

パリ、オペラ座の地下に棲むファントム。
彼が愛したのは美しい音楽と美しい娘。
孤独に閉じ込められていた魂が、愛を知り、一瞬だけ歓びに輝く…。
優しく心にしみるメロディと切ない恋の悲しみが胸を打つ、
もう1つの“怪人伝説”。

ファントムの悲劇を際立たせる

ファントムに對峙する存在として、この物語に登場するのがフリップ・ド・シャンドン伯爵。青年貴族という地位、美しい姿、ファントムにはないものをすべて所有し、クリスティーンを愛する彼の存在はファントムを追いつめると同時に、物語に明るいアクセントをつけている。そんな大役を演じたのは、花組の人気男役、真飛聖。

陽の部分の難しさ

——作品の中で、とても大きな力をもつ役を自然に演じていますね。

最初は、物語の中で、どう自分の存在を見せたいか悩みながらやっていた。でも、東京公演では、自分でもかなりフリップになった気がします。毎日演じていくなかで、意識しないでも役になじんできずつづわってきたと思います。

——フリップのソロは何曲かありますが、聞いてみると美しいメロディですが、歌うのは難しいのでは？

そうですね。全体のトーンのなかで、他の曲より明るかったりノリがいいだけに難しい。この作品の陽の部分を受け持っていて、登場シーンがわりと高揚している気持ちで出て、それを曲に乗せていくのに、最初は戸惑いました。とくに2幕で、本当は苦悩を伝える曲なのに明るく流れるソロがあつて、そこで自分の感情、悲壮感をうまく入れるのがなかなかいへんでした。でもある意味では、感情的になりすぎないのが伯爵だし、それでこの曲調のなかにも思っている。

——恋敵というか、ファントムとクリスティーンというメインの流れに、つねにアクションを起こす位置づけでもありますね。

2人の物語に対して力を持つ役なので、登場場面は少ないけれど出る時は大きな役割りを果たさなくてはならないんです。それに、フリップが素敵にならないとファントムの哀しみを際立た

たせることができない。たとえば広場でクリスティーンと楽しく歌い合っている姿を、後ろからファントムが見つめている。ああいうシーンでは本当は楽しんで、素敵なカブールの見え方がうまいし、それでもまたファントムの孤独感が増すと思います。

——伯爵だし容姿端麗で、ファントムからすれば自分とは比べものにならないくらい恵まれた人ですね。

そこが課題なんです（笑）。がんばって綺麗に品よく、心をかけています。

——花組に組替えになつて、真飛さんは印象が変わった気がしますが、

星組との違いなどは、自分では分からないのですが「ファントム」の東京公演くらいから、いろいろなかたに花組らしくなったと言われます。花組に来て1年ちょっとが過ぎましたが、初めての公演「落陽のバルレモ」では、周りを見る余裕がありませんでした。今は組の人たちともコミュニケーションをとる余裕が出てきたし、それにつれて他のかたを見る余裕も出てきたことは確かです。

——主演の春野寿美礼さんを意識して見る部分はありますか？

これまでも上のかたたちを、ああなれたらいいなと見てきましたので、それは変わりません。でも春野さんは、独特の男役の色気があるし、繊細なのに力強い。センターに立つ大きさには、本当に感動します。真似はできませんが、少しでも近づけたらいいなと思います。毎日袖から見ずにはいられないんです。無意識に取り入れている部分はあってもいいですね。

——歌のうまい春野さんだけに、この役の歌声や感情の入り方が素晴らしいですね。

それを毎日いちばん感じているのが、一緒に出ている私たちだと思います。それによつて引き上げてもらっている「ファントム」の世界に入り込めるんです。

ミステリアスが課題

——「MIND TRAVELLER」では、いよいよドラマシティ主演です。

バウホールには何度か主演しているのですが、ドラマシティは舞台も大きいし、客席も多いので緊張しますね。役もこれまであまり演じたことがないような役で、記憶喪失の男の人。それを取り戻すために過去に戻って行くんです。謎があつたり何かを背負つた役つて、あまりやつてないから嬉し。しかも、作・演出の小池（修一郎）先生がそれを私に当て書きしてくださったというのが、よい嬉しいんです。

——確かに花組に来て、大人っぽさや柔らかな陰影が出てきましたね。

下級生の頃は、個性的な男役と言われていましたし、濃い役というか思いをはつきり出す役が多かつたんです。自分でも、黒っぽい役とか個性の強い役のほうが向いているんじゃないかと思っていました。花組で「落陽のバルレモ」「ファントム」と、伯爵の役を2本続け

ていたんで、初めて白い役もやれる自分を発見しました。

——いわゆる正統派の男役ですね。

最初は「本当に私にできるかな」とか「ムリムリ」とか思っていたんですけど、そこらでもできることが今は楽しいし、苦手なものにチャレンジするチャンスをしただけで、ありがたいなと思います。フリップみたいな純粋な二枚目です。以前なら照れてしまつたと思いますが、今は宝塚でしかできない役だから、と楽しめるようになったし、「似合つたよ」とか言われると、自分も変わるんだと前向きになります。

——そして、今度はミステリアスな男性にチャレンジですね。

小池先生によると「これまでのように濃くもないし、薄くもない役という

ことなので、また新しい色に染めたいだけなんです。主人公は、その人の人生とか人間性が書き込まれているので、楽しみながら演じたいと思いますし、主演というプレッシャーも楽しみに変えて、期待に応えたいと思っています。

——次回予定○シアタードラマシティ公演、東京特別公演「MIND TRAVELLER～記憶の旅人～」11/10～11/22○梅田芸術劇場 シアタードラマシティ、11/30～12/6○日本青年館大ホール

真飛聖

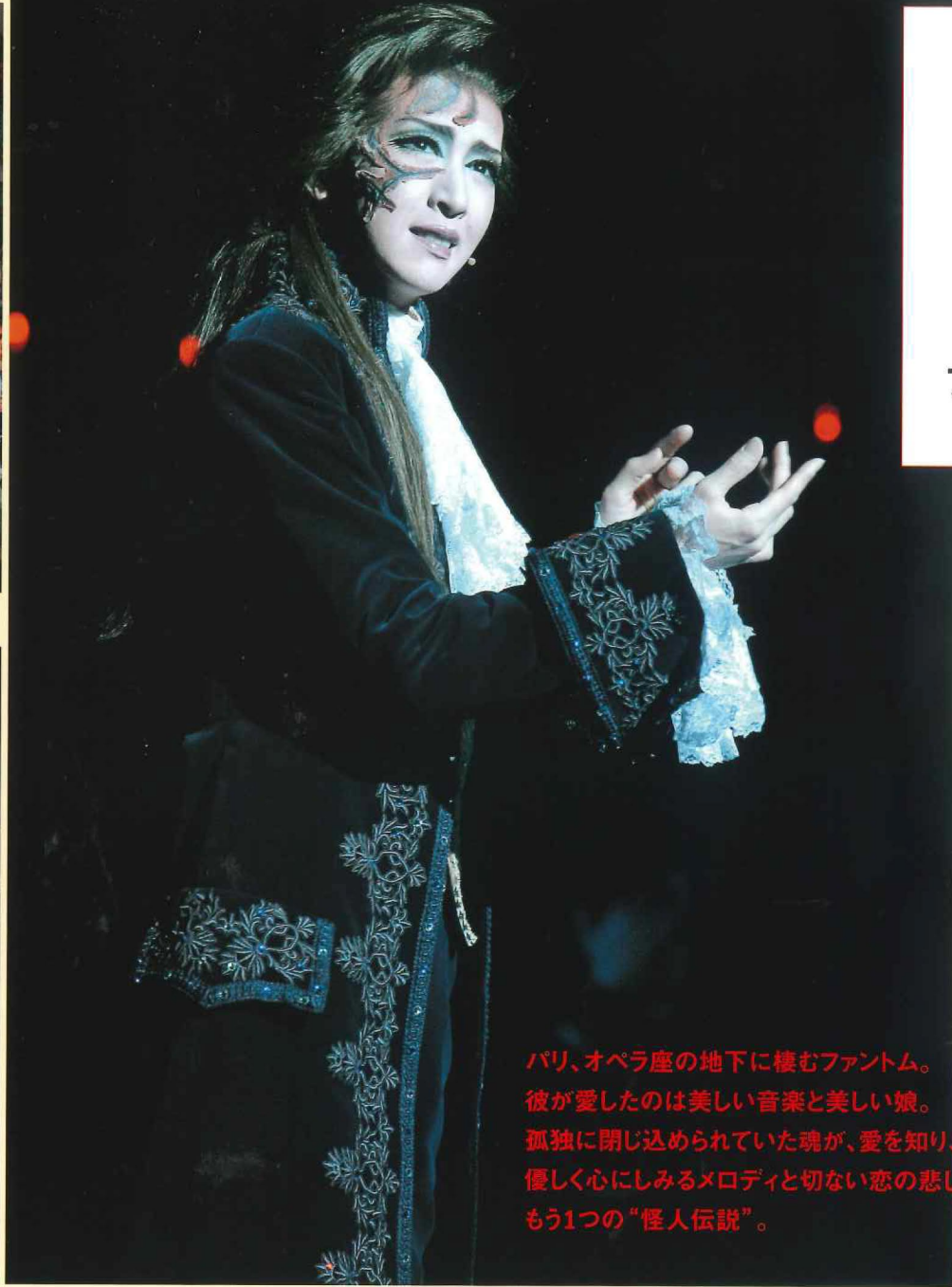


——*Sei, Hanagumi*
まとはせい○宝塚歌劇団花組。神奈川県生まれ。天秤座、B型。95年初舞台。星組に配属され、華やかで個性的な若手男役として期待される。99年「我が愛は山の彼方に」で新人公演初主演。02年「ウィンターガール」でバウ初主演（ダブル主演）。04年「花のいそぎ」でバウ単独初主演。05年8月より花組に組替え。春野寿美礼を支える存在として期待されている。

——



19世紀後半のパリ、オペラ座通り。美しい娘クリスティーン・ダーエが、歌いながら新曲の楽譜を売っていた。彼女の声に魅せられたシャンドン伯爵は、オペラ座で働けるよう取りはからう。オペラ座には地下に仮面をかぶったファントムが棲んでいたが、クリスティーンを愛する彼は、その清らかな歌声に、ただ一人彼に深い愛情を寄せた亡き母を思い起こし、彼女の歌の指導を始める。





レポート Vol.7

お台場フェス対策 緊急会議！

演劇と最も無縁そうな場所・お台場で、今年演劇のフェスティバルが開催されるという。時期はクリスマス、出演は全11団体。一体どういうフェスなのか、そしてその全貌は……？ 4劇団の主宰が語る、その意気込みとは——。

田辺茂範

福原充則

水谷圭一
みずたにけいいち○77年生まれ、愛知県出身。01年に『野鳩』を旗揚げ以降、全作品の作・演出を手がける。

水谷丰一

回り舞台の裏で
セットチェンジが大変で

まず、初演の思い出をお聞かせ下さい。

廣川 忘れちゃっていることもあると思って、改めてビデオを観たんですけれど、意外と役の数がいっぱいあったんだなと思います。みんななつかえひつかに色んな役で出ていて、僕も数えたら九つくらい役を、しかも通りすがりの男とか、全然忘れているようなキャラクターでも出ていました笑。しかも初演の時は回りで舞台の裏でセトウチエジが大変で……。音がないように気を付けながら段ボールを片付けつつ、次の準備しつつ、また着替えつつ……と、そういう体力的なしんどさを思い出したね。志賀（廣太郎）さんと一緒に片付けたり……。

役者さんご本人が舞台裏で片付けを？
廣川 はい。スタッフさんだけでは間に合わない
ということもありますし、色々な人間が乗り降
りして音をたてるよりは、そこにいる人間がやつ

「……ぼく

渋谷 多分、私は廣川さんの状況とは全く違う所において。廣川さんはご自身の劇団での出演ですが、私はこの「ナイスエ이지」が初めての客演だったんですよ。だから、自分以外のことは何も考えられないような状況でした(笑)。あと、原

(金太郎)さんと×××するシーンで(注)ネタバレになる恐れがあるので伏せ字にしました。是非劇場にて皆さんの目で確かめて下さい！、私は悲劇だと思っていたんですけど、お客さんには喜劇にうつるようです。

のですが、その辺は06年バージョンに変わるので、初演時00年は時事ネタが多かったと思うでしょう？

廣川 初演には、1964年にタイムスリップした大倉孝二が、「こないだの新潟の地震どうだった」みたいなことを聞かれて困るシーンがあるんですよ。実際に1964年頃、新潟で地震があったらしいんですが、今、その台詞を聞くと

県中越地震のことを連想してしまいうから。その
辺りは別の話題に代えるんじゃないでしょうか。
池谷 6年経つと随分変わっちゃいますよね。あ
の頃は力ナビというシステムそのものが面白
かったり、携帯電話もまだ、最先端みたいな感
じがあったけど……。そういう所で笑いが生まれて
いましたしね。

KERAさんから何か具体的なお話はあ

池谷　今の所注、取材日は10月前半）は特にな
いですね。でも、この前ちよつとだけ話した時には
「長いから短くしようかな」とは言っていました
けど（笑）。

廣川　でも、どこを削ればいいんだろう？ とは少し思つかも。出演する役者の人数も増えるから、むしろ長くなっちゃったりして（笑）。

観やすい作品だと思いますよ。
廣川 そうそう、お客さんを選ばない感じ。
池谷 女の子と男の子が来てもいいし、お父さん
やお母さんと来てもいいし。
廣川 昭和というのがテーマのひとつになっている
ますからね。昭和の香やエッセンスが割ときち
んとあると思うので、年輩の方にもお薦め出来
ます。ただ、昭和の香りはクリスマスには似合わ

——年末にこういうお芝居をがつり観るというのも、楽しいイベントになるという気がしますよ！

池谷　うてすよねー。豊かな気持ちになりま
すよねー。クリスマスプレゼント。……みんな、イ
ブに来ればいいさ。昼公演を観て、夜には「……
ぼくたちも歴史にならないかい？」みたいな。
廣川　あは(笑)。あんまりイブ、ばい芝居じゃ
ないんじゃないかな？

——あくまで予想で構わないのですが、この再演で使われるかもしれない今年の時事ネタというふうに思っているものはありますか？

——デトとしては楽しいデトになりますよね
この作品で一緒に笑うとか。
廣川 イフに公演をやったことありますけど、お
客さんはやはり少ないですよ。
池谷 でも『ナイス+ナジ』はナイロンさんの
中でも比較的一般のお友達を連れていきやすい

池谷　　うーん、最近のこと……。メル関連は何があるんじゃないかなと思います。この前、携帯中にデコメルアンメーション等が付いたメルが届いたことにK E R Aさんがびっくりしてしまいました。

廣川　　えーなんだろっ？　うーん、ハンカチですか。

次回予定◇ナイロン100℃『ナイス・エイジ』12/9～24◎世田
谷パブリックシアター◇演劇キックプロデュース 演劇ぶっく社
20周年記念公演「レミゼラブル」07/4/5～9



——電車の男なんですな(笑)。

池谷 普通に「俺、男」と言だけ言ったりとかね。

あれから6年経って、うーん（笑）
——では最後に読者の方にメッセージを。

池谷 初演を観た方は再演も楽しみにして下さっていると思うんですけど、今度は出演するメンバーも違うし時代も違うから、また新鮮なものになると思っています。ですから、前に観た人は必ず、初めての人もとても面白作品だから是非、という感じでしょうか。これ観ないといねー、年があかないと思います(笑)。

廣川　そこまで言うんだ(笑)。ええと、今年は『カラフルメリィでオハヨ』とこれと、再演した2作品の両方が家族の話で、峯村(リエ)と大倉はどちらも家族役で出ているんですけど、カラ

フルメリイで夫婦をやっていた2人が今度は親子役なんですよ。あの自然だった夫婦役の2人が今度は親子役として自然に見えるのかどうかという所は面白いと思いますね。あと、この作

品はやたら高校生役が出てくるんですけど、6年前でも制服とか結構しんどい感じがあったのに……、あれから6年経って、うーん笑。これはお客さんにとって楽になるのかどうかかわらないんだけど。

池谷　だから初演より広い劇場になったとか、そういうこと……ではないか笑。

廣川　高校生役がちゃんと成立しているのかどうかを見とくのひつに+えて頂ければと思います。

新しい舞台芸術の世界にチャレンジできる
専攻基礎に力を入れ、表現力の錬成を行なっています。

日本大学藝術学部

Photography / Cinema / FineArts / Music / LiteraryArts / Theatre / Broadcasting / Design

8つのアート1つのハート
N U
Nihon University College of Art
Art

演劇学科

劇作・演出・演技・装置・照明・日舞・洋舞・企画制作



密度の高い実践教育で

【試験日】

1次/2月20日(火)

2次/2月23日(金)



創造的な表現力が目を覚ます。

— 2007年度学生募集 —



【出願期間】

1月8日(月)~2月13日(火)

※郵送必着

2月14日(水)のみ窓口受付



芸術学部入試日程

<http://www.art.nihon-u.ac.jp>

写真学科	映画学科	美術学科	音楽学科	文芸学科	放送学科	デザイン学科
※2月20・21日 (火・水)	※2月13・14日 (火・水)	※2月6・7日 (火・水)	※2月6・7・8日 (火・水・木)	①2月27日(火) ②3月2日(金)	①2月6日(火) ②2月9日(金)	※2月27・28日 (火・水)

※写真学科・映画学科・美術学科・音楽学科及びデザイン学科の各試験は、一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。

※1月31日(美術・音楽・放送)、2月7日(映画)、2月14日(写真・演劇)、2月21日(文芸・デザイン) (いずれも水)のみ、江古田校舎にて直接出願受付を行います。(受付時間=9:00~17:00)

※①は一次試験 ②は二次試験

●入試要項は11月中旬から全国著名書店で頒布予定です。郵送希望の場合は、〒101-8977東京都千代田区神田郵便局留 日本大学広報部入試課入学案内係 ☎03-5275-8001 送料とも1200円(定額小為替)右記宛にお送り下さい。

日本大学 芸術学部 演劇学科

〒176-8525 東京都練馬区旭丘2-42-1 ☎03-5995-8260 入試係直通8282

<http://theatre.art.nihon-u.ac.jp>

CLOSE-UP STAGE

ラジオに夢中になるひととき

演劇集団キャラメルボックス

『少年ラジオ』

11/2~5◎西鉄ホール、11/10~20◎新神戸オリエンタル劇場、11/25~12/25◎サンシャイン劇場
脚本◎成井登+関部雅則 演出◎成井登+白井直
出演◎岡田達也 大内厚雄 菅野良一 坂口理恵 岡田さつき 岡内美嘉子 畑中智行 他
お問い合わせ:演劇集団キャラメルボックス 03-5342-0220
<http://www.caramelbox.com/>



畑中智行

はたなかともゆき◎78年生まれ、奈良県出身。00年より演劇集団キャラメルボックスに入団。06年は『賢治島探検記』『あした あなたあいたい』『雨と夢のあとに』そして『少年ラジオ』(いずれも演劇集団キャラメルボックスの公演)の4本に出演。

次回予定◎『少年ラジオ』

演劇づくし全面協力の携帯サイト『演劇モバイル』でもインタビューを配信! 詳しくは80ページをチェック!

舞台上では10代のキャラクターを演じることが多く、その役所と運動神経抜群の体の動きからフレッシュなイメージが強い畑中智行。だが、一旦舞台を降りた彼は“元気で天真爛漫な少年”というよりは、落ち着いた1人の男性という印象だ。「色々な目標を持ってこの劇団に入団した」という畑中は、今、そのうちのひとつを叶えようと必死にその先を見つめていた。

「目標を持っていること自体はすごいことだと思っただけで、やっぱりそれだけじゃダメなんだよな。やりたい! やりたい! だけだと現実的にはなかなか厳しいというか...。やりたいことをやる為にはどうするの? という部分がすごく大事だと思ってるんです。」
そう語ったのは、演劇集団キャラメルボックスの俳優・畑中智行だ。年間5~6本の舞台をコンスタントに公演し続けるキャラメルボックス。畑中にあって今年4本目の出演となる『少年ラジオ』で、彼は晴れて主演を担うこととなった。
「このお話をいただいた時には、嬉しいという気持ちよりもフレッシュの方が大きかったです。昔だったら普通に『やった!』って喜んでいたらおかしいんですけど、主演というのはある種公演自体を引っ張る人間ですし、勿論責任もたらなくてはいいですから、最初はものすごくプレッシャーでした。」
入団7年目にして初の主演を任されたのは単なる幸運などではなく、畑中自身が目標を達成する為に努力を続けてきたからなのだろう。では、今作はどんな舞台になるのだろうか?
「今回は、とにかくみんなで汗をかくてエネルギーをやる! ということを前提にスタートしています。クリスマスツリーなんですけど、手に汗握る冒険活劇になると思います。」
物語の設定は大正15年12月の東京。3年前の関東大震災で両親を亡くし、仕方なくスリで生計を立てているのが、主人公の小林ラジオだ。ある日、財布をすられて困っている娘を助けたことをきっかけに、ラジオの運命は大きく変化していく。
「最近は何事か起さないと多いと思うんです。何かをやりたいと思っても、ただ『羨ましいな』と憧れているだけで何もしないとか。このラジオという男の子は、震災の被害に遭いながらも自分自身の人生を生きたい、大切な人を助けたと思って、すごく前向きに努力をするんですよ。そういうラジオを見て頂いて、何かを感じて頂けるように僕も頑張りたいですね。」
話を聞けば聞くほど、畑中智行という俳優と小林ラジオという少年は、とても近い存在なのではないかと感じる。めんどくさい日常に悩んでばかりの自分自身に喝を入れるべく、年末にはラジオ少年・畑中智行に、勇気を分けてもらいたいと思う。

WANTED

《E.G.WORLD IV》5月公演 出演者募集

《E.G.WORLD IV》は、映画『赤目四十八瀧心中未遂』に出演した金堂修一が主宰し、映画『県庁の星』に準主演の和田聰宏も出身のグループです。芝居の力を信じ、プレッシャー・コンプレックス・ディスコミュニケーションをテーマに、メンバーのベストキャラ・ベストプレイを探索中。もっとヘヴィに! もっとハードに! もっとディープに! 本物(印象に残る芝居)をつくりたいあなた、本物(存在感のある役者)になりたいあなた、いっしょにゼロから挑戦しましょう。

《応募資格》18〜29才の男女。経験不問。
《応募方法》履歴書と写真2枚(顔アップ&全身)を郵送。《宛先》〒169-0073 新宿区百人町1-11-10 金堂方『E.G.WORLDIV』ENBU係。《締切》12月31日(日)。《選考方法》書類審査後、電話審査。2月上旬より約2ヶ月間のワークショップ(週5日夜間)。キャストイング後、4月上旬より台本稽古(週6日夜間)。5/4(金)〜6(日) 新宿タイニイアリスにて本番。
《備考》チケットノルマ40枚。会費月1万円。
《共催》(株)プロダクション パンプー。

演劇ぶっく 外部ライター募集!

『演劇ぶっく』では、取材やインタビュー記事、レビュー等を書いてくださるライターを募集します。

応募資格:経験は問いません。演劇が好きな方。

応募方法:1.最近観た芝居についての感想文(400字程度)、2.好きな劇団を3つとその理由、3.住所、氏名、生年月日、職業、電話番号、を明記の上、下記の宛先まで郵送またはメールでお送り下さい。

宛先:〒162-0065
東京都新宿区住吉町1-12-7F
(有)演劇ぶっく社
演劇ぶっく「外部ライター募集」係
E-mail:info@enbu.co.jp

結果:お願いをする方には12月末日までにこちらからご連絡させていただきます。尚、応募原稿等の返却や選考結果に関するお問い合わせには応じかねますので御了承下さいませ。ご応募お待ちしております。

締切:2006年12月20日(当日消印有効)

シバイのミカタでは読者の皆様からの投稿レポートを募集しております。面白い作品を観た感動を色んな人に伝えたい!と思っている演劇好きのあなた、ご応募お待ちしております! 尚、投稿レポートを採用させて頂いた方には掲載誌を贈呈致します。

※投稿は、①公演名・劇団名、②レポートのタイトル、③レポート本文(200字以内)、④公演クレジット、⑤投稿者のお名前・ご住所・お電話番号をご記入の上、封書またはメールにて受け付けております。本誌掲載の際にはこちらからご連絡を差上げます。掲載に関するお問い合わせは応じかねますのでご了承下さいませ。

▶▶ 応募先
〒162-0065 東京都新宿区住吉町1-12-7F 演劇ぶっく社 シバイのミカタ投稿レポート係
E-mail:info@enbu.co.jp



『UNDER GROUND』

庭劇団ベニノ



撮影◇田中亜紀

この異空間 ナシ? アリ?

舞台右奥にジャズバンドを配置し、歩度くに水音が響くなど聴覚的な演出が効果的に用いられていたが、むしろ視覚的な芝居という印象を強く受けた。音が聞こえれば舞台上に目を凝らし、バンドの演奏が盛り上がりれば目の前で実行されている光景がまた違った様相に見える。ここで実行されていることは日常とは全くの異空間。音を体感し、奇妙な外科手術を見守り、どしゃ〜とか思いつつ劇場を後にする。これもまた、この劇団の楽しみ方だと思ったりします。(園田)

脚本・演出◇タニノクロウ 出演◇瀬口タエコ 島田桃依 安藤玉恵 佐山和泉 保坂エマ 吉原朱美 横島愛希子 飯田一期 ママ山 佐山こうた 中林重平 長谷川学
9/15〜20◇下北沢ザ・スナリ
次回予定◇庭劇団ベニノ The 14th garden『タイトル未定』
07/24〜3/4◇下北沢 駅前劇場

『背中から四十分』

渡辺源四郎商店



撮影◇田中流

無言の対話にかかる魔法

会社から裏切られ、家族には見放され、唯一の支えの心を約束した女性にも逃げられて、どこにもいけない男……。その男と同じく不幸な過去を持つ女性マッサージ師がマッサージする。シンプルな物語だが、まるで血流を感じるような“熱”を帯びた芝居だ。絶望の全てを告白した男の“コリ”をほぐそうと、無言で全身の力を両手に集中させるマッサージ師の姿は「変われ! 変われ!!」とココロの化学変化に真っ向から挑んでいる錬金術師のように見えた。(園田)

作・演出◇塩澤聖悟 出演◇森内美由紀 山内健司(青年団) 工藤由佳子 高坂明生 佐藤良洋(東京倶楽部)
9/26〜10/4◇こまばアゴラ劇場、10/7〜10◇アトリエ1007、
10/14〜15◇北九州芸術劇場 小劇場
次回予定◇渡辺源四郎商店 第3回公演『素顔』12/8〜14◇アトリエ1007(青森)、12/16◇康楽館(秋田)、07/1/4〜7◇王子小劇場(東京)

『アンドロゲン・レインボー』

ゴキブリコンビナート



撮影◇青木司

前代未聞の“ビッグウェーブ”

開演してまもなく、「ビッグウェーブ!」の声とともに天井一面に吊られた板が客席に降りてきた。潰される!! しかし、ちゃんと板には頭を出すための穴が空けられていた。なんたる大仕掛け。観客の頭の周りを役者たちが跋扈し、四方八方から容赦なく水やペプシや醤油(!)が飛び散る。過去と現在、妄想と現実が行ったり来たりするストーリーは一見散漫に思えるが、実はちゃんと繋がっていて感心させられる。「観る」というより、まさしく「体験」。ハマる人の気持ちがよくわかる。(渡辺)

作・演出・美術・出演◇Dr.エクアドル 出演◇小山道 スピロ平太 ポポジャ貴族 病気マン オメス吉祥寺 オマンケー・ジェット・シティー もえみ 油輪博士(Power Doll Engine) 砂糖マキ(コスモル) 櫻土点 ケン・非・ショク・ヨ(コスモル) 亀子のぶお 堀内曉子 本間幸子 中根道治 西森久晃 千鳥格子
9/15〜18◇中野光座
次回予定◇死神企画第5弾(ライブ出演)12/9(土)◇神楽坂ディメンション

『スタンレーの魔女』

スペースノイド



撮影◇名鹿祥史

黙して語らぬプロペラ

まず、舞台天井から吊りてある巨大なプロペラが目に入った。太平洋戦下時の一小隊の物語なので別に不思議はないのだが、作品や公演に対する真剣さを感じる。ちょっとベタな笑いを上手く配合しながら、不器用ながら実直に生きる若き兵隊達を描いていた。“背中で語るのが男の美学”なんて少しかっつかった言い方をするのなら、この公演で松本零士とスペースノイドの背中が見えたような気がする。あのプロペラと同じくらい、大きな背中だった。(園田)

原作◇松本零士 脚本・演出◇御笠ノ忠次 出演◇矢崎進 鈴木悠文 魚住和伸 清水洋介 清水嘉邦 藤代和真 浅倉洋介 藤枝直之 船生光
9/22〜10/1◇池袋シアターグリーン BIG TREE THEATER

毎日毎日どこかの劇場で上演されているたくさんのお芝居たち。
全部観ることはもちろん不可能だけど、時間とお金の許す限り、
面白い芝居をたくさん観たい! このコーナーでは、
本誌編集部員&ライターが観た『面白かった!』芝居をご紹介します!

『ノーバディー』

演劇計画2006 前田司郎ワーク・イン・プログレス公演



死によって明かされるそれぞれの生き様

小さな町が舞台の群像劇……と思いきや、序盤から登場人物が次々と謎の死を遂げていく。実は人類が一斉に死滅し始めた世界の中、人間の生き様ならぬ「死に様」を見せるのが目的の芝居なのだった。中途半端な人間の死はやはりどこかマヌケだし、人に依存して生きる者はやはり他人の手にかかって死ぬ。死に様と生き様は紙一重。誰もいなくなった舞台を観ながら、なぜか「ちゃんと生きていかねばね」と、どの芝居を見た時よりも強く感じたのでした。(吉永)

作・演出◇前田司郎(五反田) 出演◇浅井浩介 荒木千恵 上田眞壽 岡崎秀昭 尾方宣久 剣崎あさむ 駒田大輔 鈴木正信 高田可優子 長沼久美子 新田あけみ 野津あけみ 肥田知造 深見七葉子 松田裕一郎 宮部純子 森岡望
9/12◇京都芸術センター・フリースペース
次回予定◇演劇計画2006 山下残演作品公演『動物の演劇』07/11/11〜14
◇京都芸術センター・フリースペース

『へ音記号の果物』

蜻蛉玉



女とは、不可解な生き物である。

「おなかのなかにいる子供を芸術に触れさせる会」に参加している4人の妊婦。うさんくさい男の先生による講義は、絵本の朗読、おかしな振付のラジオ体操、さらには自分の“カント”の絵を描かせたりなど、かなり突飛。そんな爆笑ものの場面を交えながらも、「女」でいることの不可解さを丁寧に描く。妊娠を喜ぶ女もいれば、疎ましく思う女もいる。「女」であるということ、そして生命の源である食物について、自由な感性で思いをめぐらした。(渡辺)

作・演出◇島林愛 出演◇神林裕美 打田智春 佐藤恵 安村典久
9/15〜17◇中野野柳ブスコー
次回予定◇蜻蛉玉『タイトル未定』3/28〜4/2◇こまばアゴラ劇場

『戸惑いの日曜日』〜「アバッチ砦」の攻防より〜



撮影◇加藤幸

サプライズ人選、あるかも

高級マンションで日曜日の午後を楽しむ鶴木研四郎は、色んな訪問者が来る度にあたふたそわそわ。実はこの部屋にはすでに新しい住人が越えてきていた。じゃあ、何故彼がこの部屋でくつろいでいるの……? キャストが入れ替わり立ち替わりでドタバタコメディを展開する中、ノンストップで舞台上を駆け回った佐藤B作に引張られ、観客側としてもノンストップで物語を堪能しました。あの運動量は素直に感服。オシム監督が観ていたら、ひょっとして!? (園田)

作◇三谷幸喜 演出◇出演◇佐藤B作 出演◇西郷輝彦 小島慶一郎 あめくみちこ 堀川みえ 中澤裕子 角間道 佐藤裕 市川勇 小林十市 山本ふじ子 小林美江 市瀬理都子 斉藤レイ 8/31〜9/10◇サンシャイン劇場、9/12〜14◇大阪厚生年金会館 芸術ホール、9/16〜18◇中日劇場
次回予定◇劇団東京アワード・ウィルソン「エクスツ」11/10〜29◇紀伊國屋サザンシアター

『暖かい氷河期』

中野成樹+フランケンズ



撮影◇IIDA Kenki

オシャレで斬新な「誤意識」劇

ある召使いがたまたま二人の主人に仕えることになったことから起こる喜劇。3組の男女の恋愛を交えつつ描いたカルロ・ゴルドーニの『二人の主人を一度に持つ』。複雑な原作をかなり大胆に「誤意識」し、現代風にアレンジしてわかりやすく面白く、かつスピーディーに仕上げた作品。「結婚したいな」と呟く女性や、次々と職を変える「バイト君」など、登場人物の造形が極めて現代的。それでいて翻訳劇特有の独特の言い回しも残っていて、その混ぜ合わせ加減が極上。(渡辺)

誤意識・演出・美術・出演◇中野成樹 出演◇村上聡一 福田毅 野島真理 石橋志保 篠崎高志(P00L-5) 本多幸男(第七病棟) タケシタユウジ(Dotooi!) 松村翔子 ゴウタヒロ(P00L-5)
9/8〜18◇STスポット

シバイ の ミカタ

『骨唄…骨、咲き乱レテ風車…』

トム・プロジェクト プロデュース



撮影◇塩谷安弘

風車発電からもらったエネルギー

周囲の人々との生活に馴染めなくとも力強く生きようと決意する家族の物語なのだが、死を通すことで“生”を全力で見つめようとしているのではと思う。家族と共に生きる為、必死に世間と戦う不器用な父親には郷愁と羨望を感じた。場内に咲く無数の風車が一斉に回る瞬間は圧巻。風車は追い風ではなく向かい風を受けて力強く回る……。この芝居が大事にしていることは、そういうことなのかもしれない。終演後、劇場の外に出ると日常が少し眩しく見えた。(園田)

作・演出◇東憲司 出演◇高橋長英 新妻聖子 菅根真
8/5〜15◇吉祥寺シアター 他
次回予定◇「新型 開演ラジオ」11/15〜19◇SPACE雑遊 ◇「カラフ」ト伯父さん、07/1/15〜21◇ベニサンピット

『TAPMAN×PIANOMAN×MOVIE MAN Gorgeous Version』



撮影◇宮川舞子

天才たちのめくるめく競演

70年代後半が生んだ天才3人が、見事なコラボを見せてくれた。NY仕込みのリズムタッパー・熊谷和徳、クラシックから演劇まで枠を超えるピアニスト・福本響、この2人は77年生まれ。ミュージカル・小劇場、映画とその世界を広げていく奥秀太郎は75年生まれ。若々しく伸び盛りの才能が心地よくぶつかり溶け合う。2月のPIANO×TAPコラボに続いてMOVIEが表に出てきた今回。音もビジュアルも、まさにゴージャスな饗宴となった。(榎原)

演出・映像◇奥秀太郎 音楽監督・出演◇福本響 振付・出演◇熊谷和徳
9/8〜10◇新国立劇場中劇場

エデュパ

350

を超える豊富なスクール情報から、Webで探せる、本で選べる

演じたい人に！創りたい人に！
芸能・マスコミ界への進路情報

Web

Edu-PA
CAST&CREATORS

〈なりたい職種〉〈学校の形態〉〈学校
の名前〉でズバツと探せる！

<http://www.edu-pa.net>

- 「オーディション情報」
「NEWS & TOPICS」「名物先生」
- 声優や俳優を目指す人に
ゼッタイ必要な情報がいっぱい！
- ディレクター、デザイナーを
目指す人へ「公募情報」登場！
- 世界を股にかけて活躍する
映像作家、アンディさんの
「ハイブリッド講座」
大好評連載中！

ケータイ
サイトは
こちら！↓



〈一括・資料請求〉
でもれなく
エデュパ・バッグ
プレゼント

おたすけ進路 俳優編 2007

～ライバルには内緒！とっておきの入門書～

税込価格1285円(全国書店にて発売中)

おたすけ進路 声優編 2007

～声優界のトップ大集合！！

ズバツとわかるデビュー戦略～

税込価格1285円(全国書店にて発売中)

ANIMAL NATURE

～動物と一緒に仕事がしたい。
学校選びのサイト！～

<http://www.edu-pa-animal.net>

シバイ
ミカタ

チケプレ情報

チケットプレゼントを希望される方は巻末ハ
ガキに必要事項を記入の上ご応募下さい。
①～⑥公演の締切は11/20、③～⑥公演
の締切は12/8(両日とも消印有効)です。
チケットプレゼントは、プレゼント広場に掲
載されているプレゼントと併せての応募も可
能です。シバイとの出会いは一期一会。是
非とも劇場に足を運んでみて下さい！尚、発
表は当選チケットの発送をもってかえさせ
ていただきます。ご応募お待ちしております！



シバイはぎっかけがないと
つい観るタイミングを逃しがちになるもの。
「観に行きたいなあ」と思いながらも、
気がついたら公演日を過ぎていた……。
演劇好きのあなたなら1度はこういう経験ありますよね。
そこで「シバイのミカタ」では、その「ぎっかけ」をご提供！
前から興味のあったあの劇団の公演、
面白いと評判のこの劇団の公演などなど、
色んな公演のチケットをどんと一気にプレゼントします！

12/20～28◎新宿 シアターモリエール

向田邦子没後25年、落語家にして映
画監督、劇団下町ダニーローズ座長の
奇才・立川志らくが新たなキャストとと
もに、向田邦子作品の最高傑作に再び
挑む。「チャップリンと瀧美清と同じよ
うに、わたしは向田邦子愛している」と
語る志らく、北原佐和子、朝倉伸二、高
橋おかり、須藤温子、モロ師岡、原武昭
彦、片桐仁(ラーメンズ)、山田明郷など、
力強くてなんともユニークな座組みが実
現！昭和の名作「あゝん」が平成の傑
作へと、新たな感動を生む舞台となるこ
と請け合います。



立川志らく comment
私の向田邦子に対する愛が
必ずや観客の魂を揺さぶる舞
台を作り上げるとしています。
単に面白かったという舞台
ではなく、立ち上れない程の
衝撃を人々に与えたい。「あ
ゝん」ならば、小演劇の空間な
らそれが出来ると信じていま
す。寒い舞台にいたします。

チケプレ情報

12/21＝19:00 2名様
12/22＝15:00 2名様

4

「あゝん」

11/22～30◎下北沢 駅前劇場
12/8～10◎なんば 精華小劇場
作・演出・出演◎池田鉄洋
出演◎佐藤真弓 いけだしん 村上
航 岩本靖輝 菅原永二 伊藤明賢

〈料金〉前売◎指定¥3500 自由
¥3000、当日◎指定¥3800 自由
¥3300 ※大阪公演は全席指定
(チケット取り扱い)
チケットぴあ/イープラス/精華小劇
場/猫のホテル
(お問い合わせ)
猫のホテル 03-3485-9565

チケプレ情報

12/8＝19:00 4名様



池田鉄洋 comment
(表現・さわやか/俳優)
「表現・さわやか」は池田鉄洋を
中心に猫のホテルの若手？で結
成された苦笑系ユニットです。
「そこそこ黒の男」ではホラ
ーテイストな舞台に、なんとなく悪目
立ちしている殺人鬼やどうしても
呪いの言葉が緊張で裏返ってし
まう黒魔術師などの珍妙キャラク
ターをちりばめてトホホな世界を
作り上げます。

1

「そこそこ黒の男」
表現・さわやか第3回公演

12/22～24◎アートコンプレックス
1928
構成・映像・振付・出演◎近藤良平
出演◎青田潤一 石淵聡 オクダサ
シ 勝山康晴 鎌倉道彦 古賀剛 小
林顕作 高橋裕行 橋爪利博 藤田
善安 山本光二郎
22＝19:30、23＝14:00/19:00、24
＝13:00/18:00
※開場は開演の30分前、受付開始
は開演の1時間前



勝山康晴 comment
(コンドルズ)
毎年恒例！コンドルズの踊り納
め！もはや冬の京都の風物詩！
即日完売必至の大人気公演！
今年の「メルヘン」では一体何
が起こるのか？大劇場では味わ
えない小劇場ならではの臨場感
をお楽しみ下さい！

チケプレ情報

12/24＝13:00/18:00
各回2名様

5

「コンドルズ」
2007年メルヘン

YAMANOTE TRIP「青い鳥」11/23
～27「ファウスト～悲劇 第一部～」
11/30～12/3◎東京芸術劇場小1、
12/21～22「王女イヴォナ」◎森下ス
タジオC

〈料金〉・「青い鳥」「ファウスト～悲
劇 第一部～」前売◎一般¥4200
若割¥3000 トリップ¥9000 ダブル
¥7500、当日◎¥4800(各種セット券、
割引は劇団扱いのみ)・「王女イヴォ
ナ」前売◎¥2000、当日◎¥2500
(お問い合わせ)山の手事情社オフィス
03-5660-7044
info@yamanote-j.org
<http://www.yamanote-j.org>

チケプレ情報

11/26・12/1＝19:30各回2名様



安田雅弘 comment
(山の手事情社/演出家)
新作3作品に通じるテーマは「旅」。
それぞれの登場人物たちは、私た
ちの日常生活では考えられないよ
うな「旅」を体験します。海外の演
出家も招聘し、山の手事情社の
新たな一面を提示できる作品を
選びました。

2

「YAMANOTE TRIP」(木下公演)

07/1/19～28◎三軒茶屋 シアター
トラム
作・演出・出演◎桑原裕子
出演◎成清正紀 若狭勝也 川本裕
之 原扶貴子 佐藤滋 高山奈央子
大枝佳織 野澤爽子 馬場恒行 高
島雅羅 椿真由美(青年座) 三谷智
子 村上航(猫のホテル)



桑原裕子 comment
(KAKUTA)
遊園地・プラネタリウムと特殊
な空間での企画舞台が続いた
KAKUTA。二度目の登場となる
シアタートラムでの劇場公演は、
2年ぶりの新作長編作品をお届け。
青年座の椿真由美・高島雅
羅ら、熟れた女優陣を招いて描く、
愛を乞う人々の欲望と鎮魂、そ
して救済のものがたり。

チケプレ情報

1/19＝19:30 4名様

6

「KAKUTA」第18回公演

12/20～12/24◎新宿 紀伊國屋
ホール
作・演出◎青木豪
出演◎杉山文雄 萩原利映 鈴木
歩己 中野英樹 藤本喜久子(無
名塾) 高橋理恵子(演劇集団円)
泉陽二 鬼頭典子(文学座) 星耕
介(Oi-SCALE) 東憲司(劇団浅
童子) 井出みな子(演劇集団円)
平日＝19:00、土日＝14:00

〈料金〉前売◎¥4000、当日◎
¥4300(全席指定)
(お問い合わせ)グリング
090-8107-8777、info@gring.info
<http://www.gring.info>

チケプレ情報

12/20～22＝19:00各回2名様



青木豪 comment
(グリング/作家・演出家)
山間部の町にある教会には、「どんな
病も治す」湧き水があった。しかし最
近、湧き水は突然枯れてしまった。そ
の頃から教会のまわりではいつか
の小さな事件が起こり始めた。教会
の娘・聖美は結婚して2年になる。婿
である広志が「不治の病」にかかっ
ているかもしれないと疑い始めたのも、
ちょうどその頃だった。結成10周年目
の新作に、どうぞ御期待下さい。

3

「虹」
グリング第13回公演

野田秀樹

ロープからはみ出す現実とは



3年ぶりの新作『ロープ』は、野田秀樹がこれまで、大キライだった『プロレス』がモチーフ。シヨアアップする暴力というテーマが、その物語の背後に見え隠れするのは、どうやら6月の英国公演『THE BEE』と無縁ではないようだ。世界と日本、その2つの視点から作品と自分を探し続けるグローバルな演劇人、野田秀樹の現在を切り取る。

挫けずがんばって？ 安吾賞

—— いちばんホットな話題から入りますが、今日、安吾賞（※1）受賞の発表があったそうですが。

さつきその会を終えたところです。新潟市の賞なんですけど、第一回目なんだそうです。俺ってだいたい2回目の男なんです。鶴屋南北賞も2回目だし、新しく出る雑誌なんかも2号目ばかりだった。1号目は桑田圭祐とかね。つまりは演劇っていうジャンルがマイナーだからなんだけど。だから1回目の受賞者というのが嬉しかったです。

—— 受賞理由はどんな？

俺の“生き様”なんだって（笑）。“生き様”って言う言葉くらいやなものないね。今日の席じゃ言えなかったけど（笑）。ほかに“日本を元気づけた”とか、絶頂期に劇団を解散

した”とか。そういうところが安吾的でよかったみたい（笑）。そうそう、ロンドン公演も、2003年の『赤鬼』に挫けずに、もう一回挑んだって。別に失敗もしてないし、挫ける理由とかないんだけど（笑）、ま、いいか、そういうことにしようって。

—— ユニークな賞ですね。

けっこう大真面目に、そう評価してくれているみたいだった。でも坂口安吾はもともと「生まれ変わり」とか言ってるくらい好きな作家だし、受賞は光栄だと思ってます。

ソールドアウトは嬉しかった

—— さて、イギリスでの活動からお聞きしたいのですが、6月の『THE BEE』（※2）の上演は、かなり評価が高かったと聞きます。

いい感じになってきてますね。『THE BEE』は、シニカルなイギリス社会には受け入れられやすかったと思います。前回の『赤鬼』（※3）は、彼らには甘いものに見えたんじゃないかな。俺なりにあいつらの批判をこめて作ったものだったんだけど、それが甘いものには見えな

いところ、イギリスの問題点があるんだよね。いまだに階級社会だし、自分たちは国際的だと思っているけれど、現実には外からきた人間たちには相変わらず線が引かれてる。そういうところなんだということが、あ

そこで生まれて英語が母国語のやつらには気づきにくいんだよね。だから『赤鬼』は、面白いくらいよそからきてる人間には受けた。イギリスで言葉が通じなかったり、異質感を感じて暮らしてる人間には、すごくわかってもらえたんだよね。

—— 異文化に開いてないことに気づいていない？

気づかないというより、僕らはこんな擁護していた人間が食っちゃうところが問題だったりするんだけどね。ただ、イギリス公演のときは役者自体も、未消化だった。日本に来たときはよくなってたけど。そのことは批判されるに値するし、俺の中でもわかってたことなんだけどね。でもそういうところがロンドンのいいところで、未消化とみたら食いついてくるし、許さない、みたいなそこはいいよね。

—— ウィークポイントを見つけた、みたいな感じですね。

前評判もすごいから。日本ではすごい作家とか言われているんですけど、じゃあ、どれほどの本が見てやろうという感じで。イギリスは本がすべてというところがあるからね。そういう点で言えば『赤鬼』は“訳”で失敗してるところが結構あ

たし。ただ、観た人間にとっては『赤鬼』は悪い作品ではなかったんだよね。『THE BEE』のキャサリン・ハンター（※4）は、『赤鬼』を観て「出た」と言ってくれたわけですから。彼女には『赤鬼』に出てもらいたくて、一回アプローチしてたんですが自信がないと断られたんです。それが初日を観にきてくれて、「やっぱり受けておくべきだった、私は読み切れていなかった」と言ってくれた。それは嬉しかったですね。

—— 男性役を演じて好評でしたね。

彼女は男性役は、すでにあちらの舞台で2、3回やっているんですが、とにかくすごい女優さんです。日本人の男性役はもちろん初めてだから、黒澤明の『生きる』を観たり、いろいろ研究してくるんだよね。たとえば日本人の男性が両手を腰において「お願いします」と頭を下げる動作を取り入れたりして。彼らはだいたい床にひざをつくことがないでしょう。そういうことをすごく日本的だと思っただけでしょうね。

—— 稽古というのはどういう形？

ワークショップの形でまず4回やっただけです。後半2回を全部本番のメンバーでやれたのが大きかった。『赤鬼』のときは、ワークショップと本番でメンバーが変わってしまっただけで、そのことが口惜しかったからね。やっぱり最初はワークショップに役者が来てくれなかったからね。イギリスで

※1 坂口安吾賞

『墮落論』で有名な作家坂口安吾の生誕100周年を記念し、出生地の新潟市が創設した賞。

※2 『THE BEE』のキャサリン・ハンター（※4）は、『赤鬼』を観て「出た」と言ってくれたわけですから。彼女には『赤鬼』に出てもらいたくて、一回アプローチしてたんですが自信がないと断られたんです。それが初日を観にきてくれて、「やっぱり受けておくべきだった、私は読み切れていなかった」と言ってくれた。それは嬉しかったですね。

※2 『THE BEE』

人質事件の最終「イト」が警察とメディアに対処していくうち、その高圧的で欺瞞に満ちた本質に激昂していくつには常軌を逸して、自らが犯罪者になつていく……という現代社会の至みを、アイロニーを込めて描いた。

※3 『赤鬼』とある浜辺に流れついた異国人と3人の若者の物語。96年初演、97年タイの共同制作公演、98年タイとの共同制作バンコク公演、03年英語版 Red Demon ロンドン公演、04年タイ語版、英語版、日本語版『赤鬼3バージョン』として上演された。



※4 キャサリン・ハンター

英国の女優・演出家、シエイクヒアグループ座でベリクリーズを演出するなど、英国演劇界でも多くの尊敬を集めている。『THE BEE』では日本人ビジネスマン役を演じた。



※4 キャサリン・ハンター英国の女優・演出家、シエイクヒアグループ座でベリクリーズを演出するなど、英国演劇界でも多くの尊敬を集めている。『THE BEE』では日本人ビジネスマン役を演じた。

は、俺なんか海のものとも山のものともつかない演出家だったわけで、あちらのいい演出家とのチャンスがあればそっちに行つて当たり前だもんね。

——今回で評価がかなり決まったのでは？

お客さんが「今度いつやるの」みたいに聞いて帰っていったし、確実にある固定客はつかんだとあちらの関係者も言ってくれました。日本では、そんなに苦勞せずにソールドアウトするから、それが当たり前の感覚になっているところがあるんだけど、『THE BEE』は、初日はともかく、批評が新聞に出るまでの1週間くらいは七割くらいの入りで。それが口コミで徐々に増えて、さらに批評が出たらどつと増えて、本当にソールドアウトになったから嬉しかった。それはロンドンで公演をするようになって初めての経験だったからね。

ジャポネスクではない日本

——日本で作って持っていくのではなく、なぜ言葉や役者で苦勞しながらロンドンで作るのか、という素朴な疑問があるのですか？

なぜかな？ うーん、なんか違う気がするんだよね。受け取り方とかが違う。日本語でやっているものを観せても、あちらの観客はエキゾチックなものを楽しむだけという感じがする。たとえば日本人にとつてすこ



くエキゾチックな芝居が来たとしたら、受け取る側は、同じ芝居という視点で観ないでしょう。それじゃ嫌なんだよね。イギリスの役者と一緒に作ることで、観客がいつも観てる芝居との差がなくなつて、同じレベルで観てもらえる。それで初めて、面白いか面白くないかの批評ももらえる。エキゾチックだと受け止められたらそこまでだから。

——そのことが野田さんの方向性に、どういう意味をもたらすのかも、知りたいのですが？

俺もまだわからない。自己矛盾をはらんでいるからね。文化つて差を見せなきゃいけないでしょう。日本の文化を見せることと、あちらでやることはよりあちらに近づいていることだし、その線引きが非常に難しいと思うよね。でも今度の『THE BEE』に関しては、お客さんがとても評価してくれたんだけど、その理由の1つは、ちょうどその境目を利用したということがあったと思う。俳優と役の性も入れ替えたけれど、日本というところを舞台にしながら英語を喋っている、その交差しているところがいままでにない部分だし、うまくできていると思ってもらえた。イギリスでも日本でも観たことがない演劇になっていたと思うよ。

——普遍的なスタイルを意識しつつ、日本の特異性を見せるということでしょうか？

そうだね。たとえば舞台装置も日本家を造つてるんだけど、でもいわゆるジャポネスクじゃないんだよ。単純にそこだけで喜ぶようには作っていない。でも結果的に向こうの間はそれを見て喜んでくれるけどね。

——野田さん自身のアイデンティティは、日本人の演出家なのか、もつとコスモポリタンな感じになりたいのか、どちらなのかなど？

——僕ら、絶対に日本人からは逃げ切れないですよ。それに向こうに媚びようとも思わないし。ただ今の日本のありかたつてあまりにも閉じている。もう少し広げて行くべきだとは思っている。

——『赤鬼』の頃のインタビューでも、ロンドンにいると世界を実感するという言葉がありましたか？

うん。日本のこともよく見える。今、『農業少女』で書いたことが当たってきてるなど思うもの。あれはワールドカップより全然前だったけど、「ニッポン！ニッポン！」って言う若いやつが増えてくるって書いてるんだよね。みんな同じ服を着て30万人が一斉にペンライト振るつて、北朝鮮と変わらないでしょう。なにも全員が振ることないじゃない。3割、いや4割は振りたくないってやつがいてもいいよね(笑)。実は俺も、日比野克彦に誘われてワールドカップの初戦を観に行つたのね。そしたら日比野が「野田さん、絶対に青い服を着

が戻ってきたけどね。

イギリス人観客の「ノー」

——イギリスの演劇と日本では、観客の違いはかなりありますか？

さっきのワールドカップの話じゃないけど、はつきりしてるよね。『THE BEE』は、話がエグインです。で、いちばんすごいシーンになったらバツと立って何人か帰った。これ以上観てられない「ノー」と言つて。本当に入りこんで観ているんだよね。だからテーマへの意志表示とかいう理屈でじゃなく、生理的に耐えられなくなつての「ノー」なんだよね。

——そのシーンはどんな？

物理的にはただ鉛筆折っているだけなんですけどね。まあそれが人間の指に重なるって観れなくなつたってことだから、すごく演劇的に受け止め

てもらったんだろうなど。それから、ただ包丁をあてるところもイヤだったみたい。ただのしぐさなんだけど、それがダメだったんだろうね。毎公演というわけではないけど、けっこういました。

——イギリスの観客は、劇中の人物に感情移入して観る人が多いということでしょうか？

いや、そういうことじゃないと思う。どっちかといえば引いてみるよね。感情移入するのは日本人だね。「今回感情移入できませんでした。泣けませんでした」とかアンケートに書いてくる(笑)。うるせーよ。泣かせるために作ってるんじゃないよつて。

——普通、感情移入したいですよ。いやそれは普通じゃないと思うよ(笑)。イギリスは、基本的に引いて観てる。批評的に観すぎるという感じもあるけどね。たまーに前のめりに観てくれる人とか、浮いたよう

に笑つてる人もいたりするけど。嬉しいのは、男の客が沢山いるんだよね(笑)。あまりイギリスばかり賛美したくないけど、観客層の男女比だけはあちらのようになるべきだと思うよ。これは昔からずつと言つてることだけど。日本つて、どうして男の客が少ないんだろうね。昔は野球だったけど今はサッカー観てるのかな？ 俺も好きで観るけど、サッカー観てもいいから演劇も観ろよつて言いたいね。

嫌いなのになぜかプロレス！

——さて、『オイル』から3年ぶりという新作の『ロープ』(※6)ですが、プロレスの話とか？

『THE BEE』で目覚めたわけじゃないけど、人間の暴力性について書いてみよう。僕は今までそこに、あまりタッチしたことがなかったから、

※5 『赤鬼』韓国公演
05年秋に、韓国ソウルにおいてハングル語版『赤鬼』、バルガンツケビ」を現地の俳優たちで上演。野田自身も赤鬼役で出演した。

※6 『ロープ』
「公演予定」作演出演◇野田秀樹 出演◇宮沢りえ 藤原竜也 渡辺えり子 宇梶剛士 橋本じゅん 三宅弘城 松村武 中村まこと 明星真由美 明楽哲典 AKIRA
12月5日(火)107年1月31日(水)◎ Bunkamuraシアターコクーン



演劇を読む！ 気軽に読めるエンタテインメントな現代戯曲シリーズ

ヨムゲキ100

超有名作家からコアな作品まで続々続刊中の「ヨムゲキ100」。あなたのお気に入りが見つかります。

Line up

初期12作品発売中！ 松尾スズキ戯曲

- 001…手塚治虫の生涯
- 002…マイアミにかかる月
- 003…嫌な子供
- 004…ゲームの達人
- 005…猿ヲ放ツ
- 006…溶解口ケンロール (神のようにだまして:併録)
- 007…冬の皮
- 008…SEX KINGDOM
- 009…鼻と小箱 (洞海湾:併録)
- 010…嘘は罪
- 011…ちゃん切りたい
- 012…生きてるし死んでるし



劇団☆新感線の興奮をもう一度！ 中島かずき戯曲

- 003…ヒデマロV (完結編)
- 004…星の忍者
- 005…炎のハイパーステップ
- 006…夢見る無法者
- 007…仮名絵本西遊記 巻之一
- 008…仮名絵本西遊記 巻之二
- 009…宇宙防衛軍ヒデマロ3

宮藤官九郎戯曲

- 001…ナオミの夢
- 002…ずぶぬれの女
- 003…NICKY IS SEXHUNTER
- 004…ウーマンリブ発射！

青年団の名作を戯曲で！ 平田オリザ戯曲

- 001…ソウル市民
- 002…カガクするココロ
- 003…北限の猿
- 004…バルカン動物園
- 005…冒険王



■購入方法

- ☐ 主要大型書店 紀伊国屋新宿店・梅田店 リプロ池袋店 バルコブックセンター渋谷店／他
- ☐ 「楽天Shop」演劇と映画の本屋さん <http://www.rakuten.co.jp/enbu/>

- 価格1,050円(税込)
- 問い合わせ 演劇ぶっく社 (03-5367-0729)



おそらく初めて扱うことになります。
——引きこもりのレスラーが藤原竜也さんで、そのマットの下にいるナレーターが宮沢りえさんと聞いています。

レスラーはリングに出られないし、ナレーターは自分をコロボックルだと思ってる。つまり基本的に引きこもりの話で、竜也のレスラーは、絶対プロレスは八百長じゃないと信じていたのが、どうやら八百長らしいということを知って出られなくなる。発端はそ

んなところですね。プロレスって今はガチンコもあるらしいけど、八百長でなくなったら暴力になつていくわけ、その境を超えてしまうエスカレート感も出したいなと思ってます。
——野田さんはプロレスを好きだったんですか？

大嫌い(笑)。俺の若い頃ってプロレスがすごく流行ってたんだよね、アントニオ猪木の人気もあつて。俺は昔からアングラとプロレスが大嫌いで、ま、やつてる芝居はアングラだった

けど(笑)、でも稽古場でプロレスの新聞読んだりプロレスの話をするやつは「やだなー」と思ってた。ま、古田(新太)とかは許してたけど。あいつは躁だから。役者同士でワザ掛けあつてたりするとかいうのは、ほんと、見たくなかったね。

——でも今回は、プロレスでいこう！と思つたわけでしょう？
俺って、泥くさいのなかったから、ちよつとやつてみようかな(笑)。でもたぶん泥くさくならないと思うけ

どね。

——今のプロレスは、ショーアップの仕方もいろいろあるようですが。そういうのも全然詳しくないんだ。ワザも知らないもん。のめり込んで書きたくないから。でも、いちおう本はいろいろ読みましたけど。ミスター高橋(※7)の『流血の魔術 最強の演技』とか、面白かった

——実際にリングサイドにも行ったんですか？

行ったけど、でもなんか元氣ないね。昔、見世物小屋が衰退していったときみたいな匂いを感じた。『ロープ』は、リングサイドにアジア人がいっぱいいるという設定にしようと思つていんだ。日本人がアジア人であることが忘れようとしているというのが、どこか俺には猥雑さと近い感覚でつながっているんだよね。あとテレビ文化と関係しているけれど、見る暴力が強くなって、「もつと見せろ」というのがエスカレートしていく。それがどこに行くかというところが、『ロープ』のみそなんです、そこから先は言えない(笑)。

30周年なんかやりたくない

——新作を書くのかなというときは、テーマが向こうからやってくるものなんでしょうか？

いや、探つて探つて、俺はどこに着地したいのかなというのを探るんで

出会えるわけだから。

——俳優・野田秀樹としても、彼らと一緒の舞台に立つことで、変化はあるんでしょうね？

うん。まず動きすぎるのを批判されるから(笑)。今回も、俺ってやっぱり過剰かなと思つた(笑)。「なんでそこで動くの？ ヒデキ」とか言われて、「え？ 動いた？」とか(笑)。「そこは止まつたほうがいいよ」って言われて止まると、案外これもいいなと思うんだよね。

——でも過剰に動く野田さんも、野田演劇にはいてほしいな。

このあいだの『贖作・罪と罰』でも役者2人くらいから、野田さんだけ異常に動いてるって言われたからね。『ロープ』でも、また俺だけ動いてるってイヤがられてるかもしれないよ(笑)。

ないんですか？

そんなのやりたい？ やりたくないもん俺。

——30年間、演劇界のいちばん前を走り続けているわけですし、すごいことでは？

そういえば、俺ってつけこう最近まで、若手って言われてたんだよ(笑)。

——今の演劇界で、野田さんが恐いと思う人っていないでしょう？
そういう世界じゃないでしょ？

——でも野田さんが出たときは、恐がつた人がたくさんいましたから。

ああ、意欲なくした人とかいたね。野田なんか認められる世の中になつたら演劇やめるとか(笑)。やめなかったけど。

——脅威だった。
——というか俺は優しい発言をしてたからね。そういう人は確かにいないね。すごい！と思うこともあ

まりないかな。でもあつちの人ではいるよ。サム・メンデス(※8)とか、イギリス人じゃないけどロベール・ルパージュ(※9)とか。その2人のを観たときは、俺もこちで生まれてたら、できないわけないんだなと思つた。

——でもレベルの差はないでしょう。作ってる内容はそうだけど、認めてもらうところまでいくには、10年20年と居続けてない。ただ、今のやりかたでも、表現とか方法論で刺激されるところが多い。やっぱり発想の違いって新鮮だからね。たとえ

ば白い紙一枚もらつて、そこに書いてある4つの点をつなぐという心理テストみたいなものでいうと、日本人は紙の中から出ない。でも、あつち紙の外にまではみ出して線を引いちゃうやつが多いんだって。そういう書き方だと交点が紙の外にできるんだよね。そういう発想をする人たちに

明日の夢、応援したい。

歌う。奏でる。演じる。
表現することで人々に感動を与える。
sarahは、そんな創造性豊かな才能を応援し、活動支援のための助成公募を受け付けています。



平成19年度 助成公募のお知らせ

【音楽・芸能文化活動への支援】

【対象事業】

1. 音楽・芸能創造活動
①新しい可能性を提案する独創的な創作又は企画を含んでいる公演であつて、その鑑賞を奨励することが、広く音楽・芸能の振興、普及および愛好者の増大に寄与するものと認められるもの
②今後、活躍が期待される若手のアーティストを育成するものと認められる公演

2. 音楽・芸能創造環境整備活動

音楽・芸能分野の講演会、シンポジウム、セミナーなどの音楽・芸能文化の創造を支える環境整備に寄与すると認められるもの

*なお、既に前年度、前々年度と2年連続して助成を受けている事業は除く

【応募資格】

1. 営利を目的としない公益法人(民法34条の規定により設立された法人)
2. 任意団体にあっては、規約、会則等があり、意志の決定および会計処理のための組織を有しているもの

【活動対象期間】

平成19年4月1日から平成20年3月31日までに実施されるもの

【応募日程】

1. 提出期限：平成18年12月29日(当日消印有効)
2. 結果通知：平成19年3月中旬

【助成金額】

一事業あたりの助成金額：150万円以内

本件に関する詳しい資料については、200円切手を同封のうえ、この公募を何によってお知りになったのかを明記(用紙は自由)し、下記の当協会事務局へご請求下さい。なお、ホームページで応募要項をご覧になることも可能です。
URL: <http://www.sarah.or.jp>
*ホームページおよびEメールでの応募は受け付けておりませんのでご注意ください。

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-8-14
麹町YKビル2階

社団法人 私的録音補償金管理協会 事務局
TEL (03) 3261-3444 (代) / FAX (03) 3261-3447

(社)私的録音補償金管理協会
sarah

※8 サム・メンデス
65年イギリス生まれ、ロンドンやニューヨークで、いくつもの舞台を演出し、ロレンスオリビエ賞など、数々の賞を受賞。『オリヴァー』『十二夜』『校の園』『キャバレー』『シカゴ』『フルーラム』など。02年までロンドンのドンマーウアハウスで芸術監督をつとめた。映画監督としても『アメリカンビューティ』『アカデミー賞を受賞するなど才能を發揮している。

※9 ロベール・ルパージュ
57年カナダのケベック州生まれで、世界のアトーンを牽引するマルチ・クリエーター。舞台に映像表現を巧みに取り入れた先駆者、また日本文化ととりわけ伝統芸能への造詣も深い。『K.A.』の演出も手がけている。日本での上演作品は、『月の向う側』『デバースト』『アンデルセン・プロジェクト』など。

のだひでき○劇作家、演出家、俳優。55年生まれ、長崎県出身。76年東大在学中に劇団夢の遊眠社を結成。80年代小劇場ブームの旗手となる。92年劇団を解散し、英国留学。93年企画製作会社NODA・MAPを設立。プロデュース公演や海外公演、歌舞伎演出まで手がけ、その精力的な演劇活動で、日本の演劇界を牽引する存在である。岸田國士戯曲賞、紀伊國屋演劇賞、芸術選奨文部大臣賞、鶴屋南北戯曲賞、朝日舞台芸術賞、読売演劇大賞ほか数々の賞を受けている。

※7 ミスター高橋
『流血の魔術 最強の演技』すべてのプロレスはショーである(講談社刊)の著者で、26年間レフリーとしてリングの裏側まで見てきた者の証言としてセンセーショナルな話題を呼んだ。

”ぎゅ”と何かを握った瞬間の話

よしもさんの原作本を初めて読んだのは20代の後半の頃です。すごく良くて、それから事ある毎に読み返しては「やっぱええわー」と思いつつ、映像にしてみたいなという気持ちはずっと持ち続けていました。忘れていたことや大事なことがわあ〜と蘇ってくる、みたいな感じがずっと好きだったんですね。基本的には、今ある現実是非常に幸せなだけけれども、この現実以外にもまた別の世界があるんじゃないか?ということを一生涯思いつとするとま

るで朝起きた時に手がうまく握れずに甘噛い時みたいで、また今日も大事なことを逃してしまった、みたいな……。そういう”ぎゅ”と何かを握った瞬間の話、みたいなイメージをこの本から感じていきますね。

そこで大活劇を繰り広げましたから(笑)

20年ほど前に舞台を創っておりまして、駐車場にテント小屋を建てて公演を行ったりしていたんです。ある公演で、ブリキで芝居小屋を作ったんですけれども、その建坪をおもいっきり制限して、駐車場2台分くらい、せい

ぜい大きくても3台分くらいのスペースで上演したんです。そこで大活劇を繰り広げましたから(笑)。今回、舞台演出のお話を頂いた時に、最初はその再演をやるうとしか考えてなかったんですよ。重い腰をあげるじゃないですけど、昔とった杵柄をもう一回ついでみるか!みたいな感じで。でも、ちょっと疲れるかも……なんて思ったり(笑)、周囲からの止めて「ムードもすごくありまして(笑)。それで、色々過去の記憶を遡っているうちに、「そうだ! 大好きな小説があったじゃないか!」とばなさんの『哀しい予感』を思い出したんです。

塚本晋也

つかもとしんや○60年生まれ、東京都出身。88年、映画『電柱小屋の冒険』がびあフィルムフェスティバルアワードでグランプリを獲得。『鉄男』『六月の蛇』『ヴィタール』等、代表作の多くが国内外で高い評価を受けている。その才能は映画監督のみならず、俳優としても多数の映画やドラマに出演している。

次回予定◇『哀しい予感』(演出)07/1/5~21◎下北沢本多劇場、1/26~28◎梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ◇映画『悪夢探偵』(製作・監督・脚本・撮影監督・編集)07/1/13より公開

とにかくばななスピリットを忘れないように

先日、最初の本読みを全員でしたんですけど、まあ、およそ演劇的ではない感じ(笑)。みんな映画に出ていたときも自然な感じだから。でも、腹式呼吸じゃない、俳優の存在そのもの、全霊で観客にぶつかってもらえたらと思っています(笑)。今回はこのお芝居を通して小説の真髓に近づいていければいいなと思っています。これから実際に舞台を作り上げていくのに、一ヶ月以上もこの事だけを考えながら『哀しい予感』にとっぷり浸っていられますか

らね。この舞台化に関する基本のモチベーションは、やはりよしもとはななさんですね。脚本は普段助監督をやってくれている黒木君が担当してくれたんですけど、黒木君とはばななスピリット。についてずっと話し合っ、とにかくスピリットを忘れないようにしながら進めていきました。もし仮に他の方をお願いをして、その方に不思議な解釈ではななスピリットをねじ曲げられた日には涙が出ちゃいますんで。最終的にはかなりスピリットがあるものに仕上がったと僕自身は感じています。

表紙のヒト

”舞台、ふたたび“

海外での評価も高く、今や日本を代表する映画監督のひとりである塚本晋也。

どんな作品に出演してもその透明な存在感で絶妙なりアリティを醸し出す加瀬亮。

2人とも映画業界を中心に活躍しているイメージが強いが、実は過去に舞台演出や出演の経験があるという。

このふたりの映画人が、07年1月、よしもとはななの小説を舞台化する『哀しい予感』で舞台に戻ってくる。

ふたりへのインタビューは、過去の舞台の話から次の舞台の予感まで、様々な言葉が飛び出した。

なふたり



加瀬亮

かせりょう○74年生まれ、神奈川県出身。00年、映画『五条霊戦記』で映画デビュー。以降映画やCMを中心に活躍。『アンテナ』(熊切和嘉監督)『スクラップ・ヘブン』(李相日監督)など出演作は40を数える。今後『硫黄島からの手紙』(クリント・イーストウッド監督)、主演作『それでもボクはやってない』(周防正行監督)など公開がひかえる。近年のその映画出演数からも人気の高さが伺い知れる。http://www.anore.co.jp/kase

次回予定◇『哀しい予感』07/1/5~21◎下北沢本多劇場、1/26~28◎梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ お問い合わせ:06-6377-3888 http://www.umegei.com/

ずっと泣きっぱなしだったんですよ

実は学生の頃に一度だけ舞台に立つたことがあるんです。最初は友達に頼まれて、舞台の音響チーフをやっていたんですけど、一度だけその縁で、キッドアイラックホールという小さな劇場で行われる公演のオーディションを受けてまして。その時の思い出は、散々だった事も楽しかった事も色々ありますね。覚えてるのは、僕は感情が高ぶると涙が出ちゃうタチなんですけど、初日だったか、最初のシーンから最後のシーンまでずっと泣きっぱなしだったんですよ。まだ演技も何も知らなかったから、演出家からに

かく気持ちでやつてくれと言われていたんですが、終演後には「お前何やってるんだよ! 勝手に気持ち満タンなのは分かるけど、ずっと泣いていたら意味が分からないだろー」って言われました(笑)。そういう大失敗もありましたね。

いい意味でいい失敗できる

映画と演劇は僕の中では全く別物ですね。ひとつの本をみんなで読み込んで、自分の役について考えて動く、という演劇のスタンダードな作り方はずっとやりたかった気がします。映画の現場は、ひとりの物事を詰めていくというよりも監督さんの世界にどれだけ貢献出来る

かという感じですよ。それに、舞台は生だからいい意味でいっぱい失敗できると思うんです。僕は失敗って凄くいいことだと思うんですけど、稽古も合わせて2ヶ月近く同じ役を演じることでたくさん失敗して、それで辿り着く場所があるとしたら、それは見てみたいですね。

激しい世界になると思います

よしもとはなさんの原作は、読んでいても懐かしい感じがする凄く好きな世界ですね。僕は哲生という男の子を演じるので、彼を念頭に本を読んだのですが、こいつみたいになりたいなあという憧れはあります。自分は哲生は

どきれいな人間じゃないですけど、一緒だと思える部分は何か所がありましたね。その辺りを舞台の中で探っていけたらと思っています。今回の舞台は、どれだけ削ぎ落として研ぎ澄ますことが出来るかが勝負だと思っていますし、その意味では激しい世界になると思います。ばなさんの言葉の選び方はすごく研ぎ澄まされているなっと思っていますし、原作の持つ、そういう研ぎ澄まされた感覚を至る所に漲らせたいです。それってすごい激しいことだと思うんですよ。塚本監督の世界は静かであればあるほど激しいと思うので、そういう気持ちで挑みたいと思いますね。

構成・文◇園田喬 撮影◇竹中圭樹
スタイリング◇ソニア パーク【加瀬亮】 ヘアメイク◇李賢一【加瀬亮】

【加瀬亮】ニット¥23,100(スロウガン)、シャツ¥17,640(エンジニアード ガーメンツ/ネペンテス)、インナーカットソー¥18,900(Peter Jensen/ゼニヤ インク)、パンツ¥36,750(ガラアーベント)、スニーカー¥18,690(ロストヒルズ)、ベルト¥4,200(JEANNE VALET)
お問い合わせスロウガン:03-3770-5931、ネペンテス:03-3400-7227、ゼニヤ インク:03-5778-0014、ガラアーベント:03-5771-1350、ロストヒルズ:03-5410-2300、JEANNE VALET:03-3464-7612

特捜! エンブスcoop!

関西版



「四条河原町の交差点で毎日一人芝居している役者がおるらしい」という噂が流れたのは3年ほど前の真冬の頃だった。えらい無謀なことをする奴がいるんだと、と当時は軽く流していたけど、その男こそハラダリヤンその人だった。今では一人で大勢の人物を演じ分ける「ひとり群像劇」でその名をとどろかせるばかりでなく、多数の舞台にも各演として参加。あるプロデューサー公演に参加した時は、同じ作品のひとり群像劇バージョンも同時上演し、観客はおろか同舞台の関係者すらも唖然とさせた……など、愉快痛快なエピソードには事欠かない怪優なのだ。

ハラダの舞台の特徴は、笑いを基調としながらも、キャラの造形&ストーリーが意外にも(失礼)しっかりとしていること。ピン芸人としてお笑いのライブに参加していた時期もあったらしいけれど、「笑わせるまで長いストーリーがあったので、始まったすぐに笑いたいというお笑いの観客には不評でした(笑)。でもその経験を通して、自分はやっぱり物語の中で人を笑わせた、ドラマのある舞台がやりたい」と気付きましたね」とハラダ。

特捜! エンブスcoop!

「キャラクターを作る時は、まずビジュアルから入ります。どういう姿勢の人物なのかを想像し、そこからしゃべり方を複数考えたりしてどんな肉付けしていく。キャラを固定する一番の基準は、見てて笑えるかどうか。過去に作り上げたキャラクターが新作の役柄にピッタリくることもあるので、手塚治虫や赤塚不二夫の漫画のようなレギュラーキャラも、僕の作品には多いですよ(ハラダ)。

薄井ゆうじの短編小説を舞台化した「ドードー鳥の飼育」の主人公となったのは、「小林」というキャラだった。言動に落ち着きがなく、語尾に「ウエ」という妙な擬音が入る、ハラダ作品では常連の男だ。でもって先輩女性飼育員は叶姉妹級の巨乳の持ち主と先述し、ナレーション部分ではエアキターならぬエア三味線をかき鳴らす語り部が登場するし……ストーリーや台詞はほぼ原作通りにしかかわらず、キャラが変わるだけで全くの別世界だ。不条理感と虚無感がさりげなく漂う静かな物語を、赤塚不二夫漫壇のギャグキャラたちが演じた——という図を想像して



撮影◎竹本泰広

北斎

ハラダリヤン

はらだりやん○77年生まれ、兵庫県出身。心斎橋2丁目劇場やワッハ上方での芸人活動を経て、01年から主に路上で一人芝居を演じるようになる。04年「机上のノブ論」で「ひとり群像劇」を本格的に始動。ハイデーションだが時折妙な哀愁を感じさせる、独特の笑いで強い印象を残す。この秋から本拠地を東京に移した。

次回予定◎「ハラダリヤンひとり群像劇」12/15(金) 20:00◎下北沢PIGA※詳細はHPをハラダリヤンURL:http://harada-ryan.com/

【NEWS!】

「特捜! エンブスcoop-関西版」では、皆さまからの依頼をお待ちします。「あの公演が見えなかったのレポートで欲しい」というものから「役者の※さんの素顔が知りたい!」「▲▲劇場の近所にある○○という店が気になるので調べて下さい」というものまで。ミーハーなネタくだらないネタでもOKです。ただし、関西地方限定! 巻末ハガキにて「エンブスcoop」係」まで。

スクール・オブ・ロック

公開当時見に行っていたロックのバカバカしさとかっこよさにしびれた映画。特典映像もすごいと聞いて見直しました。主演のジャック・ブラックが大勢のエキストラを率いて、ツェッペリンに「移民の歌」の使用許可を懇願するくだりがグッド! この作品に惚れ直したよ!

平林之英

【劇団☆世界一団→Sunday】
次回予定◎Sunday「四月のさかな」11/1~12◎HEP HALL

げんしけん

同人誌を買った瞬間からオタク? 「げんしけん」はオタクサークルの青春ストーリー。オタク同士の距離感と心理描写が嫌なくリアル。しかし! はまった矢先、打ち切り!。打ち切りにするなら、初めからアニメ化するな! 悲しい! 只今、役作りに使ってます。

田嶋杏子 (デス電所)

次回予定◎デス電所「夕景殺伐メロウ」11/10~19◎精華小劇場、12/2~5◎駅前劇場◎メシシアタープロデュース SHOW劇場VOL.1「好色一代男(仮)」07年2月◎吹田文化会館メシシアター小ホール

ニッポン居酒屋紀行

遊気舎の久保田浩さんに見せていただいていたから、見事にハマった1本です。タイトル通り、全国の良い居酒屋を紹介していくんですが、その居酒屋さんの雰囲気どこも最高! いい店、いい人、いい酒。これです。私のような下戸でも充分楽しめます。ええ、ゲコですけど。

大木湖南 (ニットキャップシアター)

次回予定◎ニットキャップシアター『お彼岸の魚』12/22~26◎independent theatre 2nd、07/3/30~4/1◎駅前劇場、07/4/13~15◎愛知県芸術劇場小ホール、07/5/18~20福岡・ばんプラザホール



依頼

京都で評判の「ハラダリヤン」という役者が、東京にやってくるという話を聞きました。どんな芝居をする人なんでしょう?

「原作の主人公の切なさや小林というキャラと意外に合致したので、京都公演に先立って東京でもやうたんですが、原作者の方が見に来るといって、あまり大幅にストーリーをいじらなかつたんです」とハラダ。しかし原作者の薄井からはなんと「もっと好きにやってください」と声をかけられたそう。

「今まで自分の小説を、ここまで予想外に変えた作品はなかった」と喜んでもらえました。作者のお墨付きをもらったから、京都公演ではさらにキャラクターにアレンジを加えまして。原作にはないドードー鳥のレーションとかも入れて、東京バージョンより30分も長くなつてしまいました(笑) (ハラダ)。

この公演を最後に、というか、京都公演のわずか半月後には東京に拠点を移したハラダ。「東京は小屋を借りるのが大変そうだけど、そうならまたまた路上でやりますよ。でも路上って通りがかりで、途中からしか見られないってことが多いじゃないですか。最初から最後まで貫いて見てもらいたいの、やる時はちゃんと「何時にどこでやります」という告知チラシを配るつもりです」(ハラダ)。

というわけで、いかにこの劇場で「ハラダリヤン」という名前のチラシを見かけたらどうぞ目に留めてもらいたい。シユールな笑いでいいの、群像劇を身体一つで表現するいいんだ意味ですさまじい世界を垣間見られる場所が、そこには記してあるはずだから。

依頼

芸術の秋、関西の役者たちはどんなDVDを見ているのでしょうか? 教えてください!

出演者オーディション

演劇キックプロデュース

演劇ぶっく社 設立20周年 記念公演

郵送 2006年12月15日(金) 必着 (持参不可)
モバイル... 2006年12月15日(金) 15時まで

※定員に達し次第、応募を締め切らせて頂きます。

天国と地獄

〜オッペンバック「天国と地獄」より〜

脚本・演出 **江本純子 (毛皮族)**

出演: 江本純子 / 町田マリー / 柿丸美智恵
羽鳥名美子 / 和倉義樹 / 高野ゆらこ / 他
ゲスト俳優 / オーディションで選ばれた方々

江本純子 ● 1978年千葉県生まれ。立教大学在学中に劇団「毛皮族」を結成し、全公演の作・演出を手掛けると共に全公演に出演。近年の活動は多岐に渡り、今夏に処女小説「股間」を発表。

毛皮族 ● 2000年9月に江本純子、町田マリーを中心に結成。エンターテイメント性に溢れる、聖俗を取り込んだ熱狂的狂騒舞台が特色の、イカサマが本気の疑惑のテロエロ歌劇団。

オーディション日程

【一次審査】
12月18日(月)・19日(火)・20日(水)
※応募時に、上記いずれか1日をご選択下さい。応募書類提出後の日程変更は受け付けませんのでご注意ください。
※オーディション日程は、応募先着順に日時を決定します。時間帯につきましては主催者側で決定させていただきます。
※ご希望日が定員に達した場合は別日程をご提案させていただきますが、ご提案した日時で都合がつかない場合は、オーディションを受けていただくことはできませんので、ご了承下さい。
※オーディションは、1グループ(数十名)につき2

～3時間程度行う予定です。
※「レミゼラブル」オーディションとの併願は可能です。

【一次審査結果発表】
12月22日(金) ※各否に関わらずメールにて通知します。

【最終審査】
12月24日(日) ※時間につきましては、一次審査合格者に結果と共に通知します。

【最終審査結果発表】
12月29日(金) ※各否に関わらずメールにて通知します。

レミゼラブル

〜ウィクトル・ユーゴー「レミゼラブル」より〜

脚本・演出 **ブルースカイ**

出演 (50音順): 新井友香 / 池谷のぶえ / 市川訓睦 / いとうせいこう / 大堀こういち / 加藤啓 / 加藤直美 / 小村裕次郎 / 高木珠里 / 辻修 / 猫ひろし / 野間口徹 / 原金太郎 / 廣川三恵 / 吉本菜穂子
オーディションで選ばれた方々

ブルースカイ ● 94年、小村裕次郎や池谷のぶえ等と共に「猫ニヤ」を旗揚げ。04年、10周年記念解散公演をもって解散。現在、映像・ラジオ・CDドラマ等への作家活動を行っている。その高度なセンスと作風力は、様々な演劇評論家や作家たちから一目置かれる存在でもある。

オーディション日程

【一次審査】
12月21日(木)・22日(金)・23日(土)
※応募時に、上記いずれか1日をご選択下さい。応募書類提出後の日程変更は受け付けませんのでご注意ください。
※オーディション日程は、応募先着順に日時を決定します。時間帯につきましては主催者側で決定させていただきます。
※ご希望日が定員に達した場合は別日程をご提案させていただきますが、ご提案した日時で都合がつかない場合は、オーディションを受けていただくことはできませんので、ご了承下さい。
※オーディションは、1グループ(数十名)につき2

～3時間程度行う予定です。
※「天国と地獄」オーディションとの併願は可能です。

【一次審査結果発表】
12月25日(月) ※各否に関わらずメールにて通知します。

【最終審査】
12月27日(水) ※時間につきましては、一次審査合格者に結果と共に通知します。

【最終審査結果発表】
12月29日(金) ※各否に関わらずメールにて通知します。

応募について

【オーディション料】一次審査のみ 6,000円(税込)
※一次審査当日、受付にてお支払いください。最終審査は無料です。
※併願される方は、各オーディションごとにお支払いください。

【オーディション会場】
ENBUゼミナール「演劇&声優&映像」
新宿区愛住町13-10

PIASO YOTSUYA ● 都営新宿線曙橋駅/A1出口徒歩5分
● ケキ屋 ● 福太郎の店 ● 曙橋駅
● 愛住ビル ● 信号アリ ● 薬局 ● 交番 ● 四谷三丁目駅(須賀橋駅)
● 小学校 ● ホテルJAL CITY四谷 ● 東京・丸の内線四谷三丁目駅/2番出口徒歩7分

【応募資格】
・18歳以上の方(未成年の方は、必ず保護者の了解を得てから応募ください)

・性別・経験不問。
・上記オーディション日程に参加可能の方。
・稽古(都内予定)から本番終了まで、全日参加できる方。
※「レミゼラブル」…稽古:2007年2月下旬より/公演:4月5日(木)～9日(月)
「天国と地獄」…稽古:2007年3月上旬より/公演:4月12日(木)～16日(月)
・芸能事務所等ご所属の方も応募可能です(必ず事務所の了解を得てから応募ください)

【注意】
ご出演が決定した際、出演料はお支払い致しません。また、チケットノルマや徴収金はありませんが、交通費・食費などは自己負担になります。

【応募方法】
■郵送
①市販の履歴書、または、公式HPからプリントアウトした履歴書に、必要事項を記入のうえ、演劇ぶっく社「演劇キック」まで郵送してください。

■モバイル
モバイルサイトからも応募ができます。画面の指示に従って、必要事項をご記入の上、お申し込みください。尚、モバイルサイトは演劇キック公式ホームページとは異なりますので、ご注意ください。

mobile site by演劇モバイル

●下記のアドレスに、空メールを送ると、すぐにURLが届きます。
kick@mail.cave.co.jp
※ドメイン指定受信している方は、【@mail.cave.co.jp】を受信可能にしてください。

●QRコード

郵送宛先・お問い合わせ

演劇ぶっく社「演劇キック」オーディション係
〒162-0065 新宿区住吉町1-12新宿曙橋ビル7F TEL:03-5366-7587 e-mail:kick@enbu.co.jp

公式HP http://www.enbu.co.jp/kick/

今回の1枚 劇団阿佐ヶ谷南南京小僧『黄金街の首縊りの家』

重い！今回の束、分厚すぎ！なんと1束112枚、実に900グラム！ほぼ1キロですよ。持つて帰るのやだ、靴がめっちゃ重くなる。つか、入らん。2000人のお客さん入ったら全部で180キロ。配るほうも疲れるだろう。

さすがに面白いのが多かったが、この重さに似合う重量感というかギンギン感で、劇団阿佐ヶ谷南南京小僧（名前も南が重なるって重い）の『黄金街の首縊りの家』を、1枚抜きだしました。

表も裏も、全部書き文字。パソコン全盛時代に、とにかく肉体を動かして描き込んだ重いデザインだ。

しかし「首」の書き文字が、最初読めなかった。「古かと思つた」「縊り」を「くり」とすんなり読める客、どれだけの人がいるだろう？「いちいち引」掛かる。でも100枚以上のチラシをほとんどめくっていった途中で、結果的に長時間手を停めさせたのだから、チラシとして成功だろう。見せ物小屋的な怪しい郷愁感も漂っている。なんというか、芝居に対する情熱の重さを感じる。暑苦しいよって、微妙に奥行きがあつて抜けてる。

同じように、裏表全ての文字がほとんど手書きだったのが、劇団あかしやの『タタ子の逆襲』タ焼け子焼けのバヒフボ「でもこころは残念ながらパソコンに取り込んだ時の解像度が荒く、仕上げが悪いから、シャープさに欠け、グロイ印象はかり強まってしまう。グロや下品は、売りになるが、デザインはフィニッシングに気を遣わないと、ただ下品になり、それでは般にはスルーされることが多い。

900グラムの束の中で目立つのは、大変だ。が、他にボクの目が止まったものは案外実際にシンプルなチラシだった。イキウメの「プレイヤー」なんて、墨一色刷りが実にクールで目立っていた。束を制するには、頭を柔らかく、手を動かし、仕上げを丁寧にとつて。つか。

束
今号のチラシ
もらった場所◇
ペンギンパイルパイルズ
『道子の調査』
8月24日(木)
19:30の回
○ザ・スズナリ

チラシ枚数◇
112枚(内、本チラシ78枚、
仮チラシ16枚、
公演外チラシ18枚)

重さ◇900g

劇団阿佐ヶ谷南南京小僧
『黄金街の首縊りの家』
8/26～9/2◎新宿ゴールデン街劇場
美術◇ヨネクラカオリ



束から1枚！

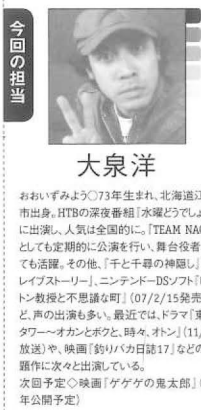
007

久住昌之

くすみまさゆき◎泉島之(泉崎記との合作ペンネーム)、Q.B.B.(実録・軍世との合作)で知られる漫画家。12月6日(日)に『ALP』が出版。久住昌之&BLUE HIP!自由の星』はGiant Robot RecordよりV2300で発売です！QBB「新・中学生日記」第6巻(青林工務社)、泉島之「芸能グルメストーリー」(コアマガジン)も絶賛発売中！
<http://www.qusumi.com/>

TEAM NACS PRESENTS 大感激ぶっく

チームナックス10周年記念企画としてスタートしたこのコーナー。
メンバー全員がリレー形式でナックスの歩みをマル秘話付きでお届けします。
2004年、第10回にしてついに東京公演を決定し、
2005年には全国11ヶ所のツアーを成功させたナックス。
第5回となる今回の担当は、今や世界にも飛び出さんばかりの人気者、大泉洋！



大泉洋

おれいずみよう(73年生まれ、北海道江別市出身。HTBの深夜番組「水曜どうでしょう」に出演し、人気は全国的に。「TEAM NACS」として定期的に公演を行い、舞台役者としても活躍。その他、「千と千尋の神隠し」「プレイボウストーリー」、ニンテンドーDSソフト「レイテン教授と不思議な町」(07/2/15発売)など、声の出演も多い。最近では、ドラマ「東京タワー〜オカンとボクと、時々、オトン」(11/18放送)や、映画「釣りバカ日誌17」などの話題作に次々と出演している。
次回予定◎映画「ゲゲゲの鬼太郎」(07年公開予定)

第5回

修学旅行だったはずの東京公演

〜東京、そして全国公演を果たした04年から05年〜

皆様こんにちは。最近ひよことして俺がハゲないんじゃないか?と思いはじめた大泉洋です。

確かに相変わらずシャワー後の抜け毛はおおさん並(※1)、祖父はハゲ、父はフサフサ、典型的な隔世遺伝。でも最近思うのです。「俺……ひよことしたハゲないかも……」改めて考えると俺は大泉洋です。

私の担当は「LOOSER」から「COMPOSER」までだとか。ん、この頃を振り返るのは正直厳しい。ナックスにとっては実に苦しい時代だったと言えるでしょう。

元々は「大学の演劇研究会で仲の良かった連中の集まり」という腐れ縁の我々。とにかく無理なく楽しく芝居をするのが一番大事な事で、未来の事なんて考えたくないし、出来る限りゆるくやって行けたらと思っていた集団だったのです。それがどうやらそうも行かないんだと、それぞれが思い始め、周囲もそれを許さない環境になってきた時期だったのだと思います。だから本当に辛かった。あの時の僕たちにとつて一番大きかった出来事はやっぱり「東京公演」を打ったという事でしょう。

「LOOSER」で初めて立ち上げたサンシャイン劇場の舞台の感触(※2)、カーテンコールでの大きな拍手、一生忘れたい事はありません。でもそこに至るまでは大変でした。

東京公演は僕らにとつて本当は修学旅行のはずだったのです。劇場の人が「やらない?」と呼んでくれたから、無理なくやれそうだからだった行こうか、そんなノリははずでした。でもやっぱり本番が近づくとつれてそんな余裕は微塵もなくなくなつてしまつて。台本にもなかなか納得できないし、仕事も毎日入つてくるので連日の朝までの稽古に死にそうでした。多分みんな楽しいからやっていた「芝居」が生徒の行事としての「芝居」に変わり始めた時だったと思うのです。遅過ぎかもしませんが(笑)。だからナックスの舞台に期待もするし、頼りもするし失敗する訳にはいかないし……。

そしてそんな僕らの不安と期待と焦りももっと大きくなったのが「COMPOSER」だったと思うのです。役者としても一歩踏み出したと全員が思っていた時期で、そのためには東京の仕事をするしかないわけ(※3)。そのためにも「COMPOSER」は、我々にとつて自信を持って配れる名刺じゃなくては行けなかったのです。

台本作りはとにかく難航しました。「もっと面白くしたい」「これではつまらない」「毎日毎日台本を直す日々。森崎も傷ついた僕らもボロボロになって作つた舞台でした。今思うと、僕らの持ち合わせではまだまだ買えない高価なものを必死に買おうとしていたのかなと思うのです。「お前もつと出せよ」と言い合いながら、これじゃ続かない。今はそう思えるのです。大切な事は続けること。ナックスですと芝居を続けること。少なくとも僕にとつてはそうなのです。そのためにどうすれば良いのか。どんな舞台を作っていくのか。次の舞台でそのヒントでも掴めれば……きつと僕はハゲない。そう思えて仕方無いのです。うん……上手くまとめた……ダメか。



「COMPOSER〜響き続ける旋律の調べ〜」
チームナックス初の全国公演。バロック時代を背景に、ルートヴィッヒ・ヴァン・ベートーヴェンを中心とした偉大な作曲家たちが繰り成すストーリー。彼らの数奇な運命を追う。



「LOOSER〜失い続けてしまうアルパム〜」
チームナックス第10回公演。東京で初の地方公演を行った。幕末の新選組と長州藩との確執を「チョンマゲもチャンバラも無い芝居」で表現。歴史に残らなかった彼らの大義。



文注

- ① おおさん 四谷怪談の悲劇のヒロイン。夫・伊右衛門に放まされた毒薬で顔は溶け髪は抜け落ちた。
- ② サンシャイン劇場 TEAM NACS 憧れの劇場。学生時代にキャメルボックスなどいろいろな舞台を観ただけに、そこに立つというのはそれはそれは光栄な事でした。
- ③ 東京の仕事 悲しいかな北海道には演技できる場所はほとんど無いのです。でも今は北海道で連ドラを作るのが当面の僕の目標なのだ。



2005年4月29日〜9月2日
札幌／広島／東京／秋田／大阪／仙台／名古屋／浜松／香川／福岡／新潟 全国11都市公演
全61ステージ
動員40,000人



2004年3月4日〜15日サッポロファクトリーホール、5月14日〜16日サンシャイン劇場、全18ステージ
動員11,600人
12月21日・22日
日本青年館(アンコール東京公演)
全3ステージ
動員3,800人



作・演出 岡田利規

独自の手法で現代を巧みにあぶり出す岡田利規が、フリーターの視点から明日を問う！

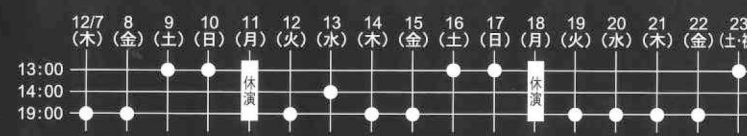
エンジンジョイ

最新作

絶賛発売中

出演 岩本えり 下西啓正 田中寿直 南波典子 松村翔子
村上聡一 山縣太一 山崎ルキノ 山中隆次郎

12/7(木)〜23(土・祝) 全席指定 4,200円



ボックスオフィス 03-5352-9999 <http://www.nntt.jac.go.jp> ぴあ／イープラス／CN／ローソン ほか

新国立劇場 小劇場 THE PIT

2006/2007 シーズン・特別支援企業グループ

KONAMI TBS TOYOTA ROHM/ロム

こんな夢をみた。

僕は千葉の実家にいた。僕らというのは現在の僕と実兄とミック・ジャガーである。冷房のない真夏の六畳間。汗だくになりながら必死にミックにダンスを習っている。いや習っているという感じでもない。次のステージに向けて綿密に創り上げているといった様相。兄とミックが流暢な英語で何やらディスカッション。「そっだな。それはイキでやってみよう」何故かそこだけは日本語のミック。そしてダンス再開。あのミック特有の粘着質な踊り。自己陶醉のターン。カエルみたくな掛け声。油蟬が鳴いている。僕は踊るのをやめた。気付かずどうしたマサアキ！ヘルカモーン！カモーン！ミックが叫ぶ。僕は涙を堪え切れなかった。兄が音楽を止めた。ハハアと荒い息の三人。油蟬が鳴いている——。どうしたマサアキ！ミックが優しく言う。「もう……踊りたくない……」泣きながら僕が言う。「自分勝手なこと言うな」「兄が怒鳴る。待て待て、コウイチ（兄）。感情的になっても仕方がない。マサアキは今、混乱しているだけだ。何しろ今回のステップは難しいからな」ミックが日本語で語る。「違うんだ……。ステップの問題じゃないんだ……。僕はもう……踊りたくないんだ……」僕は涙が止まらない。次の瞬間、兄の強烈な平手拳が僕の頬を打った。「Hey」ミックが狼狽する。油蟬がうるさい。兄がミックに静かに言う。「もういい。こんな奴に構ってられない。今回は二人で行こう。押し黙るミック。」「踊りたくないなら踊らなければいい！ そんな奴が踊ったって意味ないんだ！ 誰もお前に強制なんかしてないぞ！ さあ、踊りたくない奴はこの場を去れ！ とごとと失せろ！」「兄が音楽を再び流し、クネクネと踊りだす。ミックも横目で僕を気にしながらも踊りだす。僕は付む。兄の言うことは正論だ。でも違うんだ。僕は踊るのが嫌なんじゃない。兄ちゃん、気付いてくれ。何でミック・ジャガーがうちにいるんだよ。」「千葉。ミックのワキガが猛烈に臭い。つうか気持ち悪いよ、ミック。怖いんだよ。俺。つうか兄ちゃん、お前ダンスなんかやってた事ねえか？ なにミックと対等に討論してんだよ！ おかしいよ、こんな世界！ 気持ち悪いよ、こんな世界!!!」ここで僕は目が覚めた。明け方の五時。横で妻がアホ面で寝ている。僕は涙を拭いて、居間に行き、煙草に火をつける。それでも今日も生き続ける。

夢

日本対俺

第6回



赤堀雅秋
THE SHAMPOO HAT

あかほりまさあき○71年生まれ。千葉県出身。99年にSHAMPOO HATを旗揚げし、99年にTHE SHAMPOO HATを改名。全ての作・演出を手掛ける。近年では劇団以外でのプロデュース公演演出や他劇団への脚本提供なども精力的に行っている。

今回の一作

「北の国から」連続ドラマ
脚本：倉本聰
制作：1981～2002年
※写真は「北の国から」2 黒立ち

いわずと知れた不朽の名作ドラマ。山田太一の「早春スケッチブック」にしようか迷ったが、やはりこちらが僕の原点（そんな大変なことでないが）。「チン毛が生えた」とか胸の谷間に唾をのんだり、謝りたくても謝れなかったり。それが最大のドラマたる由縁。そう思いたい。

毎週おすめする映画を一つずつ紹介していきます。

とれ、こころでひとつ洋楽とやらを

最終回

【今回の一枚】Connie Francis『best hits』

洋を楽しむと書いて洋楽なる光り輝くネクストワールドへの扉を探す、およそ1年にわたる暗くて長い旅路が今まさに、徒勞に終わろうとしています。いやー、興味なかったー。とっかかりの見つからないこと見つからないこと！ 全然ないの、とっかかり！ とっかかれずじまいですよ、1年間。できたらとっかかっていたんですけどねー。ノブに。洋楽の扉のノブを見つければ、どうにかとっかかってねえ開けようとしたものの、そのノブにはことごとく油が塗ってあり、そもそもそれらが洋楽の扉だったのかどうかすらも定かではなく、犬にはえられタバコを投げられ、そして満身創痍でトボトボと帰途についている今であります。敗因は、うーん、いって言えば「洋楽洋楽言いすぎた」ってことですかね。なんんか余計な壁を作っちゃった気がするんですよ。僕と洋楽の間に。今にして思えば連載始める前の方がよっぽど洋楽に対してオープンでしたもん。今なんてすっかり構えちゃってますもん。洋楽側も。僕に対してトチカ築いちゃってますもん。土壌積んでますもん。そりゃあ今さらおいそれとは開けてくれんでしょう、とまあそういった具合に、門前払われ感と後悔といくばくか原稿料を胸に、京都は二条城のほとりの生家に1年ぶりに帰り着いてみると、メーテリリンクの青い鳥よろし

くそこになんと洋楽の扉があっけらかんと開いてるではありませんか！ 眩しい！ そして目を凝らすとそこは、僕の部屋から廊下を数歩はさんだ父親のオーディオルーム。そうです、僕はオールディーズ好きの父親が夜な夜なわりかし大音量でかける50年代ポップスを浴びて育った、純粋培養の洋楽っ子だったのです！ いややと哀念してました。生まれながらにして洋楽をBGMとして育ったために、洋楽が鳴ることにすら気づいてなかったという落とし穴！ そんなわけで最終回は父・上田昇さん(58歳)に、これぞという名盤として、アメリカンポップスの女王「コーネリアン」の4枚組ベスト盤LPをチョイスしてもらいました。昇さん自慢の針をレコードに落とすと……？

レコード屋に買いに行ってたんや。誠（笑）へー。ビートルズとかはそのあととな？ 昇 ワシはビートルズだいたい嫌い。なぜならあいつらのせいでこういう音楽が廃れたから。ワシはこの頃のアメリカのポップスが大好きやねん。アメリカ大好き！

悪びれないカミングアウトにドキッとしつつも、確かに僕の中にも洋楽の血は流れておりました！ 肩肘張らず普通に「音楽」として洋楽が流れ込んでいるこの感覚。そうか、僕の洋楽はここにあったんだな、と。そんなわけで最後にきて図のように寓話めきましたが、要は何であれなじみかどうか、ってことですかね。これから洋楽聴きます。ナビしてください皆さん、どうもありがとうございました。以上ですキャップ！



うえだまこと○79年生まれ。京都府出身。99年に同楽社小劇場内ユニットとして「ヨーロッパ企画」を立ち上げ、以後「ヨーロッパ企画」の全作品の作・演出を手掛ける。きつここれからも、良きライバルであり良き友であり、洋楽は、次回予定「ヨーロッパ企画」第21回公演「フル・バース・フリーダンス」11/11・12の滋賀県立文化産業交流会館・小劇場、11/19の福山市東部市民センター、○「ヨーロッパ企画」の試演放送。○ABCラジオ・毎週火曜日深夜1:30～2:00（関西エリア）

Connie Francis
『best hits』

50年代に次々と世界的大ヒットを飛ばしたオールディーズの超名曲集。日本国内でも「ワッペイオン」「カラー・ロッド」「ボー・ハント」など、世に知られた曲は多い。音楽に没頭し、絶頂期を築き上げた何曲か歌えたとのこと。さすがはコーネリアン。

推薦人◎上田昇

うえだのぼる○上田製菓本舗3代目店主。焼き菓子一筋30年。趣味のバレーボールでは町内会（第一学区）のバレーチームで活躍。次回予定「ウエダのコンパラス」京都神一円のスーパ―などで大好評販売中。年末は正月用祝い菓子「鶴亀」の製造のため妻・正子さんと遠くまで出張中

インディ高橋の Patchy 小道具研究所

第24回 | 『ミシンと私』



初めての縫い物は小学校の家庭科の時間。ハンカチにワッかはめてチェーンステッチとかクロスステッチやっちょりました。ちなみに、みんなお揃いの裁縫箱がいやでたまらなかったんですよ、学校側から買われるヤツ。変な絵の。なのでしばらくたったら、なにかのお菓子の缶に裁縫グッズ入れまして、コレの使い勝手の悪いコト、悪いコト。初めてのミシンは授業で使った足踏みミシン。で、逆走とかもしばしば。家にミシンは無かった様な気がする。あつたのかもしないけど。

●たぶん多くの人が知ってるまめ知識のコーナー●
「ミシン」……ソーイングマシンがなまってミシンになったんです。
コレホント。広辞苑にも載ってます。

で、本格的にミシンをふむ様になったのは新感線に入っただけで、ミシンを扱えないと作業にならないので、で、衣装の女の子にちょっと教えてもらったり、団吾さんがやってくれるのを盗み見したり。で、ミシンで高価なものじゃないですか。なので当時おつきあいでた女の子の実家のミシン借りたり。分かれた後もしばらく借りバチして、これはどうよ、と思い一人で実家に返しに行ったりとか。○○○ちゃんのお母さん、あの時は優しく接してくれてありがとう。等と思い出にふけりつつ。
現在は小道具班のミシン（ジュエリーのシュプール90）が1台A。
私タカハシが同じくジュエリーのシュプール90とベビーロックの衣織人（ロックミシン）とジュエリーのエクシムプロ9500を所有。作業ピーク時はこの4台がフル可動。ホンマですかとお思いでしょうかホントです。小道具なんのにんで4台もいるんですかとお思いですが、いるんですよ必要なんですコレが。

と、いうわけで、くっちゃべってても、なんなので作りましょう。CRBの大阪からデビューの小道具もとりあえず出来たコトです。ものすごく、作業場のトイレ掃除をしたいのですが、作りましょう。途中どうしても掃除したくなったら作業中断します。ちなみに数時間後には大阪に移動しないといけません僕。

でわ、「簡単・サイバーバンクな七人の小人の帽子」作ってみよう。



まずはウレタンの10mmBを切り出します。サイバーバンクなので耳あてのついている帽子でいきます。耳あてがついてるとサイバーバンクな感じがするからです。僕は。しかし、ウレタンを使うということはへんてこりんなダウンジャケットの出来損ないな帽子になる可能性、大一つ。でもいってみよう。

薄手のシルバー系の合皮をZ-3（スプレーボンド）で軽く接着、2cmぐらゐ裏に折り返して接着。裏の合皮は少し大きめに、同じくZ-3で軽く接着。なぜシルバー系の合皮かと言いますと鉄で出来るという設定だからです。サイバーバンクといえやはり金属でしょう。僕的にはですが。はしっこをミシンで「たたいて」いこう。縫うことを「たたく」と言います、僕の周りでは。あとミシンを「走らせる」とか言います。僕の周りでは。他所で通じなかったらごめんです。ウレタンを合皮で、はさんでミシンで縫う時はシリコンスプレーCを針に吹こう。すべりがヨイ。あとテフロン押さえDを使いましょう。すべりがヨイ。合皮を縫う時はこの2つは必ずやっとう。すべりが良くスムーズにミシンが走ってくれます。くどい様ですが、シリコンスプレーはすべります。床なんかにかくと、つるつるで恐ろしいトラップになります。危険、危険なのでいたずら等せぬように。ちなみに昔、ろうそくを台所の床にすり込んだ時お母さん、しばかれました。母親に。

ちなみにシリコンスプレーは手芸関係のお店にあります。テフロン押さえもね。それと合皮を縫う時はミシン目を3.5mm～4mmで縫ってます。私。あんまりミシン目が細かいと縫った所がビリビリ切れてくるので。糸はジャッペスバンの普通地用を使用。

余分な合皮をカットして、今度はステッチを入れてきましょうE。あらまっ、かなり表情が出ました。そして、出来損ないのダウンジャケット系の臭いがしてきました。

鉄で出来るという設定なので要所要所にハイタッチアイレットFを打ち込んでいこう。耳あて部分にも耳穴として打ち込んでいこうG。気分は鉄板をビスで繋ぎ合わせていくつもり。あくまでつもりです。ハイタッチアイレットは穴あけるのと同時にアイレットを打ち込むという頼もしいヤツ。カンカン音も出ないので閑静な住宅街や旅先のホテルの一室、もちろん、昼でも夜でも作業OK。ぐいっとレバーを押すだけ。

ハイタッチアイレットは鉄を扱ってるお店（問屋）においてあります。

で、もって縫い合わせたら、ほら帽子。完成ですー。出来損ないのダウンジャケット風味のドリル帽子の完成一つD。
あれっ、「サイバーバンクな七人の小人の帽子」というコンセプトは何処にいってしまったのでしょうか。忘れて下さい、私はもう忘れちゃった。そもそも、担当の方との打ち合わせでは「かぶりもの」で作ると言っていた私がおりましたが、あれっ、いつの間にか「かぶりもの」を作る私になってました。またウソをついてしまいました。しかも、すぐばれるウソを。

で、話は変わりますが、ミシンも色々ありまして、パワーのあるヤツとか、速いのとか、革用とか、高いのや安い、賢いのとか。ちなみに僕は結構というか、かなりミシンに負荷をかける使い方をしています。布以外を縫う時は気をつけてというか貴方なりに考えて。ミシンによたら調子が悪くなったり、ぶっ壊れたりしますんで。なので、ミシンを購入する場合、アフターケアがしっかりして親切なトコがよいですよ、やっぱ。それとあと、怪我しない様に。指縫ったりとかせぬよう気をつけて。小学生の僕は見た、指を縫う同級生を。泣いてました、その子。シリコンスプレーですっころんで後頭部を強打したりせぬよう。いつの間にかミシン近辺が自然と、つるつるトラップになってたりするんですよ、コレが。あと、まち針とか針、針の管理はしっかりと。抜き忘れ等無いよう。針は危険、危険。

●幼い頃に母親に聞かされた話シリーズ・針編●
落ちてた針が血管にささり血管の中に入り込んで流され心臓にささって死んだ人がいるんや。だから、針の始末はきちんとしなアカン。死にたくなかったら針を置きっぱなしにするな。幼かった僕は恐怖のズンドコに落とされました。

でわでわ楽しいミシンライフを送って下さいませ。でわ次回「Tシャツと私」でお会いいたしましょう。たぶん。私、今からトイレ掃除始めます。

本日の Patchy と私

またたですが、リストバンドとべるハンカチのセットを3名様にプレゼントでございます。

●Patchy商品取扱店●
PUTUMAYO ラフォーレ原宿BF1.5
PUTUMAYO 原宿路面店
VISIBLE 大阪市中央区
西心斎橋2-8-33
アメ村スクエア2F

patchyHP ▶▶ http://www5.ocn.ne.jp/~patchy/ptop.htm

演劇ぶっくが運営するエンタテインメントスクール

ENBUゼミナール

演劇コース

昼間部 一年制
夜間部

〒160-0005 東京都新宿区愛住町13-10
TEL:03-5366-7588
E-mail:zemi_info@enbu.co.jp
HP:http://www.enbu.co.jp/zemi/

4月1日よりお茶の水校舎に
移転します。
【新住所】東京都千代田区
神田駿河台2-3 DH2001.Bldg

2007年
5月開講生
11/25(土)より
募集開始!

▶▶ 自分がどんな表現が好きなのか、どんな表現に向いているのか、どんな表現を求められる存在なのか、それらをきちんと自覚することによって、自分の魅力を最大限に活かした表現が可能になります。ENBUゼミナール演劇コースでは、様々なタイプの演劇に挑戦することで「自分だけの表現」を探り、自分の「魅力」に気付くためのカリキュラム。長い時間をかけても体験できないような様々な表現方法を、一年間で凝縮して経験することができるのが、ENBUゼミナールなのです!

基礎を磨く!!

基礎講座

基礎をしっかりと学ぶことで、自分の理想とする表現ができる身体づくりと豊かな発想力を養います。



ヴォイストレーニング & ストレッチ (24時間)

発声、ストレッチ、筋肉トレーニング、リズム練習などを通して、自分自身の声のこと、身体のことを学びます。

演技基礎 (24時間)

演技をする上での基礎的なノウハウを学び、実際に演じてみることで、表現の基本を身につけていきます。

ダンス (18時間)

表現の可能性を広げることはもちろん、役者として舞台に立つ際に役立つリズム感を培います。

表現講座 1

台本には、豊かに表現するためのたくさんのヒントがあり、台詞の読み方にも、豊かに伝えるためのたくさんのポイントがあります。表現の基本的な理解の仕方を学びます。



台本の読み解き方 (24時間)

脚本を理解すること、それは役を理解することです。台詞の根底にある人物の意図は何かなど、色々な角度から台本を読み解く方法を学びます。

リーディング (9時間)

文章を理解し、相手役や観客に向かって、正確にそして豊かに言葉を伝えるために、アクセント、言葉の立て方など、具体的なポイントを学びます。

表現講座 2 表現ワークショップ (24時間)

言葉に関する表現の基礎を学んだら、つぎは実際に身体を使って表現を学びます。現役の演出家たちによる実践的なワークショップ講座です。



特別講義

表現の世界をリードする方々の体験談。それぞれの駆け出しの頃、現在の仕事のことなど、ここでしか聞けない貴重なお話です。各講師年1回2時間の講義となります。



- 劇作家、演出家による講義
- プロデューサーによる講義
- 俳優による講義
- 演劇制作講座
- オーディション講座 など

早期出願割引実施します

対象 第1回応募×切 12/11(月)
受付期間 第2回応募×切 12/25(月)

学校説明会開催!

11/26(日) 11:00~
12/9(土) 13:30~

学校説明会では、講師からのメッセージや劇場公演などのビデオを上映し、ゼミスタッフが授業内容についてご説明いたします。ご説明の時間は、1時間程度を予定しています。

資料請求
学校説明会
無料!

経験を磨く!!

スタジオ実習

様々なジャンルの演劇に挑戦し、実際に作品づくりに挑戦することで自分の苦手な表現、得意な表現を探っていきます。



ウェルメイド (18時間)

台本をしっかりと読み解き、演じること、それがウェルメイドの基本です。最も基本的で大切な演劇表現について学びます。

コメディ (18時間)

観客を笑わせることは、泣かせることよりも難しいと言われます。実践的な指導によって、笑いを呼び起こすためのポイントを学びます。

ミュージカル (18時間)

ミュージカルは、歌、ダンス、演技を組み合わせ、総合エンタテインメントです。様々な方向性の表現を「魅せる」ことについて学びます。

自主発表会

生徒たちの運営によって自主的に行われる「自主発表会」。ENBUに入ってから初めての外部劇場での公演になります。2006年は12月に開催が決定。講師の力を借りずに、自分たちだけの力で作品をつくってみましょう。公演詳細はhttp://www.enbu.co.jpからアクセスできます。



劇場公演

一年間学んできたことの集大成として、舞台作品をつくり劇場で上演します。クラスの全員が出演し、当日の照明、音響、舞台監督などのスタッフは、プロの方が担当します。



クラス公演の舞台監督、照明、音響はプロのスタッフが担当。真摯な舞台づくりの現場となります。



いよいよお客さんを迎える直前。開演ギリギリまで講師から、細かい確認が行われます。



舞台も完成し、一般のお客さんも超満員。いよいよ本番の幕が上がります。



終演後のロビーには、お友達やお客さんで大賑わい。本番を終え、生徒たちもほっとした表情。

※授業内容は事情により変更となることがありますので、ご了承ください。

ENBUゼミナールとは?

ENBUゼミナールとは?

雑誌「演劇ぶっく」を出版する演劇ぶっく社が、その独自のネットワークを活かし、98年に設立したエンタテインメントスクールです。初心者の方から無理なく学べ、独自の表現を探すカリキュラムとなっています。

ENBUゼミナールの
演劇コースには
こんな方たちが
通っています!

男女比	男		女	
	42%	58%	42%	58%
年齢	13才以下		20~24才	
	13%		56%	
経験	特に経験なし		舞台に出演したことがある	
	42%		46%	
経験	舞台に出演したことがある		脚本を書いたことがある	
	15%		14%	

卒業生インタビュー

劇団入団編

卒業後「うちの劇団にこないか」って松村さんから突然メールが来たんです。ちょうどバイトのデリバリー中だったんですけど、うれしくて坂の頂上でガッツポーズを(笑)。入団後は、「もっと人の演技を受けなきゃだめだ」とガツンと言われたり、甘くはないと感じています。劇団の大先輩八嶋智人さんが本気で舞台上の姿をみると、若手の自分が手を抜けるわけがない! と感じます。いま、舞台に立つことはとても楽しいのですが、いろんな面で活躍している先輩達が身近にいますので、いずれ演劇以外の分野にも挑戦できたらと思います。

亀岡孝洋

かめおかたかひろ ●02年度演劇コース松村武クラス修了。
卒業後「カムカムミニキーナ」に入団。
今後は予定は、カムカムミニキーナHP
(http://www.3297.jp)をご覧ください。



プロダクション入所編

9月まで放送していたNHK連続ドラマ小説「純情きらり」に出演させていただいていたのですが、もともと違う役のオーディションに外れてしまっていて「別の役でどう?」ということで参加させて頂くことになりました。事務所に所属すると、チャンスがたくさん巡ってくることは、とても大きいことだと思います。現在の事務所に所属したのは、演劇担当猫ニャー(04年解散)で活動していた頃です。そして劇団入団のきっかけはENBUゼミのブルースカイ(演劇担当猫ニャー作・演出)クラスを受講したから...というふうになる、いまこうして活動している全てのスタート地点がENBUゼミだったんだな...って思っています。

藻田るり子

もだるりこ ●00年度演劇コースブルースカイクラス修了。
卒業後、プロダクション「タックス」に入所。
次回出演作:あひるなんちゃら「UFOcm
(ユーフォーセンチメートル)」07/12/9~12王子小劇場
(http://www.shirunanchara.com)



劇団旗揚げ編

私、幼い頃から妄想癖のある危ない子供で(笑)、学校の帰り道に一人で話を作ってセリフを喋ってました。高校では演劇部に所属。そのころから短篇の脚本を書き始めました。ENBUゼミのワークショップ講座で、河原雅彦さんから「おもしろい」と言ってくれたのがきっかけで、あつましくも個人的に脚本を読んで頂いたりもしました。卒業してからすぐに同じクラスで魅力的だった役者さんに声をかけて、一回きりのつもりで公演をうったら思いのほか好評で続けていくことにしました。劇団「メタリック農家」だと脚本・演出ですが、役者としても色々挑戦したいですね。

葛木英

くずきあきら ●02年度演劇コース松村武クラス修了。
卒業後「メタリック農家」を旗揚げ。
次回出演作:メタリック農家「食」11/8~12王子小劇場
(http://www.metanouchi.com/)

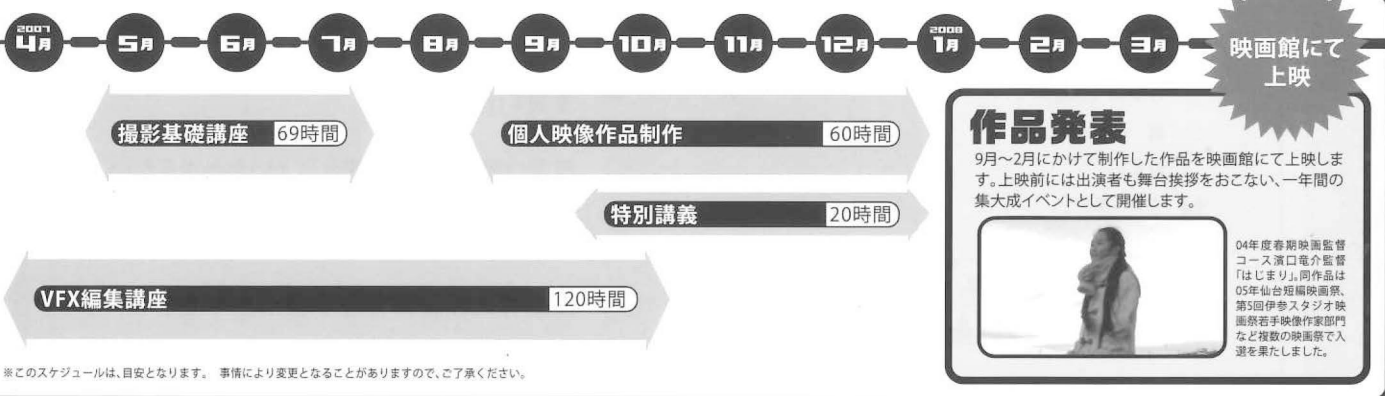


映画監督&映像ディレクター専攻

▶▶ 第一線で活躍する映画監督の指導のもと、1人1本「自分が本当に撮りたい映画」を制作し、映画館にて上映します。さらに、動画編集のみならず実写とCGの特殊合成・編集など、現代の映像クリエイターに必要な不可欠な編集の知識と技術を幅広く学びます！

昼間部 夜間部 一年制

年間スケジュール



授業内容

個人映像作品制作

実際に短編映画を制作することで企画の検討、脚本執筆、撮影、編集、完成までを経験します。クラスメイトと協力しつつ、全員が映像作品を制作し、完成した作品は映画館にて上映します。

昼間部 講師 古厩智之 監督 「さよならみどりちゃん」
夜間部 講師 篠原哲雄 監督 「地下鉄に乗って」



撮影基礎講座

- 📷 撮影入門 (6時間)
- 📄 脚本入門 (18時間)
- 🎤 演出入門 (27時間)
- 💡 照明入門 (6時間)
- 🎧 録音入門 (6時間)

VFX編集講座

- 🎞️ 映像編集基礎講座 (4時間)
- 🖥️ 2DCG基礎学習 (12時間)
- 📦 3DCG基礎学習 (28時間)
- 🎥 映像制作 (44時間)
- ❗ 講義 (32時間)

卒業生情報！

02年度ENBUゼミナール映像科を修了した岩田ユキさんが、「檸檬のころ」の監督に決まりました。写真は7月に都内にて行われた製作発表の様子です。主演はCX連ドラ「ダンドリ。〜Dance☆Drill!」に主演した柴倉奈々さんと塩田明彦監督「カナリア」で高崎映画祭新人賞を受賞した谷村美月さん。若き女性クリエイターのコラボレーションに大注目です！現在、順調に撮影中。公開は07年を予定しています。

「檸檬のころ」公式ホームページ
<http://www.lemon-no-koro.com/>



©「檸檬のころ」製作委員会

卒業生が「檸檬のころ」を監督します！

🌞 昼間部
平日昼間、週末で通学可
🌙 夜間部
平日夜、週末で通学可

**早期出願割引
実施します**

対象受付期間

第1回応募×切 12/11 (月)
第2回応募×切 12/25 (月)

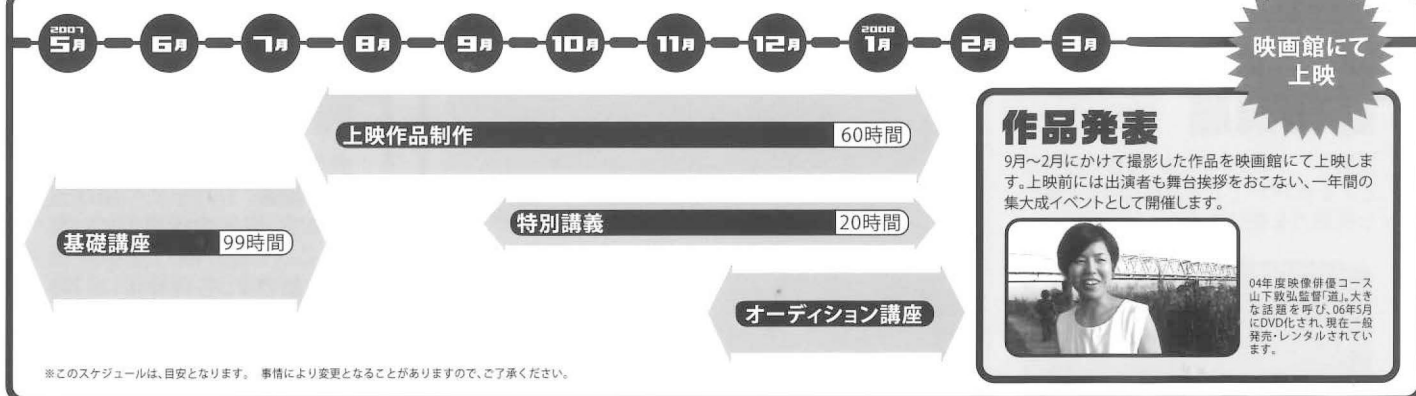
2007年5月開講生 11/25(土)より募集開始！

映像俳優コース

▶▶ 現在映画界で活躍している3人の監督を講師に迎え、実践の中から演技を学びます。つまり、1年間で3本の短編映画を講師と生徒で作り出してしまいます！俳優になりたいという想いを、形に！

昼間部 夜間部 一年制

年間スケジュール



授業内容

上映作品制作

3人の映画監督から演技指導を受けた後、授業内オーディションなどにて配役を決定。3月に映画館にて上映する作品に出演します。

基礎講座

- 🎤 ヴォイストレーニング & ストレッチ (24時間)
- 🎭 演技基礎 (24時間)
- 🎤 演出入門 (27時間)
- ❗ 俳優ワークショップ (12時間)



卒業生インタビュー

ENBU卒業後のある日、専任講師だった篠原哲雄監督の「地下鉄に乗って」のキャスティングプロデューサーから「今度、篠原監督の新しい映画を撮るのですが、監督の方から沢井さんの名前が出たので、次のオーディションに来ていただけませんか？」というお電話を頂きました。後日改めて日活の撮影所でオーディションを受け、合格しました。実際の撮影現場はセットが秘密基地みたいですごかったです。僕は、堤真一さんと激しく絡むシーンで出演させていただきました。この撮影を通して、俳優はその場のノリだけではなく、同じ演技を何度も繰り返さなければならぬということを知りました。



沢井正棋

さわいまさき ●04年度監督×俳優コラボレートコース俳優部修了。「青いうた」金田敏監督(06年)、「地下鉄(メトロ)に乗って」篠原哲雄監督(06年)などに出演。

「地下鉄に乗って」に出演！

学校説明会開催！

11/26(日), 12/9(土), 17(日)

映画監督&映像ディレクター専攻 11:00～
映像俳優コース 13:30～

お問い合わせ **ENBUゼミナール**

〒160-0005 東京都新宿区愛住町13-10
TEL:03-5366-7588 E-mail:zemi_info@enbu.co.jp
HP:<http://www.enbu.co.jp/zemi/>

資料請求・学校説明会
個別カウンセリング 無料！

4月1日よりお茶の水校舎に移転します。【新住所】東京都千代田区神田駿河台2-3 DH2001.Bldg

e+STAGE ENBU出張版

チケット・サービスでおなじみe+（イープラス）が、「演劇ぶっく」読者の皆さまを対象に、人気チケットを一般発売に先立ち「先行予約」を受け付けちゃう「e+STAGE ENBU出張版」。
今回の「先行予約」受付するチケットはコレです！

彩の国シェイクスピア・シリーズ第17弾 『恋の骨折り損』

演出：蛭川 幸雄
作：ウィリアム・シェイクスピア
翻訳：松岡 和子

出演：北村 一輝 姜 暢雄 窪塚 俊介 高橋 洋
内田 滋 月川 悠貴 中村 友也 須賀 貴匡 他

会場：彩の国さいたま芸術劇場・大ホール
期間：2007年3月16日（金）～31日（土）（全18公演）
席種・料金：S席 9,000円、A席 7,000円、B席 5,000円（税込）
チケット一般発売日：2006年11月18日（土）



人気沸騰の“男性俳優のみ（オール・メール）”で演じるシェイクスピア喜劇”

シェイクスピアが活躍したエリザベス朝時代には、女性は舞台上に上ることを禁じられていました。そのため、すべての女役は少年俳優によって演じられていましたが、シェイクスピア・シリーズの中で、当時と同じ形態で上演されているのが“オール・メール・シリーズ”です。過去に『お気に召すまま』（成宮寛貴、小栗旬ほか出演、2004年）、『間違いの喜劇』（小栗旬、高橋洋ほか出演、2006年）の2作品が上演されていますが、いずれも注目の若手男性俳優を集めたキャスティングで話題となり、チケットは完売、マスコミ各紙からも絶賛されました。

最新作『恋の骨折り損』で主役を務めるのは北村一輝。映画やテレビなどで活躍する人気俳優で、演出の蛭川幸雄とは初めての顔合わせとなります。共演にも、劇団スタジオリフの人気俳優で映画「NANA2」への出演も決まっている姜暢雄や、映画などで評価の高い窪塚俊介、また蛭川演出作品には欠かせない高橋洋、「KITCHEN」に続き蛭川作品へは2度目の出演の須賀貴匡ら、いずれも人気・実力のある若手俳優が揃っています。男女の心の機微を知的な会話で描いた本作を、“世界の二ナガワ”はどのように描くのか。彩の国シェイクスピア・シリーズ第17弾『恋の骨折り損』にご期待ください。

★ 彩の国シェイクスピア・シリーズ公式ブログ <http://blog.eplus.co.jp/shakespeare/>

★ ENBU読者先行受付 ★

お申込みは
コチラ

受付URL <http://eplus.jp/enbu/>
受付期間 2006年11月16日（木）10:00～18:00

※本受付は、先着順での受付となります。用意させていただいた枚数がなくなり次第、受付期間中でも終了とさせていただきます。
※イープラス会員登録（無料）をお済ませの上、お申込みください。※開演時間は、上記URLにてご確認ください。

知らなきゃ損する 使って得する イープラス! eplus.jp

気になる情報が
メールで届く!

プレオーダーで
人気チケットを
楽々ゲット!

セブンイレブン
発券
はじめました!

演劇人ブログが大充実!
長塚圭史/流山児祥/村上大樹/土屋亮一
THE・ガジラ/劇団、本谷有希子/猫のホテル
劇団鹿殺し/TPT/藤本真由/他
<http://blogs.eplus.co.jp/>

何故、今まで 演劇モバイルを 使っていなかったのだろう。

ふりがな	えんげき かい	性別 (男性・女性)	
氏名	演劇 愛子	生年月日	明・大・昭平 57年9月7日
住所	〒0000-0000 新橋区00△町1番地2号		
電話番号	(03)0000-△△△△		

問 診 表

※(4)の項目に一つでもあてはまった場合は下記サイトへ今すぐご登録を。

(1) 現在どのような症状をお持ちですか?

- ☒ 発熱
☐ かゆみ(部位:)
☐ 痛み(部位:)
☐ めまい
☒ つまらない。

携帯先を交換3か
じぶん進んでいく

(2) 最近、抜け毛がきになる。

- ☐ はい
☒ いいえ

(3) アルコールは飲みますか?

- ☒ はい
・ビール
・焼酎
・日本酒
・ウイスキー
・ワイン
☐ いいえ

(4) 思いあたる症状にチェックを入れてください。

- ☒ 通勤・通学中にケータイで演劇のチケットを買いたい。
☐ 芝居は観たいが何を観ればよいかわからない。
☒ 劇場へ行くときよく道に迷う。
☐ 演劇界の最新情報を手軽に知りたい
☐ J-POPばかりの着信メロディに飽き飽き。
☐ 演劇人のインタビューをたくさん読みたい。
☒ 俳優のコラムに興味津々。
☒ 演ぶチャートの結果に一喜一憂。
☐ 演劇の携帯サイトなんてあるわけない。
☒ 演劇のためなら月315円は惜しくない。

ありがとうございました。

演劇モバイル お手持ちの携帯電話から カンタンアクセス!

- 1 Menu→メニューリスト→音楽/映画/芸能
→タレント/芸能→演劇モバイル
2 EZトップメニュー→エンターテインメント
→芸能・アイドル→演劇モバイル
Yahoo!ケータイ→メニューリスト→芸能・映画・音楽→芸能・タレント→プロダクション・総合
→演劇モバイル

株式会社 ケイブ
cave <http://www.cave.co.jp>

○サービスのご利用には、利用料が含まれます。○サービス利用料の他に別途チケット送料がかかります。通信料に
関しては、契約回線業者にお問い合わせください。○仕様・価格内容・料金・お申し込み方法等は、予告なく変更する
場合がございます。○この広告中に記載された企業・団体・サービス名およびそれらのロゴマークは、関係会社・団体の商
標または登録商標です。○本広告掲載の写真・イラストおよび記事・価格内容の無断転載・複製・二次使用を禁止します。

3キャリア対応!
演劇モバイル用QRコード



カメラで読み取るだけで
簡単アクセス!

<http://engeki.cave.co.jp>

acteur

アクチュール No.3 2006年11月号

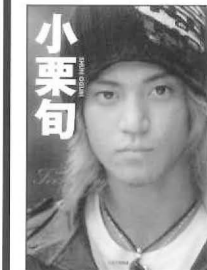


A4判変型/100ページ/定価980円(税込)

アクチュール No.2 2006年9月号
表紙&巻頭ロングインタビュー 妻木木聡/小栗旬と行くイギリス演劇ガイドムック
A4判変型/108ページ/定価980円(税込)

アクチュール No.1 2006年7月号
表紙&巻頭ロングインタビュー 豊川悦司/Take me out to ミュージカル!
A4判変型/108ページ/定価980円(税込)

*** 編集部ブログ更新中! ***
<http://www.kinejun.com/acteur/blog.html>



小栗旬
A5判/144頁/定価1890円(税込)

小栗旬 First Stage
シェイクスピアの聖地・英国ストラッドフォード・アボン・エイボンでの舞台公演のカラーグラビアや、ロングインタビューで注目の若手俳優・小栗旬の魅力に迫る。



日本魅録
香川照之=著
俳優・香川照之が、自らが接したおかしきも素晴らしい俳優たち、監督たちの人と仕事について時に冷静に、時に熱く描く。『キネマ旬報』好評連載中の名エッセイ待望の書籍化。

四六判/336頁/定価2100円(税込)

11月中旬 長塚圭史対談集
COFFEE SHOP 2
店主・長塚圭史の気さくなもてなしに、名だたるゲストがここだけの話を展開。ゲスト 岸部一徳/武田真治/塚本晋也/小日向文世/八嶋智人/松田龍平/加瀬亮/竹中直人/風間杜夫/山本浩司×山下敦弘
A5判/予価1680円(税込)

既刊も好評 長塚圭史対談集
COFFEE SHOP
ゲスト 田口トモロヲ/藤原竜也/大杉漣/村上淳/田辺誠一/市川染五郎/香川照之/大森南朋/原田芳雄
A5判/168頁/定価1680円(税込)

キネマ旬報社
東京都港区赤坂4-9-17 TEL 03-6439-6462
<http://www.kinejun.com>

池袋周辺
池袋や大塚、または練馬区・板橋区

アイビッド目白
新宿区下落合3-20-11
03-3951-5888 JR目白駅5分

11/23(木)~11/26(日)
THE フォービース 第8回公演
『PAは極道〜PAPA〜GOKU〜』
脚本:堀江B面 演出:山崎四郎
ゲスト:平成ノブシコブシ
随時お問い合わせを
随自由¥2,500
監 吉本興業 マネジメントセクション0352176112

シアターグリーン
豊島区池袋2-20-4
03-3983-0644 JR池袋駅 5分

BOX in BOXTHEATER

11/14(火)~11/19(日)
FICTION
『「はえ」と云ふ名の店」
作・演出・出演:山下澄人 出演:市川しんぺー(猫のホテル)/山田一雄/矢田政伸/井上唯我/大山健/他
随時お問い合わせを
随FICTION(株)ビーファイブ内>0353797638

11/22(水)~11/26(日)
OFFICE冒険物語プロデューズNO.36 劇団東京★ロケットボーイズ公演 CHAPTER4
『天使の騎士団ブルース・エンジェル・ナイツ・ブルース』
作・演出・出演:うちやまきよつぐ 出演:近藤エリソン/中田真弘/大谷幸広/岡田栄美/鳥海剛志/他
随時お問い合わせを
随全席自由¥2,800
監OFFICE冒険物語0336347352

サンシャイン劇場
豊島区池袋3-1-4 サンシャインシティ文化会館4F 03-3987-5281
池袋駅東口15分/有楽町線池袋駅8分

11/25(土)~12/25(月)
演劇集団キャラメルボックス『少年ラヂオ』
脚本:成井豊+隈部雅則 演出:成井豊+白井直 演出:お問い合わせを
随全席指定¥5,500
監演劇集団キャラメルボックス0353420220

東京芸術劇場
豊島区池袋1-8-1
03-5391-2111 JR池袋駅西口 3分

サンシャイン劇場
豊島区池袋3-1-4 サンシャインシティ文化会館4F 03-3987-5281
池袋駅東口15分/有楽町線池袋駅8分

11/25(土)~12/25(月)
演劇集団キャラメルボックス『少年ラヂオ』
脚本:成井豊+隈部雅則 演出:成井豊+白井直 演出:お問い合わせを
随全席指定¥5,500
監演劇集団キャラメルボックス0353420220

東京芸術劇場
豊島区池袋1-8-1
03-5391-2111 JR池袋駅西口 3分

サンシャイン劇場
豊島区池袋3-1-4 サンシャインシティ文化会館4F 03-3987-5281
池袋駅東口15分/有楽町線池袋駅8分

11/25(土)~12/25(月)
演劇集団キャラメルボックス『少年ラヂオ』
脚本:成井豊+隈部雅則 演出:成井豊+白井直 演出:お問い合わせを
随全席指定¥5,500
監演劇集団キャラメルボックス0353420220

東京芸術劇場
豊島区池袋1-8-1
03-5391-2111 JR池袋駅西口 3分

中ホール

11/9(木)~11/19(日)
音楽座ミュージカル『リトルプリンス』
原作:アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子さま』脚本:演出:フームホールプロジェクト
随時お問い合わせを
随S席¥9,870、A席¥7,770、B席¥5,670
監 音楽座ミュージカルオフィス0332221178

12/20(水)~12/22(金)
ロシア国立ボルコフ記念劇場『検察官』
作:ニコライ・ゴゴリ 演出:ウラジーミル・ボコレーボフ
随時お問い合わせを
随S席¥7,000、A席¥5,000、B席¥3,000
監 吉本興業株式会社0332349999

12/20(水)~12/22(金)
ロシア国立ボルコフ記念劇場『検察官』
作:ニコライ・ゴゴリ 演出:ウラジーミル・ボコレーボフ
随時お問い合わせを
随S席¥7,000、A席¥5,000、B席¥3,000
監 吉本興業株式会社0332349999

12/20(水)~12/22(金)
ロシア国立ボルコフ記念劇場『検察官』
作:ニコライ・ゴゴリ 演出:ウラジーミル・ボコレーボフ
随時お問い合わせを
随S席¥7,000、A席¥5,000、B席¥3,000
監 吉本興業株式会社0332349999

俳優座劇場
港区六本木4-9-2 03-3470-2880
日比谷線 六本木駅 1分

12/8(金)~12/10(日)
劇団青年座『有馬稲子と五つの楽器による語り はなれ賢女おりん』
作:水上勉 構成・演出:鈴木完一郎
音楽:和田薫 企画・製作:水谷内助
義 出演:お問い合わせを
随全席指定¥6,000
監 青年座0354788571

11/28(火)~12/6(水)
木山事務所『人形の夢ひとの夢』
作:小松幹生 演出:三輪えり花
音楽:古賀義典 美術:石井みつる 振付:根布谷翔山 出演:平田広明(昂)/林次樹/菊池章友/吉野悠我(オフィストーク)/大宜良輝彦/他
随時お問い合わせを
随全席指定¥5,000
監 木山事務所0359580855

青山円形劇場
渋谷区神宮前5-53-1 子どもの城内
03-3797-5678
地下鉄表参道駅7分
<http://www.aoyama.org>

11/10(金)
ダンストリエンナーレ TOKYO'06
『Hプログラム』
出演:<i feel funny today>ヤスミン・ゴデル(イスラエル)
随11/10(金)19:00
随全席自由¥3,500
監 青山円形劇場0337975678

11/17(金)~11/22(水)
[BURN THIS =焼却処分=]
作:ランフォード・ウィルソン 翻訳・演出:青井陽治 出演:岡幸二郎/小林十市/浦井健治/大輝ゆう
随時お問い合わせを
随全席指定¥7,800
監 キョードー東京0334989999

12/1(金)~12/26(火)
『ア・ラ・カルト〜役者と音楽家のいるレストラン〜』
演出:吉澤耕一 構成・出演:白井晃台本・出演:高泉洋子 音楽監督・出演:中西俊彦(vn) 出演:塩山泰/石井一孝(visitor)/クリス・シルバー・スタイン(b)/竹中俊二(g)/林正樹(p)
随時お問い合わせを
随全席指定¥6,800
監 子どもの城劇場事業本部0337975678

12/1(金)~12/26(火)
『ア・ラ・カルト〜役者と音楽家のいるレストラン〜』
演出:吉澤耕一 構成・出演:白井晃台本・出演:高泉洋子 音楽監督・出演:中西俊彦(vn) 出演:塩山泰/石井一孝(visitor)/クリス・シルバー・スタイン(b)/竹中俊二(g)/林正樹(p)
随時お問い合わせを
随全席指定¥6,800
監 子どもの城劇場事業本部0337975678

PARCO 劇場
渋谷区宇田川町15-1 ヴィレコバート1
03-3477-5858 JR渋谷駅 5分

11/20(月)~12/7(木)
『トーチング・トリロジー』
作:ノーウェイ・ファイアステイン 上演台本・演出:鈴木勝秀 出演:藤井英介/橋本さとし/長谷川博己/奥貫薫/黒田勇樹/他
随時お問い合わせを
随全席指定¥7,500、学生券¥4,000
監PARCO劇場0334775858

11/16(木)~11/25(土)
ブロードウェイミュージカル『RENT』
●東京厚生年金会館 大ホール(新宿区新宿5-31)03-356-1111
作詞・作曲・脚本:ジョナサン・ラーソン
随時お問い合わせを
随S席¥11,000、A席¥9,500、B席¥8,000
監チケットスペース0332349999

渋谷
渋谷・恵比寿や青山・赤坂・六本木周辺

青山劇場
渋谷区神宮前5-53-1 子どもの城内
03-3797-5678
地下鉄表参道駅7分

11/11(土)~11/12(日)
ダンストリエンナーレ TOKYO'06
『Hプログラム』
出演:<i want to go home>アリアス/ギリェルメ・ボテリョ(スイス)・作品:未完>コンドルズ/近藤良平(日本)
随時お問い合わせを
随S席¥4,500、A席¥3,500
監 青山劇場0337975678

11/16(木)~11/19(日)
名倉ジャズダンススタジオ 第17回公演
『CAN'T STOP DANCIN' 2006』
構成・演出:振付:玉野和紀 構成・訳詞:忠の仁 振付:平沢智 音楽監督:佐山雅弘 出演:絵本緒ゆう/風花舞/樹里咲穂/横山智佐/小野妃香里/他
随時お問い合わせを

12/25(月)
レニングラード国立バレエ『くるみ割り人形』
随12/25(月)18:30
随S席¥13,000、A席¥11,000、B席¥9,000、C席¥7,000、D席¥5,000
監 光藍社0339439999

12/25(月)
スバイラルホール
港区南青山5-6-23
スバイラルビル3F
03-3498-5793
地下鉄表参道駅3分

11/19(日)
ダンストリエンナーレ TOKYO '06
『Jプログラム』
出演:お問い合わせを
随2006/11/19(日)18:00
随全席自由¥3,500
監 スバイラル0334981171

11/24(金)~11/26(日)
SUPER COLLABORATE SHOW
『"Mr.PINSTRIPES"』
作:フレデリック・アシュトン 監督・演出:ウェンディ・エリス・サムズ 指揮:エマニュエル・プランソン 演奏:東京フィルハーモニー交響楽団

11/24(金)~11/26(日)
SUPER COLLABORATE SHOW
『"Mr.PINSTRIPES"』
作:フレデリック・アシュトン 監督・演出:ウェンディ・エリス・サムズ 指揮:エマニュエル・プランソン 演奏:東京フィルハーモニー交響楽団

中 劇 場

11/24(金)~11/26(日)
七十二家房客
随時お問い合わせを
随VS¥6,000、AV¥5,000、BY¥4,500
監ソーゴ東京0334059999

12/15(金)~12/17(日)
新国立劇場コンテンポラリーダンスダンスシアターNo.14
『勅使川原三郎「ガラスノ牙」Glass Tooth』
振付・美術・照明・衣裳・音楽構成・出演:勅使川原三郎 衣裳・音楽構成・出演:宮田佳 出演:佐東利穂子/吉田梓/ヴァスラフ・クニエス/ナターシャ・ヴォトナ/ウルツイ・アラブル(NDT I)
随時お問い合わせを
随S席¥6,300、A席¥5,250、B席¥3,150
監 ボックスオフィス0353529999

11/29(水)~12/3(日)
ACファクトリー特別公演『URASHIMA』
作:高円坊 演出:小蔵延丈 出演:吉井怜/江口ヒロミ/若尾桂子/富田昌則/新上博己/他
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,500
監 ファーストコネクション株式会社0354594410

定期公演館以外

11/15(水)~11/19(日)
アル☆カンパニー『新型 開運ラジオ』
●SPACE 雑遊
作:平田俊子 演出:平田満 出演:井出みな子/黒木美奈子/井上加奈子
随時お問い合わせを
随全席指定¥3,000
監 トム・プロジェクト0353711153

11/16(木)~11/25(土)
ブロードウェイミュージカル『RENT』
●東京厚生年金会館 大ホール(新宿区新宿5-31)03-356-1111
作詞・作曲・脚本:ジョナサン・ラーソン
随時お問い合わせを
随S席¥11,000、A席¥9,500、B席¥8,000
監チケットスペース0332349999

新宿コマ劇場
新宿区歌舞伎町1-19-1
03-3202-8111 JR新宿駅東口 5分

11/14(火)~12/17(日)
『WE WILL ROCK YOU』
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,500
監 劇団仲間0333684623

12/23(土)~1/5(金)
劇団仲間
『森は生きている』
原作:サムイル・マルシャーフ 演出:坂野彰
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,500
監 劇団仲間0333684623

タイニイ・アリス
新宿区新宿2-13-6 光麗ビル1F
03-3354-7387
地下鉄 新宿三丁目駅C8出口 2分

11/17(金)~11/19(日)
Alice Festival 2006 E.G.WORLD IV
『Remember The Anahyme〜』
作・演出:金堂修一 演出:出口恵子/鹿野浩明/ニーナ・8・ティグレ/他
随11/19(日)19:00
随全席自由¥2,500
監E.G.WORLD IV0333619758

全労済ホールスペース・ゼロ
渋谷区代々木2-12-10
03-3375-8741 JR新宿駅南口 5分
<http://www.spacezero.co.jp/>

11/9(木)~11/12(日)
G-Rockets That's G-Rockets 003
『ダイエツSHOW』
G-Rockets(山中陽子/半澤友美/岡田佐知子/関根あすか/藤原久美子/他)
随時お問い合わせを
随S席¥5,000、A席¥3,500
監 東京音協0332018116

新国立劇場
渋谷区本町1-1-1 03-5352-9999
京王新線初台駅1分

11/12(日)~11/19(日)
新国立劇場バレエ『白鳥の湖』
作曲:ピョートル・チャイコフスキー 振付:マリウス・プティパ/イワノフ 監修・演出:牧阿佐美 指揮:渡邊一正 出演:<11/12-15>スヴェトラナ・ザハロフ/アンドレイ・ウヴァーロフ <11/18>酒井はな/山本隆之 <11/19>寺島ひろみ/逸見智彦
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,000
監 グリンド09081068777

11/10(金)~11/12(日)
花組芝居OFFシアター 第3回公演
『相対的浮世絵』
原作:土田英生 演出:水下さよし 出演:桂妻一/北沢洋/高荷邦彦/山藤貴子(PM)/飛ぶ教室/井上啓子
随時お問い合わせを
随平子席¥3,600、棧敷席¥3,000
監 花組芝居0337099430

シアター・プラッツ
新宿区新宿1-34-16 清水ビルB1
03-3353-1868 丸の内線新宿御苑前駅5分

11/10(金)~11/12(日)
花組芝居OFFシアター 第3回公演
『相対的浮世絵』
原作:土田英生 演出:水下さよし 出演:桂妻一/北沢洋/高荷邦彦/山藤貴子(PM)/飛ぶ教室/井上啓子
随時お問い合わせを
随平子席¥3,600、棧敷席¥3,000
監 花組芝居0337099430

11/10(金)~11/12(日)
花組芝居OFFシアター 第3回公演
『相対的浮世絵』
原作:土田英生 演出:水下さよし 出演:桂妻一/北沢洋/高荷邦彦/山藤貴子(PM)/飛ぶ教室/井上啓子
随時お問い合わせを
随平子席¥3,600、棧敷席¥3,000
監 花組芝居0337099430

シアターサンモール
新宿区新宿1-19-10 B1
03-3352-5577 丸の内線 新宿御苑前駅大木戸側出口 5分

11/18(土)~11/23(木)
ハラホロジャングリラ『ピンク』
作・演出:中野俊成 出演:滝谷次郎/山本佳希いんげん/菊池洋/石黒聖美/他
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,000
監 ハラホロジャングリ0334705755

12/15(金)~12/24(日)
新国立劇場バレエ『シンデレラ』
作曲:セルゲイ・プロコフィエフ 振付:フレデリック・アシュトン 監督・演出:ウェンディ・エリス・サムズ 指揮:エマニュエル・プランソン 演奏:東京フィルハーモニー交響楽団

中 劇 場

11/24(金)~11/26(日)
七十二家房客
随時お問い合わせを
随VS¥6,000、AV¥5,000、BY¥4,500
監ソーゴ東京0334059999

12/15(金)~12/17(日)
新国立劇場コンテンポラリーダンスダンスシアターNo.14
『勅使川原三郎「ガラスノ牙」Glass Tooth』
振付・美術・照明・衣裳・音楽構成・出演:勅使川原三郎 衣裳・音楽構成・出演:宮田佳 出演:佐東利穂子/吉田梓/ヴァスラフ・クニエス/ナターシャ・ヴォトナ/ウルツイ・アラブル(NDT I)
随時お問い合わせを
随S席¥6,300、A席¥5,250、B席¥3,150
監 ボックスオフィス0353529999

11/29(水)~12/3(日)
ACファクトリー特別公演『URASHIMA』
作:高円坊 演出:小蔵延丈 出演:吉井怜/江口ヒロミ/若尾桂子/富田昌則/新上博己/他
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,500
監 ファーストコネクション株式会社0354594410

定期公演館以外

11/15(水)~11/19(日)
アル☆カンパニー『新型 開運ラジオ』
●SPACE 雑遊
作:平田俊子 演出:平田満 出演:井出みな子/黒木美奈子/井上加奈子
随時お問い合わせを
随全席指定¥3,000
監 トム・プロジェクト0353711153

11/16(木)~11/25(土)
ブロードウェイミュージカル『RENT』
●東京厚生年金会館 大ホール(新宿区新宿5-31)03-356-1111
作詞・作曲・脚本:ジョナサン・ラーソン
随時お問い合わせを
随S席¥11,000、A席¥9,500、B席¥8,000
監チケットスペース0332349999

新宿コマ劇場
新宿区歌舞伎町1-19-1
03-3202-8111 JR新宿駅東口 5分

11/14(火)~12/17(日)
『WE WILL ROCK YOU』
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,500
監 劇団仲間0333684623

12/23(土)~1/5(金)
劇団仲間
『森は生きている』
原作:サムイル・マルシャーフ 演出:坂野彰
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,500
監 劇団仲間0333684623

タイニイ・アリス
新宿区新宿2-13-6 光麗ビル1F
03-3354-7387
地下鉄 新宿三丁目駅C8出口 2分

11/17(金)~11/19(日)
Alice Festival 2006 E.G.WORLD IV
『Remember The Anahyme〜』
作・演出:金堂修一 演出:出口恵子/鹿野浩明/ニーナ・8・ティグレ/他
随11/19(日)19:00
随全席自由¥2,500
監E.G.WORLD IV0333619758

全労済ホールスペース・ゼロ
渋谷区代々木2-12-10
03-3375-8741 JR新宿駅南口 5分
<http://www.spacezero.co.jp/>

11/9(木)~11/12(日)
G-Rockets That's G-Rockets 003
『ダイエツSHOW』
G-Rockets(山中陽子/半澤友美/岡田佐知子/関根あすか/藤原久美子/他)
随時お問い合わせを
随S席¥5,000、A席¥3,500
監 東京音協0332018116

新国立劇場
渋谷区本町1-1-1 03-5352-9999
京王新線初台駅1分

11/12(日)~11/19(日)
新国立劇場バレエ『白鳥の湖』
作曲:ピョートル・チャイコフスキー 振付:マリウス・プティパ/イワノフ 監修・演出:牧阿佐美 指揮:渡邊一正 出演:<11/12-15>スヴェトラナ・ザハロフ/アンドレイ・ウヴァーロフ <11/18>酒井はな/山本隆之 <11/19>寺島ひろみ/逸見智彦
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,000
監 グリンド09081068777

11/10(金)~11/12(日)
花組芝居OFFシアター 第3回公演
『相対的浮世絵』
原作:土田英生 演出:水下さよし 出演:桂妻一/北沢洋/高荷邦彦/山藤貴子(PM)/飛ぶ教室/井上啓子
随時お問い合わせを
随平子席¥3,600、棧敷席¥3,000
監 花組芝居0337099430

シアター・プラッツ
新宿区新宿1-34-16 清水ビルB1
03-3353-1868 丸の内線新宿御苑前駅5分

11/10(金)~11/12(日)
花組芝居OFFシアター 第3回公演
『相対的浮世絵』
原作:土田英生 演出:水下さよし 出演:桂妻一/北沢洋/高荷邦彦/山藤貴子(PM)/飛ぶ教室/井上啓子
随時お問い合わせを
随平子席¥3,600、棧敷席¥3,000
監 花組芝居0337099430

11/10(金)~11/12(日)
花組芝居OFFシアター 第3回公演
『相対的浮世絵』
原作:土田英生 演出:水下さよし 出演:桂妻一/北沢洋/高荷邦彦/山藤貴子(PM)/飛ぶ教室/井上啓子
随時お問い合わせを
随平子席¥3,600、棧敷席¥3,000
監 花組芝居0337099430

シアターサンモール
新宿区新宿1-19-10 B1
03-3352-5577 丸の内線 新宿御苑前駅大木戸側出口 5分

11/18(土)~11/23(木)
ハラホロジャングリラ『ピンク』
作・演出:中野俊成 出演:滝谷次郎/山本佳希いんげん/菊池洋/石黒聖美/他
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,000
監 ハラホロジャングリ0334705755

12/15(金)~12/24(日)
新国立劇場バレエ『シンデレラ』
作曲:セルゲイ・プロコフィエフ 振付:フレデリック・アシュトン 監督・演出:ウェンディ・エリス・サムズ 指揮:エマニュエル・プランソン 演奏:東京フィルハーモニー交響楽団

中 劇 場

11/24(金)~11/26(日)
七十二家房客
随時お問い合わせを
随VS¥6,000、AV¥5,000、BY¥4,500
監ソーゴ東京0334059999

12/15(金)~12/17(日)
新国立劇場コンテンポラリーダンスダンスシアターNo.14
『勅使川原三郎「ガラスノ牙」Glass Tooth』
振付・美術・照明・衣裳・音楽構成・出演:勅使川原三郎 衣裳・音楽構成・出演:宮田佳 出演:佐東利穂子/吉田梓/ヴァスラフ・クニエス/ナターシャ・ヴォトナ/ウルツイ・アラブル(NDT I)
随時お問い合わせを
随S席¥6,300、A席¥5,250、B席¥3,150
監 ボックスオフィス0353529999

11/29(水)~12/3(日)
ACファクトリー特別公演『URASHIMA』
作:高円坊 演出:小蔵延丈 出演:吉井怜/江口ヒロミ/若尾桂子/富田昌則/新上博己/他
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,500
監 ファーストコネクション株式会社0354594410

定期公演館以外

11/15(水)~11/19(日)
アル☆カンパニー『新型 開運ラジオ』
●SPACE 雑遊
作:平田俊子 演出:平田満 出演:井出みな子/黒木美奈子/井上加奈子
随時お問い合わせを
随全席指定¥3,000
監 トム・プロジェクト0353711153

11/16(木)~11/25(土)
ブロードウェイミュージカル『RENT』
●東京厚生年金会館 大ホール(新宿区新宿5-31)03-356-1111
作詞・作曲・脚本:ジョナサン・ラーソン
随時お問い合わせを
随S席¥11,000、A席¥9,500、B席¥8,000
監チケットスペース0332349999

新宿コマ劇場
新宿区歌舞伎町1-19-1
03-3202-8111 JR新宿駅東口 5分

11/14(火)~12/17(日)
『WE WILL ROCK YOU』
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,500
監 劇団仲間0333684623

12/23(土)~1/5(金)
劇団仲間
『森は生きている』
原作:サムイル・マルシャーフ 演出:坂野彰
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,500
監 劇団仲間0333684623

タイニイ・アリス
新宿区新宿2-13-6 光麗ビル1F
03-3354-7387
地下鉄 新宿三丁目駅C8出口 2分

11/17(金)~11/19(日)
Alice Festival 2006 E.G.WORLD IV
『Remember The Anahyme〜』
作・演出:金堂修一 演出:出口恵子/鹿野浩明/ニーナ・8・ティグレ/他
随11/19(日)19:00
随全席自由¥2,500
監E.G.WORLD IV0333619758

全労済ホールスペース・ゼロ
渋谷区代々木2-12-10
03-3375-8741 JR新宿駅南口 5分
<http://www.spacezero.co.jp/>

11/9(木)~11/12(日)
G-Rockets That's G-Rockets 003
『ダイエツSHOW』
G-Rockets(山中陽子/半澤友美/岡田佐知子/関根あすか/藤原久美子/他)
随時お問い合わせを
随S席¥5,000、A席¥3,500
監 東京音協0332018116

新国立劇場
渋谷区本町1-1-1 03-5352-9999
京王新線初台駅1分

11/12(日)~11/19(日)
新国立劇場バレエ『白鳥の湖』
作曲:ピョートル・チャイコフスキー 振付:マリウス・プティパ/イワノフ 監修・演出:牧阿佐美 指揮:渡邊一正 出演:<11/12-15>スヴェトラナ・ザハロフ/アンドレイ・ウヴァーロフ <11/18>酒井はな/山本隆之 <11/19>寺島ひろみ/逸見智彦
随時お問い合わせを
随全席指定¥4,000
監 グリンド09081068777

11/10(金)~11/12(日)
花組芝居OFFシアター 第3回公演
『相対的浮世絵』
原作:土田英生 演出:水下さよし 出演:桂妻一/北沢洋/高荷邦彦/山藤貴子(PM)/飛ぶ教室/井上啓子
随時お問い合わせを
随平子席¥3,600、棧敷席¥3,000
監 花組芝居0337099430

シアター・プラッツ
新宿区新宿1-34-16 清水ビルB1
03-3353-1868 丸の内線新宿御苑前駅5分

11/10(金)~11/12(日)
花組芝居OFFシアター 第3回公演
『相対的浮世絵』
原作:土田英生 演出:水

演劇ぶっく社の本

演劇ぶっく社
楽天ショップにて好評発売中！

俳優になる06-07



定価1,260円

“俳優”は数多いけれど、彼らがなぜ俳優を志したのか、俳優になるためにどういう行動を起こしたのか。今、ここに至るまでの、短かったり長かったりするその道のり。そこには、ありとあらゆることについて、多くのヒントが詰まっている。大倉孝二(ナイロン100℃)、音尾琢真(Team NACS)、片桐仁など多くの俳優のインタビューから、彼らが歩いた、“道”が見えてくる。

映画監督になる06-07



定価1,260円

こうすれば映画監督になれる！ こうすれば、って、どうすれば？ 三木聡監督、山崎貴監督、石井亮人監督をはじめ、12人の詳しくsouな人たちに訊いてみました。また、デビューの秘訣を探る新人監督へのインタビューや、映画祭や映画会社情報なども掲載。あらゆる角度から「映画監督になる」人をバックアップしています！

河原官九郎



定価1,785円

宮藤官九郎
河原雅彦 著

98年9月号から、演劇ぶっくに連載された「クドカン・まちゃびこ」シリーズ。丸三年にわたる二人の軌跡を完全収録＋撮り下ろし写真、ロングインタビューなど盛りだくさんの一冊。

あわボンDX



定価15,75円

栗根まこと 著

『演劇ぶっく』の長寿人気連載・栗根まことの「人物ウォッチング」に本人からのコメント&プロフィールも収録！ 前作の「あわボン」より1.5倍のボリュームになって復刻しました。

えんぶコラム×アーカイブ



定価1,050円

ヤママラアニメーション図鑑 改訂版
 定価1,575円

成井豊のワークショップ
 ―感情解放のためのレッスン―

成井 豊 著
 定価2,100円

ヴォイステクニックの真実
加瀬玲子 著
 定価1,575円

gikyoku-workshop
平田オリザ・山岡徳貴子 著
 定価1,475円

Dramatorix'91 エンゲキ新種族の逆襲
 定価1,000円

お問い合わせ／
 演劇ぶっく社:03-5367-0728

<http://www.rakuten.co.jp/enbu/>

092-586-4000 西鉄大牟田線春日原駅7分/JR鹿児島本線大野城駅15分
 脚本・作詞・作曲:マイケル・ロバート
 ツ 日本語版台本・演出:福島三郎
 出演:川平慈英/高橋由美子/池田成志/堀内敬子/相島一之
 随 11/23(木)14:00
 随 全席指定¥7,000
 随 ビクニック0927150374

11/24(金)
 『チック、チック…ブーン!』
 ●メルパルクホールFUKUOKA(中央区薬院4-14-52)
 092-525-0771
 作詞・作曲:脚本:ジョナサン・ラーソン 出演:山本耕史/愛内里菜/ゲイリー・アドキンス
 随 11/24(金)19:00
 随 S席¥7,500、A席¥6,500、B席¥5,000
 随 ビクニック0927150374

11/28(火)～11/29(水)
On Golden Pond
 『黄昏』
 ●メルパルクホールFUKUOKA(中央区薬院4-14-52)
 092-525-0771
 八千草薫/賀来千香子/中村友也/飯田邦博/三浦浩一/長塚京三
 随 お問い合わせを
 随 S指定席¥8,500、A指定席¥6,500、てれビー席¥3,000
 随 福岡スポーツセンター イベント事業局0927411661

11/30(木)
WAHAHA本舗版ザッツ・エンターテインメント
 『踊るショービジネス2 ダンス王』
 ●大分chikoグランシアター(大分市高砂町2-33)097-533-4000
 随 11/30(木)19:00
 随 S席¥7,800、A券¥6,800
 随 キョードー西日本0927140159

12/2(土)
WAHAHA本舗版ザッツ・エンターテインメント
 『踊るショービジネス2 ダンス王』
 ●福岡サン・レス(博多区築港本町2-1)092-272-1123
 随 12/2(土)18:00
 随 S席¥7,800、A券¥6,800
 随 キョードー西日本0927140159

12/8(金)～12/31(日)
劇団四季
 『アイダ』
 ●福岡シティ劇場 劇団四季九州公演本部 092-271-1199
 随 お問い合わせを
 随 S1¥11,550、S2¥11,550、A1¥9,450、A2¥9,450、B¥6,300、C¥3,150
 随 劇団四季福岡公演本部 0922711199

12/9(土)～12/10(日)
WAHAHA本舗版ザッツ・エンターテインメント
 『踊るショービジネス2 ダンス王』
 ●沖縄県民会館
 随 お問い合わせを
 随 S席¥6,500、A席¥5,500
 随 キョードー西日本0927140159

1/1(月)～1/8(月)
劇団四季
 『アイダ』
 ●福岡シティ劇場 劇団四季九州公演本部 092-271-1199
 随 お問い合わせを
 随 S1¥11,550、S2¥11,550、A1¥9,450、A2¥9,450、B¥6,300、C¥3,150
 随 劇団四季福岡公演本部 0922711199

11/23(木)
ゴルフ・ザ・ミュージカル
 『GOLF”ゴルフなんて大嫌い!”』
 ●大野城まどかびあ大ホール(福岡県大野城市曙町2-3-1)

九州 四国

北九州芸術劇場

北九州市小倉北区室町1-1-11
 093-562-2620 小倉駅徒歩10分、西小倉駅徒歩3分

大ホール

11/18(土)～11/19(日)
 『奇跡の人』
 作:ウィリアム・ギブソン 演出:鈴木裕美 出演:石原さとみ/田畑智子/他
 随 お問い合わせを
 随 S席¥8,500、A席¥7,000
 随 TSSイベント事務局0822531010

西鉄ホール

福岡県福岡市中央区天神2-11-3
 092-734-1362
 11/22(火)～11/26(日)
ギンギラ太陽's
 『大ギンギラ博覧会2006 ～いつも心に太陽'sを!』
 随 お問い合わせを
 随 全席指定¥3,500
 随 西鉄ホール0927341470

ももちパレス

福岡市早良区百道2-3-15
 092-724-5511
 12/20(水)
阿佐ヶ谷スパイダース
 『イヌの日』
 作・演出:出演:長塚圭史 出演内:田滋/駒持たまき/八嶋智人/大堀こういち/村岡希美/他
 随 12/20(水)19:00
 随 全席指定¥6,000
 随 ビクニック0927150374

定期公演館以外

11/9(木)～11/24(金)
劇団四季
 『アイダ』
 ●福岡シティ劇場 劇団四季九州公演本部 092-271-1199
 随 お問い合わせを
 随 S1¥10,500、S2¥10,500、A1¥8,400、A2¥8,400、B¥5,250、C¥2,100
 随 劇団四季福岡公演本部 0922711199

11/7(金)～11/19(日)
宝塚歌劇 花組
 『うたかたの恋』
 『エンター・ザ・レビュー』
 ●福岡市民会館 大ホール大ホール(福岡市天神5-1-23)
 092-761-6567 地下鉄天神駅
 <うたかたの恋>原作:クロード・アネ 脚本・演出:柴田佑宏 演出:植田恵子 <エンター・ザ・レビュー>作・演出:酒井澄夫 出演:春野寿美礼/板乃彩音/他
 随 お問い合わせを
 随 全席指定¥6,500
 随 福岡スポーツセンター 0927411661

11/20(月)
中村勘太郎 中村七之助 錦秋特別公演
 ●メルパルクホールFUKUOKA(中央区薬院4-14-52)
 092-525-0771
 出演:中村勘太郎/中村七之助/中村小山三/中村勘之丞/中村山左衛門/他
 随 お問い合わせを
 随 S席¥6,800、A席¥5,500
 随 西日本新聞社 企画事業部 0927115550

11/23(木)
ゴルフ・ザ・ミュージカル
 『GOLF”ゴルフなんて大嫌い!”』
 ●大野城まどかびあ大ホール(福岡県大野城市曙町2-3-1)

定期公演館以外

千種区池下町2-63)052-761-4181
 地下鉄池下駅1分
 作:ハーヴェイ・ファイアスティン 演出・上演台本:鈴木勝彦 出演:篠井英介/橋本さとし/長谷川博己/奥貫薫/黒田勇樹/他
 随 12/14(木)19:00
 随 S席¥7,500、A席¥6,500
 随 キョードー東海0529727466

12/28(木)
竹中直人の匙かげん2
 『そら。』
 ●グランシップ中ホール・大地作・倉本美津留 演出・出演:竹中直人 美術:エドツワキ 出演:井田/金子さやか/坂本美雨/後藤果晴/井口昇/他
 随 12/28(木)19:00
 随 全席指定¥6,800
 随 テレビ静岡事業部0542617011

信越 北陸

定期公演館以外

11/15(水)
 『チック、チック…ブーン!』
 ●新潟市民芸術文化会館・劇場 025-224-5521
 作詞・作曲:脚本:ジョナサン・ラーソン 出演:山本耕史/愛内里菜/ゲイリー・アドキンス
 随 S指定席¥7,800、A指定席¥6,800
 随 キャンディープロモーション広島0822498334

11/24(金)
WAHAHA本舗版ザッツ・エンターテインメント
 『踊るショービジネス2 ダンス王』
 ●松山市民会館大ホール(松山市)089-993-4526
 構成・演出:喰 始 出演:佐藤正宏/柴田理恵/久本雅美/梅垣義明/すずまき/なんきん/カスカジャン/他
 随 11/24(金)18:30
 随 S席¥7,800、A席¥6,800
 随 デューカ松山0899473535

11/30(木)～12/1(金)
宝塚歌劇 花組
 『うたかたの恋』
 『エンター・ザ・レビュー』
 ●広島郵便貯金ホール(広島県) <うたかたの恋>原作:クロード・アネ 脚本・演出:柴田佑宏 演出:植田景子 <エンター・ザ・レビュー>作・演出:酒井澄夫 出演:春野寿美礼/板乃彩音/他
 随 お問い合わせを
 随 全席指定¥7,800
 随 ウェルパフォーミングアーツマネージメント0227711432

11/29(水)
ゴルフ・ザ・ミュージカル
 『GOLF”ゴルフなんて大嫌い!”』
 ●新潟市民芸術文化会館・劇場 025-224-5521
 脚本・作詞・作曲:マイケル・ロバート ツ 日本語版台本・演出:福島三郎 出演:川平慈英/高橋由美子/池田成志/堀内敬子/相島一之
 随 11/29(水)19:00
 随 全席指定¥8,000
 随 キョードー北陸チケットセンタ―025455100

12/16(土)～12/17(日)
阿佐ヶ谷スパイダース
 『イヌの日』
 ●新潟市民芸術文化会館・劇場 025-224-5521
 作・演出:長塚圭史
 随 お問い合わせを
 随 全席指定¥5,500
 随 リューとびあチケット専用ダイヤル0252245521

12/12(火)
阿佐ヶ谷スパイダース
 『イヌの日』
 ●名鉄ホール(名古屋市中村区名駅1-2-1)052-585-7811 名鉄名古屋駅すぐ名鉄百貨店10F
 作・演出:出演:長塚圭史 出演:八嶋智人/大谷亮介/美保純/駒持たまき/内田滋/他
 随 12/12(火)19:00
 随 全席指定¥6,500
 随 東海テレビ文化事業部 0252941161

12/23(土)～12/24(日)
阿佐ヶ谷スパイダース
 『イヌの日』
 ●広島アステールプラザ中ホール中ホール 紙屋町経由芋品行電車役所前下車8分
 作・演出:出演:長塚圭史 出演内:田滋/駒持たまき/八嶋智人/大堀こういち/村岡希美/他
 随 お問い合わせを
 随 全席指定¥5,800
 随 TSS事業部0822562213

12/14(木)
 『トーチンソング・トリロジー』
 ●愛知厚生年金会館(名古屋市

ターホール 022-276-2110
 出演:吹越満
 12/6(水)19:00
 随 全席指定¥5,500
 随 仙台放送0222682174

11/27(月)
演劇倶楽部」座」
 読み芝居『鶴八鶴次郎』
 ●吹田市文化会館メシヤター 06-6380-2221
 ●愛知厚生年金会館(名古屋市千種区池下町2-63)052-761-4181
 地下鉄池下駅1分
 脚本・作詞・作曲:マイケル・ロバート ツ 日本語版台本・演出:福島三郎 出演:川平慈英/高橋由美子/池田成志/堀内敬子/相島一之
 随 11/13(月)18:30
 随 S席¥8,000、A席¥7,000
 随 キョードー東海0529727466

定期公演館以外

11/13(月)
ゴルフ・ザ・ミュージカル
 『GOLF”ゴルフなんて大嫌い!”』
 ●神戸文化ホール大ホール(神戸市中央区楠町4-2-2)
 078-351-3535 地下鉄大倉山駅3分・神戸高速高速神戸戸駅8分・JR神戸駅10分
 随 12/15(金)18:30
 随 S席¥5,500、A席¥5,000
 随 MIN―ON神戸0782517447

12/15(金)
日本舞踊アカデミーASUKA
 『竹取物語』
 ●神戸文化ホール大ホール(神戸市中央区楠町4-2-2)
 078-351-3535 地下鉄大倉山駅3分・神戸高速高速神戸戸駅8分・JR神戸駅10分
 随 12/15(金)18:30
 随 S席¥5,500、A席¥5,000
 随 MIN―ON神戸0782517447

11/17(金)～11/19(日)
ブロードウェイ・ミュージカル
 『ベネチア師と詐欺師』
 ●愛知厚生年金会館(名古屋市千種区池下町2-63)052-761-4181
 地下鉄池下駅1分
 脚本:ジェフリー・レーン 演出:宮田慶子 出演:遊賀文史/市村正親/奥菜恵/愛華みれ/高田聖子/他
 随 お問い合わせを
 随 S席¥12,000、A席¥9,000
 随 キョードー東海0529727466

11/17(金)
松竹 坂東玉三郎 特別舞踊公演
 ●アブラザ豊橋(豊橋労働福祉会館)(豊橋市草間町字東山143-6)0532-46-7181 豊鉄渥美線南栄駅8分
 随 11/17(金)14:00
 随 S席¥15,000、A席¥13,000
 随 (株)中京テレビ事業0529573333

11/16(木)～11/17(金)
On Golden Pond by Ernest Thompson
 『黄昏』
 ●新潟市民芸術文化会館・劇場 025-224-5521
 原作:アーネスト・トンプソン 共同演出:高瀬久男/板垣恭一 音楽:溝口肇 出演:八千草薫/長塚京三/賀来千香子/三浦浩一/中村友也/他
 随 お問い合わせを
 随 全席指定¥7,800
 随 ウェルパフォーミングアーツマネージメント0227711432

11/28(火)～11/29(水)
ブロードウェイミュージカル
 『RENT』
 ●愛知県勤労会館(名古屋市長和区鶴舞1-2-32)052-733-1141
 地下鉄鶴舞線鶴舞駅5番出口より南へ5分
 作詞・作曲:脚本:ジョナサン・ラーソン
 随 お問い合わせを
 随 S席¥12,000、A席¥9,000、B席¥6,000
 随 (株)中京テレビ事業0529573333

11/29(水)・11/30(木)
 『Love 30 ～女と男と物語～』
 ●名古屋市民会館中ホール中ホール(名古屋市中区金山1-51)052-331-2141 金山総合駅地下通路3分
 演出:宮田慶子 作:サタケミキオ/三島ゆき/蓮葉竜太(五十音順) 出演:水野美紀&山寺宏一/真中瞳&片桐仁/YOUI&生瀬勝久
 随 お問い合わせを
 随 全席指定¥7,350
 随 名古屋テレビ エンタータイムス事業部0523319966

11/29(水)・11/30(木)
 『Love 30 ～女と男と物語～』
 ●名古屋市民会館中ホール中ホール(名古屋市中区金山1-51)052-331-2141 金山総合駅地下通路3分
 演出:宮田慶子 作:サタケミキオ/三島ゆき/蓮葉竜太(五十音順) 出演:水野美紀&山寺宏一/真中瞳&片桐仁/YOUI&生瀬勝久
 随 お問い合わせを
 随 全席指定¥7,350
 随 名古屋テレビ エンタータイムス事業部0523319966

12/12(火)
阿佐ヶ谷スパイダース
 『イヌの日』
 ●仙台市青年文化センターシアターホール(仙台市青葉区旭が丘3-27-5)022-276-2110 地下鉄旭が丘駅1分
 作・演出:出演:長塚圭史 出演内:田滋/駒持たまき/八嶋智人/大堀こういち/村岡希美/他
 随 お問い合わせを
 随 全席指定¥5,800
 随 仙台放送0222682174

11/30(木)～12/1(金)
阿佐ヶ谷スパイダース
 『イヌの日』
 ●仙台市青年文化センターシアターホール(仙台市青葉区旭が丘3-27-5)022-276-2110 地下鉄旭が丘駅1分
 作・演出:出演:長塚圭史 出演内:田滋/駒持たまき/八嶋智人/大堀こういち/村岡希美/他
 随 お問い合わせを
 随 全席指定¥5,800
 随 仙台放送0222682174

12/6(水)
フキコシ・ソロ・アクト・ライブ
 『XVIII』
 ●仙台市青年文化センターシア

『<華・艶・舞>誠版レビュー』
 ●泉の森ホール大ホール(泉佐野市市場東1-295-1)
 0724-69-7101 南海本線泉佐野駅15分、JR阪和線日根野駅20分
 出演(予定):成世昌平/五十嵐めぐみ/なべおさみ/丹羽直仁/松井紀美江/他 <誠版レビュー>構成・演出:三鈴/他
 随 11/23(木)14:00
 随 お問い合わせを
 随 泉の森ホール0724697100

11/27(月)
演劇倶楽部」座」
 読み芝居『鶴八鶴次郎』
 ●吹田市文化会館メシヤター 06-6380-2221
 ●愛知厚生年金会館(名古屋市千種区池下町2-63)052-761-4181
 地下鉄池下駅1分
 脚本・作詞・作曲:マイケル・ロバート ツ 日本語版台本・演出:福島三郎 出演:川平慈英/高橋由美子/池田成志/堀内敬子/相島一之
 随 11/13(月)18:30
 随 S席¥8,000、A席¥5,500
 随 キョードーチケットセンター0662338888

12/15(金)
日本舞踊アカデミーASUKA
 『竹取物語』
 ●神戸文化ホール大ホール(神戸市中央区楠町4-2-2)
 078-351-3535 地下鉄大倉山駅3分・神戸高速高速神戸戸駅8分・JR神戸駅10分
 随 12/15(金)18:30
 随 S席¥5,500、A席¥5,000
 随 MIN―ON神戸0782517447

12/17(日)
さざ★クリスマス狂言会
 『シテやったり太郎冠者』
 ●滋賀・栗東芸術文化会館さくら(滋賀県栗太郡栗東町穂2-1-28)
 077-551-1455 JR琵琶湖線栗東駅東口より400m
 随 12/17(日)14:30
 随 S席¥3,800
 随 0775511455

11/17(金)
松竹 坂東玉三郎 特別舞踊公演
 ●アブラザ豊橋(豊橋労働福祉会館)(豊橋市草間町字東山143-6)0532-46-7181 豊鉄渥美線南栄駅8分
 随 11/17(金)14:00
 随 S席¥15,000、A席¥13,000
 随 (株)中京テレビ事業0529573333

11/28(火)～11/29(水)
ブロードウェイミュージカル
 『RENT』
 ●愛知県勤労会館(名古屋市長和区鶴舞1-2-32)052-733-1141
 地下鉄鶴舞線鶴舞駅5番出口より南へ5分
 作詞・作曲:脚本:ジョナサン・ラーソン
 随 お問い合わせを
 随 S席¥12,000、A席¥9,000、B席¥6,000
 随 (株)中京テレビ事業0529573333

定期公演館以外

11/13(月)
 『チック、チック…ブーン!』
 ●電力ホール
 作詞・作曲:脚本:ジョナサン・ラーソン 出演:山本耕史/愛内里菜/ゲイリー・アドキンス
 随 11/13(月)19:00
 随 指指定¥7,000
 随 ウェルパフォーミングアーツマネージメント0227711432

11/25(土)
萬狂言
 『米沢公演～八世野村万蔵 三回忌追善～』
 ●伝国の杜置賜文化ホール
 随 11/25(土)14:00
 随 全席指定(一般)¥6,000、全席指定(学生)¥3,000
 随 萬狂言事務局0353631305

11/30(木)～12/1(金)
阿佐ヶ谷スパイダース
 『イヌの日』
 ●仙台市青年文化センターシアターホール(仙台市青葉区旭が丘3-27-5)022-276-2110 地下鉄旭が丘駅1分
 作・演出:出演:長塚圭史 出演内:田滋/駒持たまき/八嶋智人/大堀こういち/村岡希美/他
 随 お問い合わせを
 随 全席指定¥5,800
 随 仙台放送0222682174

11/21(火)
劇団四季ファミリーミュージカル
 『ジョン万次郎の夢』
 ●岸和田市立 浪切ホール 大ホール 0724-39-4866
 出演:松本幸四郎/中村信二郎/市川高麗蔵/坂東亀三郎/坂東亀寿/他
 随 11/19(日)14:00
 随 S席¥8,000、A席¥6,000、3階席¥3,500
 随 浪切ホールチケットカウンタ―0724394915

11/21(火)
劇団四季ファミリーミュージカル
 『ジョン万次郎の夢』
 ●岸和田市立 浪切ホール 大ホール 0724-39-4866
 出演:松本幸四郎/中村信二郎/市川高麗蔵/坂東亀三郎/坂東亀寿/他
 随 11/19(日)14:00
 随 S席¥8,000、A席¥6,000、3階席¥3,500
 随 浪切ホールチケットカウンタ―0724394915

11/23(木)
松井誠 奮闘公演
 お芝居『酔い覚め勘太』

1/5(金)～1/8(月)
 『ブラックリン・ボーイ』
 ●兵庫県立芸術文化センター中ホール中ホール(兵庫県西宮市高松町2-22)0798-68-0223
 作:ドナルド・マーズ・グリース 演出:グレッグ・テール 出演:浅野和之/今拓哉/石田圭祐/阿知波悟美/神野三鈴/他
 随 お問い合わせを
 随 A席¥4,500、B席¥3,500
 随 芸術文化センターチケットオフィス0798680255

11/15(木)
中村勘太郎 中村七之助 錦秋特別公演
 ●神戸国際会館 ハーバーランド プラザ(神戸市中央区東川崎町1-7-1

レミゼラブル

～ヴィクトル・ユーゴー「レ・ミゼラブル」より～

脚本・演出 ブルースカイ

出演(50音順)

新井友香 池谷のぶえ
市川訓睦 いとうせいこう
大堀こういち 加藤啓
加藤直美 小村裕次郎 高木珠里
辻修 猫ひろし 野間口徹
原金太郎 廣川三憲 吉本菜穂子
オーディションで選ばれた方々

たった1枚のスクール水着を盗んだために、
悲劇の主人公ジャン・バルジャンは19年間監獄に入れられた。
出所後も「変態」のレッテルを貼られつづけ、
世の中は彼に仕事も、住むアパートも与えない。
自分の運命を呪い、そして世界を憎むジャン・バルジャン。
そんな彼を受け容れてくれた、ただひとつの町(レ・歌舞伎町)。
表の社会では生きていけない訳ありの者たちが暮らすその町に恩返しするため、
ジャンは立ち上がるのだった。
ヴィクトル・ユーゴーの名作「レ・ミゼラブル」を、豪華な出演者たちが、
ただの一度も経験したことないオペレッタによって、壮大なナンセンス傑作として蘇らせました!

演劇キックプロデュース

演劇ぶっく社
設立20周年
記念公演
4月開催!!

雑誌『演劇ぶっく』を発行する演劇ぶっく社は2006年に設立20周年をむかえ、
記念公演として、2007年4月新宿シアターアプルにて
オペレッタ演劇公演『フェスティバル』を開催!
脚本・演出には、独特の演劇表現で人気のブルースカイ氏、江本純子氏をむかえ、
世界の名作を過激かつ刺激的に、壮大なオペレッタとして蘇らせました!
そして今回、豪華キャスト陣と一緒に舞台に出演していただく方々を募集します。
くわしくは68ページをご覧ください!

※オペレッタ…19世紀中頃にパリで生まれヨーロッパ全般に広まった、台詞と踊りを含む陽気な風刺的なオペラ。
喜劇、喜歌劇、オペレッタはミュージカルの元祖と言われ、格調高いオペラとくらべ、一般的に親しみやすい歌劇である。

出演

江本純子 町田マリー
柿丸美智恵 羽鳥名美子
和倉義樹 高野ゆらこ 他
ゲスト俳優
オーディションで選ばれた方々

神から与えられた「運命」に反して結ばれた、
バイオリン奏者のオルフェと美しい少女ユリディース。
夫婦となった二人の生活に幸福は訪れず、夫婦喧嘩の絶えない毎日だ。
ある日、ユリディースの「本当の恋人」と名乗る地獄の王・ブルートが
羊飼いの姿に化けて現世に登場し、ユリディースを地獄へと誘拐する…
人間が生まれてから与えられている正義や理論に疑いを投げかける、江本純子版「天国と地獄」!
神話性に富んだ代表的なギリシャ悲劇を快活な音楽と
機智に溢れた社会風刺でパロディ化したオフペンバック版「天国と地獄」。
それを更に、現代版として甦らせる毛皮族の狂騒オペレッタ!!
いつの時代の人間達も治癒されることなく抱えてしまっている普遍的な悲しい「病」とは!!

脚本・演出 江本純子(毛皮族)

天国と地獄

～オフペンバック「天国と地獄」より～

企画・製作・お問い合わせ

演劇ぶっく社「演劇キック」
〒162-0065 新宿区住吉町1-12新宿曙橋ビル7F
TEL:03-5366-7587 e-mail:kick@enbu.co.jp

公式HP <http://www.enbu.co.jp/kick/>

演劇キック next wave 演劇計画 とは?

演劇ぶっく社が2005年に立ち上げた演劇企画製作チームです。いろいろな演劇人の皆さんと共に、様々なかたちでの企画公演を行い、演劇を活性化していくプロジェクトです。

mobile site by演劇モバイル

「レミゼラブル」「天国と地獄」の公演情報やオーディション情報がモバイルでも見られます。
①下記のアドレスに、空メールを送ると、すぐにURLが届きます。
kick@mail.cave.co.jp
②または右のQRコードから→



※ドメイン指定受信している方は、[@mail.cave.co.jp]を受信可能にしてください。

フロム・ハーダース

◆毎号、誰が表紙を飾っているのか楽しみなのですが、今回は腰抜けちゃいました。ついに橋本じゅんさん(と中村獅童さん)の登場!! やったー!! うれしい!!—けど、毛穴が見える程の大アップ……。ちょっとテレながら読み始めた私でした……。 (福島県 OL にやり)

◆今回は橋本じゅんさんが表紙ということで、これは絶対に買わねば!! と本屋へ直行しました。なかなか表紙にはならない方なので、本当に嬉しかったです。ありがとうございます。インタビューも面白くて、お二人の熱い演劇魂がすごく感じられました。

(栃木県 会社員 misato)

◇じゅんさん、獅童さんのドアップの表紙にはたくさんの反響をいただきました。今号の表紙は、ちょっと凝ってますので、よくご覧くださいね。

◆「雨と夢のあとに」の見開きの舞台写真、イイですね。本屋さんでパラパラとめくった時

に目に飛び込んできて、芝居を観た感動がぶわわと蘇ってきました。雨ちゃんに対する愛情溢れる舞台だったのですが、それは稽古中からそうだったんですね。岡田達也さんのインタビュー(特にお寿司の話)を読んで納得です。キャラメル初参加の橋本さんともとても良かったです。この夏最高の舞台でした。

(栃木県 会社員 トモミ)

◇「雨と夢のあとに」は、日頃芝居を観過ぎてる編集部員たちも素直に感動できた舞台でした。アットホームな雰囲気、いいですね。

◆「開放弦」のキャストによる対談、本当に嬉しかったです!! あのお芝居は観終わってから、口もきけなくなるくらい感動しました。余韻がずっと後から押し寄せてきて、私は沖縄から福岡公演を観に行ったんですが、ホテルに戻って一息ついた後、涙が溢れて止まりませんでした……。本誌に載っている舞台写真も嬉しいです。一度しか観劇できなかったのが、舞台セットや細かい場面を見てよかった。ありがとうございます

ざいます。(沖縄県 学生 みみずく)
◇「開放弦」はラストシーンが印象的で、余韻が残りました。いろいろな表情を見せる水野美紀さんも素敵でしたね。

◆「OUR HOUSE」を計19回観ました。中川君の熱唱部分が少なく、残念に思っていました。が、回数を重ねるごとに舞台構成、マッドネスの音楽、良いジョー悪いジョーを演じるアッキー、とりまく家族に仲間……楽しいミュージカルから目が離せなくなりました。

(京都府 会社員 京都Y)

◇16歳の役を演じた中川さん、とてもフレッシュでした。それにしても19回もご覧になられたとは……恐れ入りました。

◆猫のホテル「電界」のレボ、1ページ目の中村さんと松重さんの舞台写真にズキューン! とハートを奪われてしまいました……。格好良い〜! (富山県 会社員 Q)
◇弊誌編集長も大ファンの猫ホテル。本多劇場

初進出ながら、変わらぬ「バカ衰しさ」を見せてくれました。

◆転球劇場の大ファンで、さよなら公演「3バカ」を観終えても今だ信じられない感じです。記事を読んで泣きそうになりました。「3バカ」最終日にティッシュの花を作った張本人なので……。なにか3人に伝えたいという思いで勝手にしたことなのですが、ファンの方がみんな快く受け入れてくださり、とってもキレイでした。でももしかしたら3人はこういうことを望んでいないんじゃないか、とも思っていたので、転球さんのインタビューを読んでつかえていたものが取れた感じがしました。

(大阪府 会社員 FUTAH)

◇ファンの方の温かい気持ち、ちゃんと転球さんに届いていたんですね。こういうおハガキをいただける編集者も嬉しいです。ありがとうございます。次回は皆様からのおハガキお待ちしています。どうぞご応募ください。

プレゼント 広場!!

巻末のアンケートハガキに、希望するプレゼントをお書きの上お申し込みください。応募者多数の場合は抽選になります。発表は発送をもってかえさせていただきます。締切は11月30日消印有効。もしご応募ください!!

畑中智行サインボラ/2名
素の表情がとても凛々しい人という印象があります。11月からクリスマスまでの約2ヶ月間、スリの少年「小林ラヂオ」役に挑む畑中智行は、今度はどんな表情を見せてくれるのでしょうか? サイン入りボラを2名に。

塚本晋也サインボラ/2名
加瀬亮サインボラ/2名
実はお2人とも演劇に縁があるそうなんです(詳しくはP.66~P.67を参照)。そして、なんとインタビュー中に弊誌編集長が20年前に塚本監督演出の舞台を生で観ていたことが判明! インタビュー現場には懐かしい当時の話がいくつも飛び出しました。そんな雰囲気撮影されたサイン入りボラをそれぞれ2名に。

ヨーロッパ企画
サイン入りアンオフィシャルパンフレット「ヨロツバ通信 創刊号」/1名
この説明だけ読むと「!?」なこのパンフ。つまり、公演の内容には触れないが公演にひっかけて色んな企画で遊んでみよう! というもの。開演前に読んで一切ネタバレなし! ある意味これは画期的なことです。しかも本編も2倍楽しめる(かも)。インタビューにご登場頂いた6名のサインを入れて1名に。

「噂の男」
サイン入りパンフ/1名
笑わせながらも最後にはぞくぞくさせた橋本じゅん。陰謀と裏やかさを演じた橋本さん。衝撃的な場面もさりごとくこなした堪。一癖も二癖もある男をハマッパに演じた3人のサイン入りパンフを1名に。

OFFICIAL HOME PAGE
<http://www.enbu.co.jp>

次号2月号は1月9日発売
演劇ぶっく 第23巻 第6号 通巻124号
2006年11月9日発売
定価750円(本体価格714円)
編集人 坂口真人
発行人 市橋浩治
発行 有明社演劇ぶっく社
〒162-0065
新宿区住吉町1番12号 新宿曙橋ビル7F
TEL:03-5367-0729
FAX:03-5367-0756
E-mail:info@enbu.co.jp
印刷 株式会社マルス

岡田義徳×高橋一生サインボラ/2名
現実逃避してマジックの練習に励む兄と、家族に反発し、苛たしている弟。「渾身電球」の2人は、交わす言葉は少なくとも、いたわり合うように寄り添っていた。舞台を降りたときも仲良しの2人のツーショットボラにサインを入れて2名に。

岩崎大 サインボラ/1名
まるでお祭りみたいな盛り上がりを見た劇団Studio Lifeの「夏の夜の夢」。ハーミア役を、その長身とキレのある動きでダイナミックに演じた岩崎大のサイン入りボラを1名に。

宝塚歌劇団花組「ファントム」
サイン入りパンフ/1名
パリのオペラ座を舞台に、仮面を被りながらも生きていかなければならぬファントムと、彼をめぐる人々との愛と葛藤を描いた「ファントム」ファントムに対峙するフィリップ・ブドラン・伯爵を演じた真飛聖のサイン入りパンフを1名に。

NYLON 1000 29TH SESSION NICE AGE

作・演出: ケラリーノ・サンドロヴィッチ

出演: 峯村リエ 大倉孝二/みのすけ 松永玲子 長田奈麻 新谷真弓/安澤千草 廣川三憲
藤田秀世 喜安浩平 大山鎬則 古増裕士 杉山 薫 植木夏十 皆戸麻衣 柚木幹斗
佐藤 誓/志賀廣太郎 原金太郎 坂田 聡 池谷のぶえ 加藤 啓/立石涼子

2006年12月9日(土)~12月24日(日) 世田谷パブリックシアター

前売発売中

料金: 前売 S席 6,200円 A席 4,200円 (全席指定)
当日 S席 6,700円 A席 4,700円 (全席指定)
SePT倶楽部会員 S席のみ: 5,600円
世田谷区民 S席のみ: 5,900円
(クレジットカードセンターで前売のみ取扱い)

前売り取扱所
電子チケットひら / 0570-02-9999 (Pコード: 371-569) - <http://pia.jp/t/>
ローソクチケット / 0570-000-407 / 0570-084-003 (Lコード: 35307)
イープラス / <http://eplus.jp/>
くりっくチケットセンター / 03-5432-1515



※開演: 開演の30分前 / 当日券の発行: 開演の1時間前

共催: 世田谷パブリックシアター 後援: TOKYO FM 企画・製作: (株) シリーワーク TEL: 03-5458-9261

